

川崎市総合計画第1期実施計画 政策体系図

基本政策	政策	施策	事務事業(○は本計画に掲載している主な事務事業)
	政策 4-8	スポーツ・文化芸術を振興する	
		施策 4-8-1 スポーツのまちづくりの推進	
			○ 市民スポーツ推進事業
			○ 地域スポーツ推進事業
			○ 競技スポーツ大会開催・支援事業
			○ ホームタウンスポーツ推進事業
			○ スポーツセンター等管理運営事業
			○ スポーツ・文化総合センター整備・運営事業
			○ 東京オリンピック・パラリンピック推進事業
		施策 4-8-2 市民の文化芸術活動の振興	
			○ 市民文化活動支援事業
			○ 文化財保護・活用事業
			○ 東海道かわさき宿交流館管理運営事業
			○ 市民ミュージアム管理運営事業
			○ 大山街道ふるさと館管理運営事業
			○ 市民プラザ管理運営事業
			○ 橘樹官衙遺跡群保存整備・活用事業
			○ 藤子・F・不二雄ミュージアム事業
			○ 岡本太郎美術館管理運営事業
			○ 日本民家園管理運営事業
			○ 青少年科学館管理運営事業
	○ アートセンター管理運営事業		
施策 4-8-3 音楽や映像のまちづくりの推進			
	○ 音楽のまちづくり推進事業		
	○ 川崎シンフォニーホール管理運営事業		
	○ 映像のまち・かわさき推進事業		

施策評価シート(第1期実施計画 中間評価)

1 施策の概要					
政策体系上の位置づけ	基本政策(1層)	活力と魅力あふれる力強い都市づくり			
	政策(2層)	スポーツ・文化芸術を振興する	計画当初値(H27年)	直近実績値(H28年度)	最終目標値(H37年)
	市民実感指標	① スポーツの盛んなまちだと思ふ市民の割合 ② 文化・芸術活動の盛んなまちだと思ふ市民の割合	47.6%	53.9%	55.0%
施策(3層)	施策コード	施策名			
	40801000	スポーツのまちづくりの推進			
担当	組織コード	所属名			
	257000	市民文化局市民スポーツ室			
関係課	市民文化局市民生活部企画課、市民文化局オリンピック・パラリンピック推進室				
施策の概要	<p>●健康志向が高まる中、スポーツを身近に感じ、生涯にわたってスポーツを元気に楽しめるよう、スポーツに参加する機会を促進するとともに、スポーツを通して仲間とふれあい、地域での交流や健康づくりが楽しめるよう、地域のスポーツ活動や総合型地域スポーツクラブの設立・育成を支援します。</p> <p>●国際大会等の開催や競技スポーツ活動への支援を通じ、トップアスリートのプレーを間近に観ることで、市民が感動と興奮を感じ、自らもスポーツをはじめのきっかけづくりにつなげるとともに、川崎で活躍するトップチーム・トップアスリートと連携しながら、スポーツを通して市民が川崎の魅力を楽しむことのできるスポーツのまちづくりを進めます。</p> <p>●東京2020オリンピック・パラリンピックは、本市の「まちづくり」「ひとづくり」「都市の魅力向上」などを進める絶好の機会です。大会の開催に向け、オリンピック・パラリンピック競技種目の認知度を向上するためのイベント開催等による機運の醸成やボランティアの養成、内外からの来訪者に対応したおもてなしの取組などさまざまな準備を進めます。また、この大会への取組を通じて、市民がスポーツを身近に感じられるよう、誰もが楽しむことができるスポーツの普及促進により、市民の健康づくりを進めます。</p>				
直接目標	スポーツを身近に感じ、楽しむ市民を増やす				

2 成果指標やその他成果などの状況と成果の分析								
実施計画に位置付けた指標名(指標の説明)			現状値(年度)	目標・実績	H28年度	H29年度	単位	
成果指標	1	週1回以上のスポーツ実施率	34.8	目標値(a) 実績値(b)	35.6 42.9	36	%	
		指標の説明 市民アンケート(無作為抽出3,000人)の週1回以上スポーツをする人の割合	H27	達成率(b)/(a) 指標達成度※1	120.5% a	-	増減	
	2	年1回以上の直接観戦率	30.4	目標値(a) 実績値(b)	30.8 29.8	31	%	
		指標の説明 市民アンケート(無作為抽出3,000人)の年1回以上スポーツの観戦をする人の割合	H27	達成率(b)/(a) 指標達成度※1	96.8% c	-	増減	
3	スポーツを支える活動に年1回以上参加した人の割合	5.7	目標値(a) 実績値(b)	5.9 4.2	6	%		
	指標の説明 市民アンケート(無作為抽出3,000人)の年1回以上参加した人の割合	H27	達成率(b)/(a) 指標達成度※1	71.2% c	-	増減		
4	スポーツセンター等施設利用者数	261.8	目標値(a) 実績値(b)	246.5 259.9	263	万人		
	指標の説明 スポーツセンター等施設(8か所)における利用者数の実績報告の合計値※H28年度の目標値については、現在建替中の川崎市体育館の利用者数(H25年度の利用実績から算出)を除いています。	H26	達成率(b)/(a) 指標達成度※1	105.4% a	-	増減		
その他数値で把握できる補足指標(指標の説明)				実績	H27年度	H28年度	H29年度	単位
1	指標の説明			実績				
2	指標の説明			実績				
その他 定性的な成果 (取組を進めたこと で発現した効果など について記載)		●かわさきスポーツパートナーが各リーグ戦や日本選手権大会などで好成績を上げたことにより、メディアに多く取り上げられ、平成28年の川崎市10大ニュースに川崎フロンターレ関係のニュースが3位に選ばれるなど、市民がスポーツを身近に感じることができる環境づくりに成果がありました。						
指標等の 成果分析 (指標の目標値達成 を阻む外的要因等 を含めて記載)		<p>●週1回以上のスポーツ実施率は、目標値を大きく上回って達成しており、順調に推移しています。これは、スポーツに関連する各事業の成果のほか、社会状況として、市民の健康づくりへの関心が高まっていることや、リオデジャネイロオリンピック・パラリンピック競技大会が開催されたことによるスポーツに対する機運の上昇により、実施率の向上につながったと考えます。</p> <p>●スポーツ観戦率については、平成28年度は川崎フロンターレの年間を通じた好成績、リオ五輪開催により、Jリーグホームゲームやゴールデングランプリ陸上の観客動員数は好調(対前年増)であったにもかかわらず、アンケート結果は対前年微減となりました。年代別、区別のクロス集計の結果をみると、年代別では、40・50代で積極的回答の割合が高く、区別では、中原区において積極的回答の割合が高く、一方、多摩区、麻生区において、積極的回答の割合が低くなっています。</p> <p>●スポーツを支える活動に年1回以上参加した人の割合について、具体的に取り組んでいる活動としては、野球やサッカーのコーチ、地域の運動会への参加などの回答が見受けられます。消極的(活動を知っているが、活動にかかわったことはない(興味はある))の中で多い回答として、時間や機会がなく参加できない、参加の仕方がわからないなどの意見が見受けられます。年代別、区別のクロス集計の結果をみると、年代別では、60・70代で、積極的回答の割合が高く、区別では、多摩区、高津区において、積極的回答の割合が低くなっています。</p>						

※1 指標達成度の目安【a. 目標値以上(100%以上)、b. 現状値以上～目標値未満、c. 目標達成率60%以上～現状値未満、d. 目標達成率60%未満】

※2 指標達成度の目安【a. 目標値以上(100%以上)、b. 個別設定値(「指標の説明」欄に記載)以上～目標値未満、c. 目標達成率60%以上～個別設定値未満、d. 目標達成率60%未満】

3 施策を構成する主な事務事業の評価									
番号	事務事業コード 事務事業名	サービス分類	事務事業の概要 (簡潔に記載)	主な取組の実績	事業費(千円)		事業の達成度	施策への貢献度	今後の事業の方向性
					予算額	決算額			
					H27年度				
					H28年度(※決算額は見込) H29年度				
1	40801010 市民スポーツ推進事業	参加・協働の場	市民がスポーツに参加する機会を増やし、元気に楽しめる環境づくりを進めます。	●市民大会等各種スポーツ大会の開催(市民大会 53回) ●市内の企業等の所有するスポーツ施設の開放事業の実施 ●スポーツ関係団体等と協働・連携したスポーツ活動への市民の参加促進(川崎市スポーツ協会・川崎市レクリエーション連盟) ●スポーツ推進計画の推進(進捗管理等)	19,007	18,622	3	A 貢献している	Ⅲ 事業規模拡大
					18,360	18,086			
					75,420				
2	40801020 地域スポーツ推進事業	参加・協働の場	スポーツを通し仲間とふれあい、地域での交流が楽しめるよう、地域活動の支援や総合型地域スポーツクラブの育成を支援します。	●スポーツ推進委員による地域スポーツ活動の支援 ●総合型地域スポーツクラブの活動・設立支援(麻生区に1つ新設)	13,597	13,071	3	A 貢献している	Ⅱ 改善しながら継続
					12,902	12,185			
					13,263				
3	40801030 競技スポーツ大会開催・支援事業	イベント等	国際大会等の開催や競技スポーツ活動の支援を通じ、市民がスポーツを観る、支える楽しみを感じ、自らもスポーツに参加する取組を進めます。	●国際陸上競技大会「ゴールデングランプリ陸上川崎大会」の開催(入場者数23,500人) ●川崎国際多摩川マラソンの開催(参加人数6,145人) ●多摩川リバーサイド駅伝の開催(参加人数4,679人) ●国際トランポリンジャパンオープン開催	66,619	66,356	2	A 貢献している	Ⅰ 現状のまま継続
					63,019	62,267			
					67,035				
4	40801040 ホームタウンスポーツ推進事業	参加・協働の場	本市をホームタウンとして活躍するトップチームやトップアスリートをかわさきスポーツパートナーに認定するなど、多様な主体と協働・連携しながらスポーツを通して本市の魅力・活力を高めるまちづくりを進めます。	●かわさきスポーツパートナー等による、ふれあいスポーツ教室等の開催(156回) ●かわさきスポーツパートナー等の各試合への市民招待の実施(3,951人)	36,058	35,380	3	A 貢献している	Ⅰ 現状のまま継続
					39,642	36,238			
					37,177				
5	40801050 スポーツセンター等管理運営事業	施設の管理・運営	市民の心身の健全な発達やスポーツの普及に向け、スポーツセンター等の運営を通じて、身近な場所でスポーツに親しめる環境づくりに取り組みます。	●スポーツセンター等の体育室・トレーニング室などの利用提供の推進 ●生涯スポーツの推進に向けたスポーツ教室及びイベント等の実施 ●施設の長寿命化に向けた修繕計画に基づく工事の実施	736,223	726,080	3	A 貢献している	Ⅲ 事業規模拡大
					907,454	799,614			
					619,996				
6	40801060 スポーツ・文化総合センター整備・運営事業	施設の管理・運営	富士見公園の整備に合わせ、都心にふさわしいスポーツ・文化・レクリエーション活動の拠点機能の強化を図るため、スポーツ・文化総合センターの整備を推進します。	●スポーツ・文化総合センターの整備推進 ●平成29年10月のオープンに向けたホールの利用予約を開始 ●愛称募集の実施	8,984	7,329	3	B やや貢献している	Ⅰ 現状のまま継続
					6,467	6,272			
					14,058,035				
7	40801070 東京オリンピック・パラリンピック推進事業	その他	2020東京オリンピック・パラリンピックの開催に向けて、大会運営支援をはじめ、大会を契機として本市への愛着を育み、誰もが暮らしやすいまちづくりにつながる「かわさきパラムーブメント」の取組を推進します。	●「かわさきパラムーブメント」の理念の浸透に向けた、シンポジウムの開催(1回)や特設サイト、動画などの広報物の製作 ●障害者スポーツ体験講座「やってみるキャラバン」を市内小学校、地域の寺子屋などで実施(24回)	3,000	4,030	3	A 貢献している	Ⅲ 事業規模拡大
					50,000	43,080			
					59,809				
8									
9									
10									

4 施策の進捗状況			
施策の進捗状況 (指標等の成果を中心に施策を構成する事務事業の評価等から総合的に評価)	区分	選択区分	進捗状況区分を選択した理由
		A. 順調に推移 (目標達成している) B. 一定の進捗がある (目標達成に向けて進捗している) C. 進捗は遅れている (目標達成が遅れる可能性がある) D. 進捗は大幅に遅れている (目標達成が難しい可能性がある)	B

5 今後の方向性			
今後の事業構成の妥当性 (手段は妥当か?)	区分	選択区分	「事業構成の妥当性を選択した理由」及び「今後の方向性」
		I. 効果的な事業構成である (現状のまま継続する) II. 概ね効果的な構成である (一部見直し等の余地がある) III. あまり効果的な事業構成でない (見直し等の余地が大きい) IV. 事業構成に問題がある (抜本的な見直し等が必要である)	II

平成28年度 事務事業評価シート

事業の概要

事務事業	事務事業コード	事務事業名				実施計画の記載			
	40801010	市民スポーツ推進事業				有			
担当	所属コード	所属名							
	257000	市民文化局市民スポーツ室							
実施期間	事業開始年度	事業終了年度	事務・サービス等の分類	分類1(市民サービス等)	分類2(内部事務)				
	—	—		参加・協働の場	政策推進計画等(策定・進行管理)				
実施形態	<input checked="" type="checkbox"/> 市が直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 全部委託・指定管理 <input checked="" type="checkbox"/> ボランティア等との協働 <input type="checkbox"/> その他								
実施根拠	<input type="checkbox"/> 国・県の制度 <input checked="" type="checkbox"/> 国・県の制度+市独自の制度 <input type="checkbox"/> 市独自の制度								
(法令・要綱等)	スポーツ基本法								
総合計画と連携する計画等	スポーツ推進計画								
行財政改革プログラムに関連する課題名	改革項目			課題名					
	3(4) 地域人材の発掘・育成			1 スポーツ大会を通じたボランティア人材の育成					
予決算 (単位:千円)	年度	H27年度		H28年度		H29年度			
		予算額	決算額	予算額	決算額(見込)	計画事業費	予算額	決算額	
	財源内訳	事業費 A	19,007	18,622	18,360	18,086	25,212	75,420	
		国庫支出金	0	—	0	—	0	6,295	
		市債	0	—	0	—	0	0	
		その他特財	1,000	—	990	—	990	5,058	
	一般財源	18,007	—	17,370	—	24,222	64,067		
人件費* B			31,206	31,206	0	0	0		
総コスト(A+B)			49,566	49,292	25,212	75,420	0		
人工(単位:人)			3.68						

※ 人件費は、各年度の予算における職員1人当たり人件費に、各年度の人工を乗じて算出した参考値です。

計画 (Plan)

政策体系	政策	スポーツ・文化芸術を振興する
	施策	スポーツのまちづくりの推進
	直接目標	スポーツを身近に感じ、楽しむ市民を増やす
事業の対象 (事業の対象となる人、物)	市民	
事業の目的 (対象をどのような状態にしたいか)	スポーツを身近に楽しむことができ、生涯にわたってスポーツを元気に楽しむことができるまちをつくれます。	
事業の内容 (どういった業務内容で、どのような手段で実施しているか)	市民が日頃からスポーツに接することができる機会を提供するため、スポーツ関係団体や企業等と連携し、多くの方が気軽に参加できる各種スポーツ事業、レクリエーション事業等を実施します。	
今年度の事業の取組内容 (具体的に今年度どのような活動をするのか)	①市民大会等各種スポーツ大会の開催 ②市内の企業等の所有するスポーツ施設の開放事業の実施 ③スポーツ関係団体等と協働・連携したスポーツ活動への市民の参加促進 ・川崎市スポーツ協会との連携、川崎市レクリエーション連盟との連携 ④スポーツ推進計画の進捗管理等	

実施結果 (Do)

上記「今年度の事業の取組内容」に対する達成度	3	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った				
取組内容の実績等 (上記「当該年度の取組内容」に対し、「数値等でより具体的に実績を示すことができる取組」、又は「未達成部分」若しくは「より達成できた部分」を記載)	目標どおり達成できました。					
指標分類	数値で事業の実績・効果等を把握できる指標 (指標の説明)	目標・実績	H27年度	H28年度	H29年度	単位
1	活動指標 市民大会等各種スポーツ大会の開催	目標		53	53	回
		実績	53	53		
2	説明	目標				
		実績				
3	説明	目標				
		実績				
4	説明	目標				
		実績				

評価 (Check)

事業を取り巻く社会環境の変化 (国・県・他団体の動向や法改正、規制緩和など)	東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催に向けて川崎市民・国民のスポーツへの関心がかつてないほど高まっています。また国においてもスポーツ庁が設置され各種スポーツ施策の強化が打ち出されており、地方自治体においてもスポーツ施策の更なる充実を図ることが求められています。
事業の見直し・改善内容	<input checked="" type="checkbox"/> 実施 (直近) H 28 年度 <input type="checkbox"/> 未実施
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載	平成28年度:川崎市スポーツ推進計画について、「東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催決定」等社会情勢の変化に適切に対応し、関連計画との整合を図るため、計画の改定に着手しました。 平成24年度:川崎市スポーツ推進計画の策定

評価項目		評価	
必要性	【市民のニーズ】 事業を取り巻く環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか?	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	【市が実施する必要性】 他都市で、民間等でサービス提供している事例がないか?	a. ない b. ある	a
	評価の理由	市民にスポーツに親しむ機会を提供していくことは、スポーツを推進する上で重要であり、各種スポーツ大会の開催や市内の企業等の所有するスポーツ施設の開放事業の実施によりスポーツに参加する機会の提供や、スポーツを行う場の確保をしていくことが必要です。	
有効性	【成果】 活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか?	a. 上がっている b. 徐々に上がっている c. 上がっていない	b
	評価の理由	市民大会を開催し、市民がスポーツに参加する機会を提供することにより、スポーツの実施に繋がっています。	
効率性	【民間の活用】 委託や指定管理者制度など、実施手法について民間活用によりコストを削減できる余地があるか?	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	c
	【事業手法等の見直し】 事業の成果を維持しながら、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性はあるか?	a. 可能性はない b. 可能性はある	a
	【質の向上】 事業を適正な(過小でも、過大でもない)規模の人員体制・費用で行いながら、市民サービスや市役所内部(職員・組織)の質の向上を図ることができる余地があるか?	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	c
	評価の理由	・各種スポーツ大会の実施については、スポーツ関係団体と連携して実施することで、参加者のニーズに合わせた大会の運営やコストの削減ができています。 ・民間で所有している施設の有効活用を図るため、市内の企業等の所有するスポーツ施設の開放事業を行っています。	
施策への貢献度	貢献度区分	上記「有効性」の成果等を踏まえ左記区分を選んだ理由	
	A. 貢献している B. やや貢献している C. 貢献の度合いが薄い	A	市民が身近にスポーツに接する機会の提供として、多種多様な種目を展開するだけでなく、幅広い年代層が参加できるように、各種スポーツ大会を実施するとともに、各団体と連携を図りながら、スポーツの場の確保にも取り組んでいることから、スポーツのまちづくりの推進に貢献をしています。



改善 (Action)

今後の事業の方向性	方向性区分	実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性
	I. 現状のまま継続 II. 改善しながら継続 III. 事業規模拡大 IV. 事業規模縮小 V. 事業廃止 VI. 事業終了	III
今後の事業の方向性を踏まえた次年度の計画上の変更箇所	変更前 (次年度計画上の記載)	①市民大会等各種スポーツ大会の開催 ②市内の企業等の所有するスポーツ施設の開放事業の実施 ③スポーツ関係団体等と協働・連携したスポーツ活動への市民の参加促進 ・川崎市スポーツ協会との連携、川崎市レクリエーション連盟との連携 ④スポーツ推進計画の進捗管理等 ※政策1-4【障害者社会参加促進事業】障害者スポーツ大会の開催、障害者スポーツ協会の運営支援、障害者スポーツ協会と連携した障害者スポーツ振興に向けた取組の推進、障害者スポーツ振興に向けた取組の推進 ※政策4-8【東京オリンピック・パラリンピック推進事業】障害者スポーツ体験講座の実施
	変更後 (上記計画上の記載に対する変更点)	⑤障害者スポーツ大会の開催、障害者スポーツ協会の運営支援、障害者スポーツ協会と連携した障害者スポーツ振興に向けた取組の推進、障害者スポーツ体験講座の実施【障害者社会参加促進事業、東京オリンピック・パラリンピック推進事業から移行】
	変更の理由	⑤については、市の政策として、障害者スポーツをスポーツ施策の一環として推進することになったことから、計画の見直しを行ったことによります。

平成28年度 事務事業評価シート

事業の概要

事務事業	事務事業コード	事務事業名				実施計画の記載			
	40801020	地域スポーツ推進事業				有			
担当	所属コード	所属名							
	257000	市民文化局市民スポーツ室							
実施期間	事業開始年度	事業終了年度	事務・サービス等の分類	分類1(市民サービス等)	分類2(内部事務)				
	—	—		参加・協働の場	その他				
実施形態	<input checked="" type="checkbox"/> 市が直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 全部委託・指定管理 <input checked="" type="checkbox"/> ボランティア等との協働 <input type="checkbox"/> その他								
実施根拠	<input type="checkbox"/> 国・県の制度 <input checked="" type="checkbox"/> 国・県の制度+市独自の制度 <input type="checkbox"/> 市独自の制度 (法令・要綱等) スポーツ基本法、スポーツ推進委員規則								
総合計画と連携する計画等	スポーツ推進計画								
行財政改革プログラムに関連する課題名	改革項目			課題名					
予決算 (単位:千円)	年度	H27年度		H28年度		H29年度			
		予算額	決算額	予算額	決算額(見込)	計画事業費	予算額	決算額	
	財源内訳	事業費 A		13,597	13,071	12,902	12,185	12,942	13,263
		国庫支出金	0	—	0	—	0	0	0
		市債	0	—	0	—	0	0	0
		その他特財	0	—	0	—	0	0	0
	一般財源	13,597	—	12,902	—	12,942	13,263		
人件費* B				87,853	87,853	0	0	0	
総コスト(A+B)				100,755	100,038	12,942	13,263	0	
人工(単位:人)				10.36					

※ 人件費は、各年度の予算における職員1人当たり人件費に、各年度の人工を乗じて算出した参考値です。

計画 (Plan)

政策体系	政策 施策	スポーツ・文化芸術を振興する スポーツのまちづくりの推進
	直接目標	スポーツを身近に感じ、楽しむ市民を増やす
事業の対象 (事業の対象となる人、物)	市民	
事業の目的 (対象をどのような状態にしたいか)	スポーツを通して仲間とふれあい、地域での交流を楽しめるまちづくりを進めます。	
事業の内容 (どういった業務内容で、どのような手段で実施しているか)	スポーツ推進委員と連携・協力し、地域の住民・区民が参加できるスポーツ事業の開催や、総合型地域スポーツクラブの育成支援などに取り組みます。	
今年度の事業の取組内容 (具体的に今年度どのような活動をするのか)	①スポーツ推進委員による地域スポーツ活動の支援 ②同じ地域の住民が会員となって自主的に運営する総合型地域スポーツクラブの活動・設立支援(10クラブ)	

実施結果 (Do)

上記「今年度の事業の取組内容」に対する達成度	3	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った				
取組内容の実績等 (上記「当該年度の取組内容」に対し、「数値等でより具体的に実績を示すことができる取組」、又は「未達成部分」若しくは「より達成できた部分」を記載)	目標どおり達成できました。 総合型地域スポーツクラブについて、麻生区に1つ新規クラブが設立され、11クラブとなりました。					
指標分類	数値で事業の実績・効果等を把握できる指標 (指標の説明)	目標・実績	H27年度	H28年度	H29年度	単位
1	説明	目標				
		実績				
2	説明	目標				
		実績				
3	説明	目標				
		実績				
4	説明	目標				
		実績				

評価 (Check)

事業を取り巻く社会環境の変化 (国・県・他団体の動向や法改正、規制緩和など)	東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催に向けて川崎市民・国民のスポーツへの関心がかつてないほど高まっています。このような状況のなか、スポーツに参加・実践する機会として、地域におけるスポーツ活動の重要性は更に増えています。
事業の見直し・改善内容	<input checked="" type="checkbox"/> 実施 (直近) H 28 年度 <input type="checkbox"/> 未実施
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載	H28年度:「川崎市スポーツ推進委員連絡協議会」の活動経費について、その特性等を踏まえ、市が直接執行すべき経費と団体事業費を区分・整理を行い、団体事業費については補助金として交付するように予算執行方法の見直しを行いました。

評価項目		評価	
必要性	【市民のニーズ】 事業を取り巻く環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか？	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	【市が実施する必要性】 他都市で、民間等でサービス提供している事例がないか？	a. ない b. ある	a
	評価の理由	市民がスポーツに参加する機会を提供していくうえで、地域におけるスポーツ活動は重要であり、地域スポーツにおける担い手のスポーツ推進委員や拠点としての総合型地域スポーツクラブの活動を支援していく必要があります。	
有効性	【成果】 活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか？	a. 上がっている b. 徐々に上がっている c. 上がっていない	b
	評価の理由	市民の週1回以上のスポーツ実施率の上昇には、スポーツ推進委員や総合型地域スポーツクラブにおける、地域の特性や住民のニーズを的確に捉え地域に根差した、スポーツ活動が不可欠であり、スポーツ実施率が上昇していることから、成果が徐々に上がっていると考えられます。	
効率性	【民間の活用】 委託や指定管理者制度など、実施手法について民間活用によりコストを削減できる余地があるか？	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	c
	【事業手法等の見直し】 事業の成果を維持しながら、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性はあるか？	a. 可能性はない b. 可能性はある	a
	【質の向上】 事業を適正な(過小でも、過大でもない)規模の人員体制・費用で行いながら、市民サービスや市役所内部(職員・組織)の質の向上を図ることができる余地があるか？	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	c
	評価の理由	スポーツ推進委員や総合型地域スポーツクラブの活動や運営の支援については、予算執行方法や事務手続きの見直しなど、取り組める改善は既に実施しています。	

施策への貢献度	貢献度区分	上記「有効性」の成果等を踏まえ左記区分を選んだ理由
	A. 貢献している B. やや貢献している C. 貢献の度合いが薄い	A

改善 (Action)

今後の事業の方向性	方向性区分	実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性
	I. 現状のまま継続 II. 改善しながら継続 III. 事業規模拡大 IV. 事業規模縮小 V. 事業廃止 VI. 事業終了	II
今後の事業の方向性を踏まえた次年度の計画上的変更箇所	変更前 (次年度計画上の記載)	
	変更後 (上記計画上の記載に対する変更点)	
	変更の理由	

平成28年度 事務事業評価シート

事業の概要

事務事業	事務事業コード	事務事業名				実施計画の記載		
	40801030	競技スポーツ大会開催・支援事業				有		
担当	所属コード	所属名						
	257000	市民文化局市民スポーツ室						
実施期間	事業開始年度	事業終了年度	事務・サービス等の分類	分類1(市民サービス等)	分類2(内部事務)			
	—	—	イベント等	—	—			
実施形態	<input checked="" type="checkbox"/> 市が直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 全部委託・指定管理 <input checked="" type="checkbox"/> ボランティア等との協働 <input type="checkbox"/> その他							
実施根拠	<input type="checkbox"/> 国・県の制度 <input type="checkbox"/> 国・県の制度+市独自の制度 <input checked="" type="checkbox"/> 市独自の制度							
(法令・要綱等)	スポーツ基本法							
総合計画と連携する計画等	国際施策推進プラン、スポーツ推進計画、シティプロモーション戦略プラン							
行財政改革プログラムに関連する課題名	改革項目			課題名				
	1(1) 多様な主体が共に担うまちづくりの推進			4 スポーツ大会を通じた多様な主体の連携				
予決算 (単位:千円)	年度	H27年度		H28年度		H29年度		
		予算額	決算額	予算額	決算額(見込)	計画事業費	予算額	決算額
	財源内訳	事業費 A	66,619	66,356	63,019	62,267	62,595	67,035
		国庫支出金	0	—	0	—	0	0
		市債	0	—	0	—	0	0
		その他特財	12,000	—	12,000	—	12,000	10,081
	一般財源	54,619	—	51,019	—	50,595	56,954	
人件費* B			24,168	24,168	0	0	0	
総コスト(A+B)			87,187	86,435	62,595	67,035	0	
人工(単位:人)			2.85					

※ 人件費は、各年度の予算における職員1人当たり人件費に、各年度の人工を乗じて算出した参考値です。

計画 (Plan)

政策体系	政策	スポーツ・文化芸術を振興する
	施策	スポーツのまちづくりの推進
	直接目標	スポーツを身近に感じ、楽しむ市民を増やす
事業の対象 (事業の対象となる人、物)	市民	
事業の目的 (対象をどのような状態にしたいか)	スポーツを「する、観る、支える」など、スポーツの楽しさ、魅力を市民が多様な形で享受できるようにするとともに、スポーツの持つ高い発信力、訴求力等を活かして、多様な主体が連携することができるようにします。	
事業の内容 (どういった業務内容で、どのような手段で実施しているか)	市民が「する、観る、支える」など、多様な形でスポーツの楽しさ魅力に触れ、多くの方が気軽に参加できる大規模スポーツ大会を実施します。	
今年度の事業の取組内容 (具体的に今年度どのような活動をするのか)	①国際陸上競技大会「ゴールデングランプリ陸上川崎大会」の開催 ②川崎国際多摩川マラソンの開催 ③多摩川リバーサイド駅伝の開催 ④国際トランポリンジャパンオープンの開催	

実施結果 (Do)

上記「今年度の事業の取組内容」に対する達成度	2	1. 目標を大きく上回って達成 4. 目標を下回った 2. 目標を上回って達成 5. 目標を大きく下回った 3. ほぼ目標どおり
取組内容の実績等 (上記「当該年度の取組内容」に対し、「数値等でより具体的に実績を示すことができる取組」、又は「未達成部分」若しくは「より達成できた部分」を記載)	○国際陸上競技大会「ゴールデングランプリ陸上川崎大会」をリオデジャネイロオリンピックの選考会の1つとして開催し、注目選手が出場したことに加え、市独自の取り組みとして、以下の内容に取り組みました。 ・市民招待を全市向け、中原区向けおよび、中学校陸上競技部向けに細分化し実施しました。 ・運動会シーズン前に、市内小学生を対象に広く広報を行いイベントを実施し、大会の周知を行いました。 ・市内小学生や障がい者が参加できるよう、広く広報を行いイベントを実施しました。また、イベント参加者と保護者がそのまま大会の観戦をすることができるようにチケットを配布しました。 ・市政だよりでの特集記事や学校関係、官庁施設、スポーツ施設へのチラシ配布、川崎駅前のポスター掲示など市民に広く広報しました。 その結果、目標の18,000人を大きく上回る23,500人の入場者を得ることができました。	

指標分類	数値で事業の実績・効果等を把握できる指標 (指標の説明)		目標・実績	H27年度	H28年度	H29年度	単位
1 成果指標	国際陸上競技大会「ゴールデングランプリ陸上川崎大会」の入場者数	説明	目標		18,000	21,000	人
		川崎市等々力陸上競技場で開催する国内最高峰の国際陸上競技大会で、3年間の開催期間で20,000人の観客動員を目標としています。(過去に等々力陸上競技場で開催した、同大会の観客動員数が20,600人であったことから目標として設定しました。)	実績	16,000	23,500		
2	説明	目標					
		実績					
3	説明	目標					
		実績					
4	説明	目標					
		実績					

評価 (Check)

事業を取り巻く社会環境の変化 (国・県・他団体の動向や法改正、規制緩和など)	東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催に向け、川崎市民・国民のスポーツへの関心が高まっています。誰もがスポーツに参加し、スポーツの楽しさを味わうことができるという活動を推進する中で、本市主催のスポーツ大会では、障害のあるなしに関わらず、大会運営ボランティアとして活動することで多様な主体が連携することができるようにします。
事業の見直し・改善内容	<input checked="" type="checkbox"/> 実施 (直近) H 28 年度 <input type="checkbox"/> 未実施
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載	平成28年度: 救護ボランティアをマラソン大会で8名、駅伝大会で3名導入しました。また、企業ボランティアをマラソン大会で58名、駅伝大会で21名に拡充しました。 平成27年度: 障害者ボランティアの導入について、マラソン大会(18名)、駅伝大会(15名)と受け入れの拡充を行いました。 平成26年度: 多様な主体が連携して運営に携わる取組として、マラソン大会において、障害のある方をボランティア(14名)として大会運営に導入し、駅伝大会(12名)においてもマラソンと同様に導入しました。

評価項目		評価	
必要性	【市民のニーズ】 事業を取り巻く環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか?	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	【市が実施する必要性】 他都市で、民間等でサービス提供している事例がないか?	a. ない b. ある	a
	評価の理由	スポーツは、「する」だけでなく「観る、支える」活動も重要であり、競技スポーツ大会の実施により、誰もがスポーツの「する、観る、支える」活動に参加できる機会を提供していくことが必要です。	
有効性	【成果】 活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか?	a. 上がっている b. 徐々に上がっている c. 上がっていない	a
	評価の理由	国際陸上競技大会「ゴールドングランプリ陸上川崎大会」の入場者が目標を上回り、多くの人にスポーツを「観る」機会を提供することができました。	
効率性	【民間の活用】 委託や指定管理者制度など、実施手法について民間活用によりコストを削減できる余地があるか?	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	c
	【事業手法等の見直し】 事業の成果を維持しながら、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性はあるか?	a. 可能性はない b. 可能性はある	b
	【質の向上】 事業を適正な(過小でも、過大でもない)規模の人員体制・費用で行いながら、市民サービスや市役所内部(職員・組織)の質の向上を図ることができる余地があるか?	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	c
	評価の理由	<ul style="list-style-type: none"> 各大会の開催において、設営等の民間に委託できる部分については委託しています。委託の業務内容についても、前回の開催内容を踏まえて業務内容の見直しを開催の都度実施し、参加者の安全対策の充実に合わせて経費削減を行っています。 新規協賛企業の獲得によって収入を増やすなど経費削減に向けた取組が可能です。 	
施策への貢献度	貢献度区分		上記「有効性」の成果等を踏まえ左記区分を選んだ理由
	A. 貢献している B. やや貢献している C. 貢献の度合いが薄い	A	「国際陸上競技大会ゴールドングランプリ川崎」および「国際トランポリンジャパンオープン」の開催により、トップレベルの競技を「観る」こと、「川崎国際多摩川マラソン」および「多摩川リバーサイド駅伝」の開催により、「する」だけでなく、「支える」活動として、障がいのある方のボランティアスタッフとしての交流を実施するなど、市民がスポーツに触れる機会を提供しており、スポーツのまちづくりに貢献しています。

改善 (Action)

今後の事業の方向性	方向性区分		実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性
	I. 現状のまま継続 II. 改善しながら継続 III. 事業規模拡大 IV. 事業規模縮小 V. 事業廃止 VI. 事業終了	I	
今後の事業の方向性を踏まえた次年度の計画上の変更箇所	変更前 (次年度計画上の記載)		
	変更後 (上記計画上の記載に対する変更点)		
	変更の理由		

平成28年度 事務事業評価シート

事業の概要

事務事業	事務事業コード	事務事業名				実施計画の記載		
	40801040	ホームタウンスポーツ推進事業				有		
担当	所属コード	所属名						
	257000	市民文化局市民スポーツ室						
実施期間	事業開始年度	事業終了年度	事務・サービス等の分類	分類1(市民サービス等)	分類2(内部事務)			
	平成16年度	—	参加・協働の場	—				
実施形態	<input checked="" type="checkbox"/> 市が直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 全部委託・指定管理 <input checked="" type="checkbox"/> ボランティア等との協働 <input type="checkbox"/> その他							
実施根拠	<input type="checkbox"/> 国・県の制度 <input type="checkbox"/> 国・県の制度+市独自の制度 <input checked="" type="checkbox"/> 市独自の制度 (法令・要綱等) スポーツ基本法、かわさきスポーツパートナー等設置要綱							
総合計画と連携する計画等	スポーツ推進計画、シティプロモーション戦略プラン、新・かわさき観光振興プラン							
行財政改革プログラムに関連する課題名	改革項目			課題名				
	1(1)多様な主体が共に担うまちづくりの推進			4 スポーツ大会を通じた多様な主体の連携				
予決算 (単位:千円)	年度	H27年度		H28年度		H29年度		
		予算額	決算額	予算額	決算額(見込)	計画事業費	予算額	決算額
	財源内訳	事業費 A	36,058	35,380	39,642	36,238	34,642	37,177
		国庫支出金	0	—	0	—	0	0
		市債	0	—	0	—	0	0
		その他特財	0	—	3,500	—	0	500
		一般財源	36,058	—	36,142	—	34,642	36,677
人件費* B			31,376	31,376	0	0	0	
総コスト(A+B)			71,018	67,614	34,642	37,177	0	
人工(単位:人)			3.7					

※ 人件費は、各年度の予算における職員1人当たり人件費に、各年度の人工を乗じて算出した参考値です。

計画 (Plan)

政策体系	政策	スポーツ・文化芸術を振興する
	施策	スポーツのまちづくりの推進
	直接目標	スポーツを身近に感じ、楽しむ市民を増やす
事業の対象 (事業の対象となる人、物)	市民及び市を訪れる人々	
事業の目的 (対象をどのような状態にしたいか)	川崎で活躍するトップアスリートと連携しながら、地域活動や地域の活力を高める取組みを推進し、スポーツを通して市民や市を訪れる人々が川崎の魅力を楽しめることのできるまちを目指します。	
事業の内容 (どういった業務内容で、どのような手段で実施しているか)	認定されたかわさきスポーツパートナーや、多様な主体と協働・連携しながら、市民招待や小学校での巡回教室などハイレベルなスポーツの魅力を感じることのできる事業や、パートナーの地域貢献活動などを通じ地域を活性化する取組みを実施します。	
今年度の事業の取組内容 (具体的に今年度どのような活動をするのか)	①かわさきスポーツパートナーの活動による本市の魅力発信 ・市広報媒体の活用等を通じたかわさきスポーツパートナー等のPR実施 ・かわさきスポーツパートナー等によるふれあいスポーツ教室の開催(開催回数:36回以上) ・ホームゲーム等や市内で開催する公式戦への市民招待の実施及び開催の支援(招待者数:670人以上) ・かわさきスポーツパートナー等による地域イベント、地域貢献活動への参加促進 ②Jリーグクラブと連携した魅力ある地域づくりの推進 ・川崎フロンターレ後援会との連携による、市民認知度向上の取組の推進 ・川崎フロンターレと連携した市制記念試合への市民招待の実施(招待者数:2,000人) ・川崎フロンターレによる小・中学校等での巡回サッカー教室の実施(開催回数:120回以上) ・川崎フロンターレによる地域イベント、地域貢献活動への参加促進 ③アメリカンフットボールを活用したまちづくりの推進 ・「アメリカンフットボールを活用したまちづくり連絡調整会議」と連携による市民認知度向上の取組の推進 ・競技普及を目的とした選手やアリーダの地域イベントへの参加 ・「アメフト×商店街」など、商店街と協働して行うイベントの実施 ・Xリーグ等の公式戦への市民招待の実施(招待者数:1,200人以上) ・フレッジフットボール等の普及に向けた巡回教室、大会の開催	

実施結果 (Do)

上記「今年度の事業の取組内容」に対する達成度	3	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った
取組内容の実績等 (上記「当該年度の取組内容」に対し、「数値等でより具体的に実績を示すことができる取組」、又は「未達成部分」若しくは「より達成できた部分」を記載)	目標どおり達成できました。	

指標分類	数値で事業の実績・効果等を把握できる指標（指標の説明）	目標・実績	H27年度	H28年度	H29年度	単位
1	活動指標 かわさきスポーツパートナー等によるふれあいスポーツ教室の開催 説明 子どもたちにスポーツの楽しさや素晴らしさを感じてもらうため、かわさきスポーツパートナー等が小学校などに outgoing、選手と子どもが直接ふれあう機会の創出します	目標		36回以上		回
		実績	32	33		
2	成果指標 かわさきスポーツパートナーによる市民招待の実施 説明 スポーツ観戦の臨場感・高揚感を味わう機会を提供するため、市民をかわさきスポーツパートナーの公式試合に招待します。	目標		670人以上		人
		実績	688	779		
3	成果指標 川崎フロンターレと連携した市制記念試合への市民招待の実施 説明 市制記念日前後に開催される川崎フロンターレのホームゲームを「川崎市制記念試合」とし、市民招待を行います。	目標		2,000人		人
		実績	2,000	2,000		
4	活動指標 川崎フロンターレによる小・中学校等での巡回サッカー教室の実施 説明 「川崎フロンターレ」コーチ陣による小学校・中学校の授業と部活動を対象とした巡回ふれあい教室。年度始めに全校を対象に実施希望を募り、その後日程調整して教室を実施します。	目標		120回以上		回
		実績	118	123		
5	成果指標 アメリカンフットボール公式戦への市民招待の実施 説明 川崎市を拠点として数多くの試合が行われているアメリカンフットボールの迫力を間近で感じてもらうため、アメリカンフットボールの公式戦に市民を招待します。	目標		1,200人以上		人
		実績	910	1,172		

評価 (Check)			
事業を取り巻く社会環境の変化 (国・県・他団体の動向や法改正、規制緩和など)	①かわさきスポーツパートナーでは、男子バスケットボールのプロリーグ化の伴う支援策について検討が必要となります。 ②リーグクラブと連携した魅力ある地域づくりの推進としては、川崎フロンターレ創立20周年という節目の年を迎えます。 ③アメリカンフットボールを活用したまちづくりの推進としては、昨年リニューアルオープンした「富士通スタジアム川崎」を、アメリカンフットボールの拠点として、さらなる賑わいの創出する必要があります。		
事業の見直し・改善内容 具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載	<input checked="" type="checkbox"/> 実施 (直近) H 28 年度 <input type="checkbox"/> 未実施 平成28年度: アメリカンフットボール・フラッグフットボールを活用したまちづくりの推進において、広告方法等を見直し、経費を削減しました。 平成26年度: アメリカンフットボール・フラッグフットボールを活用したまちづくりの推進において、フラッグの巡回指導回数を見直し、経費を削減しました。 平成25年度: 認定要件を明確にし名称をより親しみやすくすることを目的に、「川崎市ホームタウンスポーツ推進パートナー」から「かわさきスポーツパートナー」へ名称を変更しました。		
評価項目		評価	
必要性	【市民のニーズ】 事業を取り巻く環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか？	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	【市が実施する必要性】 他都市で、民間等でサービス提供している事例がないか？	a. ない b. ある	a
	評価の理由 富士通フロンティアーズのXボウル制覇、川崎フロンターレの後援会員数3万人突破、川崎プレイブサンダースの誕生など、今後もかわさきスポーツパートナーの活躍が期待される状況であり、連携・協働することでスポーツのまちづくりを更に推進できる状況であることから、引き続き行政が積極的に関わっていく必要があります。		
有効性	【成果】 活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか？	a. 上がっている b. 徐々に上がっている c. 上がっていない	b
	評価の理由 プロリーグ発足に伴う、新チーム設立への準備や、トーナメント敗退による試合数減少による影響で目標数値を達成できていないものもあるが、全て前年度の数値を上回っており、総じて成果目標も目標値をほぼ達成しています。事業内容に応じて地域団体で構成されている実行委員会や専門知識を有する組織等に委託することで、地域の意見やニーズを反映させた事業が進められ、成果を高めることができています。		
効率性	【民間の活用】 委託や指定管理者制度など、実施手法について民間活用によりコストを削減できる余地があるか？	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	c
	【事業手法等の見直し】 事業の成果を維持しながら、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性はあるか？	a. 可能性はない b. 可能性はある	b
	【質の向上】 事業を適正な(過小でも、過大でもない)規模の人員体制・費用で行いながら、市民サービスや市役所内部(職員・組織)の質の向上を図ることができる余地があるか？	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	b
	評価の理由 ・既に外部活用が可能な事業については事業委託を実施していますが、仕様内容を見直すことなどにより、更なる改善の可能性が あります。 ・かわさきスポーツパートナー全体で実施する事業については、各クラブや地域団体の更なる協力により、事業内容の向上を図ることが可能です。		
施策への貢献度	貢献度区分	上記「有効性」の成果等を踏まえ左記区分を選んだ理由	
	A. 貢献している B. やや貢献している C. 貢献の度合いが薄い	A	ふれあい教室や巡回サッカー教室、スポーツパートナーと連携したボールゲームフェスタの開催や市民招待などをほぼ順調に実施できたこと、また、アメリカンフットボールの事業では、商店街や中学校吹奏楽部など地域との協働で、富士通スタジアム川崎に新たな賑いを創出して地域を活性化させたこと、また、フロンターレのクラブ創立20周年事業では、スタジアムと国際宇宙ステーションの生交信を実施して今までにないファン層の来場につながることができたことから、スポーツのまちづくりの推進に貢献しました。

改善 (Action)

方向性区分		実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性
今後の事業の方向性	I. 現状のまま継続 II. 改善しながら継続 III. 事業規模拡大 IV. 事業規模縮小 V. 事業廃止 VI. 事業終了	I 各種目で国内トップレベルの成績を収めているかわさきスポーツパートナーを更に活用できるよう、今後もかわさきスポーツパートナーや地域団体等と協働・連携しながら事業を実施し、スポーツを通じて川崎の魅力を実感することができるまちづくりを推進していきます。
今後の事業の方向性を踏まえた次年度の計画上の変更箇所	変更前 (次年度計画上の記載)	
	変更後 (上記計画上の記載に対する変更点)	
	変更の理由	

平成28年度 事務事業評価シート

事業の概要

事務事業	事務事業コード	事務事業名				実施計画の記載			
	40801050	スポーツセンター等管理運営事業				有			
担当	所属コード	所属名							
	257000	市民文化局市民スポーツ室							
実施期間	事業開始年度	事業終了年度	事務・サービス等の分類	分類1(市民サービス等)	分類2(内部事務)				
	—	—	施設の管理・運営	—	—				
実施形態	<input type="checkbox"/> 市が直接実施 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input checked="" type="checkbox"/> 全部委託・指定管理 <input type="checkbox"/> ボランティア等との協働 <input type="checkbox"/> その他								
実施根拠	<input type="checkbox"/> 国・県の制度 <input type="checkbox"/> 国・県の制度+市独自の制度 <input checked="" type="checkbox"/> 市独自の制度 (法令・要綱等) スポーツ基本法、川崎市とどろきアリーナ条例、川崎市スポーツセンター条例、川崎市武道館条例								
総合計画と連携する計画等	資産マネジメントカルテ、スポーツ推進計画								
行財政改革プログラムに関連する課題名	改革項目			課題名					
予決算 (単位:千円)	年度	H27年度		H28年度		H29年度			
		予算額	決算額	予算額	決算額(見込)	計画事業費	予算額	決算額	
	財源内訳	事業費 A	736,223	726,080	907,454	799,614	776,053	619,996	
		国庫支出金	0	—	0	—	0	0	
		市債	33,000	—	261,000	—	97,000	2,000	
		その他特財	71	—	71	—	71	68	
	一般財源	703,152	—	646,383	—	678,982	617,928		
人件費* B			35,616	35,616	0	0	0		
総コスト(A+B)			943,070	835,230	776,053	619,996	0		
人工(単位:人)				4.2					

※ 人件費は、各年度の予算における職員1人当たり人件費に、各年度の人工を乗じて算出した参考値です。

計画 (Plan)

政策体系	政策 施策	スポーツ・文化芸術を振興する
	直接目標	スポーツのまちづくりの推進
事業の対象 (事業の対象となる人、物)	スポーツセンター等を利用する市民	
事業の目的 (対象をどのような状態にしたいか)	市民の心身の健全な発達やスポーツの普及に向け、スポーツセンター等の運営を通じて、身近な場所でスポーツに親しめる環境を作ります。	
事業の内容 (どういった業務内容で、どのような手段で実施しているか)	運営に関しては指定管理者制度を導入し、公平で平等な利用を確保するとともに、費用対効果にも留意し、公共性と効率性を両立していきます。 施設によっては経年による劣化が出ており、長寿命化に向けた計画的な保守、整備を行います。	
今年度の事業の取組内容 (具体的に今年度どのような活動をするのか)	①スポーツセンター等の体育室・トレーニング室などの利用提供の推進 ②生涯スポーツの推進に向けたスポーツ教室及びイベント等の実施 ③施設の長寿命化に向けた修繕計画に基づく工事の実施	

実施結果 (Do)

上記「今年度の事業の取組内容」に対する達成度	3	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った				
取組内容の実績等 (上記「当該年度の取組内容」に対し、「数値等でより具体的に実績を示すことができる取組」、又は「未達成部分」若しくは「より達成できた部分」を記載)	目標どおりできました。					
指標分類	数値で事業の実績・効果等を把握できる指標 (指標の説明)	目標・実績	H27年度	H28年度	H29年度	単位
1 成果指標	スポーツセンター等施設利用者数	目標		2,465,000	2,630,000	人
	説明: スポーツセンター等施設の1年間の利用者数の推移によって、市民がスポーツ親しみ環境づくりの取組成果を測ります。	実績	2,454,647	2,599,156		
2	説明	目標				
		実績				
3	説明	目標				
		実績				
4	説明	目標				
		実績				

評価 (Check)

事業を取り巻く社会環境の変化 (国・県・他団体の動向や法改正、規制緩和など)	2020東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けて、川崎市は「かわさきパラムーブメント推進ビジョン」を策定し、障害者スポーツの推進、スポーツ施設のバリアフリー化の推進が求められています。かわさき資産マネジメントカルテに基づき、施設の長寿命化に向け、計画的な修繕・更新が必要となっています。
事業の見直し・改善内容	<input checked="" type="checkbox"/> 実施 (直近) H 28 年度 <input type="checkbox"/> 未実施
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載	H28年度: トレーニング室の利用方法を変更し、利用時間制を導入しました。 H26年度: 大体育室等の利用時間の区分を一日3区分から4区分に見直しました。 H18年度: 施設の運営に指定管理者制度を導入しました。

評価項目		評価	
必要性	【市民のニーズ】 事業を取り巻く環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか?	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	【市が実施する必要性】 他都市で、民間等でサービス提供している事例がないか?	a. ない b. ある	a
	評価の理由	2020東京オリンピック・パラリンピック競技会に向け、スポーツに関する注目度は年々増加しています。市民が身近にスポーツに親しめる環境づくりのため、スポーツセンター等を維持していくことが、より重要となります。	
有効性	【成果】 活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか?	a. 上がっている b. 徐々に上がっている c. 上がっていない	b
	評価の理由	指定管理者制度を導入した以降スポーツセンター等の利用者数は年々増加しています。	
効率性	【民間の活用】 委託や指定管理者制度など、実施手法について民間活用によりコストを削減できる余地があるか?	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	c
	【事業手法等の見直し】 事業の成果を維持しながら、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性はあるか?	a. 可能性はない b. 可能性はある	b
	【質の向上】 事業を適正な(過小でも、過大でもない)規模の人員体制・費用で行いながら、市民サービスや市役所内部(職員・組織)の質の向上を図ることができる余地があるか?	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	c
	評価の理由	指定管理者制度を導入し、市の支出を削減しながらも、民間活力により、直営時代よりもサービスの質を向上させることができている。エスコ事業を導入することで、施設の長寿命化に係る経費削減の可能性があります。	
施策への貢献度	貢献度区分	上記「有効性」の成果等を踏まえ左記区分を選んだ理由	
	A. 貢献している B. やや貢献している C. 貢献の度合いが薄い	A	各区スポーツセンターは市民の身近なスポーツ拠点として、子供から高齢者までを対象とした様々な事業を実施しており、スポーツのまちづくりに貢献しています。



改善 (Action)

今後の事業の方向性	方向性区分	実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性
今後の事業の方向性	I. 現状のまま継続 II. 改善しながら継続 III. 事業規模拡大 IV. 事業規模縮小 V. 事業廃止 VI. 事業終了	III スポーツセンターを市民の身近なスポーツ拠点とするため、サービスの質の向上を図るとともに、社会的な情勢の変化に対応するため、計画的な長寿命化及び施設のバリアフリー化を推進するなど、利用者の環境改善に向けた取組を進めていきます。
今後の事業の方向性を踏まえた次年度の計画上の変更箇所	変更前 (次年度計画上の記載)	
	変更後 (上記計画上の記載に対する変更点)	④屋内スポーツ施設のバリアフリー化の推進【新規】
	変更の理由	④については、障害のあるなしに関わらず、誰もが日常的にスポーツに親しめる環境づくりを進めるため、屋内スポーツ施設のバリアフリー化の推進を新規に実施します。

平成28年度 事務事業評価シート

事業の概要

事務事業	事務事業コード	事務事業名				実施計画の記載			
	40801060	スポーツ・文化総合センター整備・運営事業				有			
担当	所属コード	所属名							
	251300	市民文化局市民生活部企画課							
実施期間	事業開始年度	事業終了年度	事務・サービス等の分類	分類1(市民サービス等)	分類2(内部事務)				
	—	—	施設の管理・運営	—	—				
実施形態	<input type="checkbox"/> 市が直接実施 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input checked="" type="checkbox"/> 全部委託・指定管理 <input type="checkbox"/> ボランティア等との協働 <input type="checkbox"/> その他								
実施根拠	<input type="checkbox"/> 国・県の制度 <input checked="" type="checkbox"/> 国・県の制度＋市独自の制度 <input type="checkbox"/> 市独自の制度 (法令・要綱等) 民間資金等の活用による公共施設等の整備等の促進に関する法律								
総合計画と連携する計画等	まち・ひと・しごと創生総合戦略、都市計画マスタープラン、スポーツ推進計画、文化芸術振興計画								
行財政改革プログラムに関連する課題名	改革項目		課題名						
予決算 (単位:千円)	年度	H27年度		H28年度		H29年度			
		予算額	決算額	予算額	決算額(見込)	計画事業費	予算額	決算額	
	財源内訳	事業費 A	8,984	7,329	6,467	6,272	14,195,087	14,058,035	
		国庫支出金	0	—	0	—	252,896	499,554	
		市債	0	—	0	—	10,197,000	13,212,000	
		その他特財	325	—	328	—	328	348	
		一般財源	8,659	—	6,139	—	3,744,863	346,133	
人件費* B			12,296	12,296	0	0	0		
総コスト(A+B)			18,763	18,568	14,195,087	14,058,035	0		
人工(単位:人)			1.45						

※ 人件費は、各年度の予算における職員1人当たり人件費に、各年度の人工を乗じて算出した参考値です。

計画 (Plan)

政策体系	政策	スポーツ・文化芸術を振興する
	施策	スポーツのまちづくりの推進
	直接目標	スポーツを身近に感じ、楽しむ市民を増やす
事業の対象 (事業の対象となる人、物)	富士見地区、市民	
事業の目的 (対象をどのような状態にしたいか)	富士見公園の総合公園としての機能回復や、スポーツ・文化・レクリエーション活動の拠点機能の強化を図ります。市民のスポーツ活動及び文化活動の振興を図ります。	
事業の内容 (どういった業務内容で、どのような手段で実施しているか)	スポーツ・文化・レクリエーション活動拠点の強化を図るため、富士見周辺地区整備実施計画に基づき、川崎市体育館、児童プール及びテニスコート2面の敷地に、PFI手法によりスポーツ・文化総合センターを整備します。	
今年度の事業の取組内容 (具体的に今年度どのような活動をするのか)	①スポーツ・文化総合センターの整備推進	

実施結果 (Do)

上記「今年度の事業の取組内容」に対する達成度	3	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った				
取組内容の実績等 (上記「当年度の取組内容」に対し、「数値等でより具体的に実績を示すことができる取組」、又は「未達成部分」若しくは「より達成できた部分」を記載)	目標どおり達成できました。 ①のスポーツ・文化総合センターの整備推進について、当初の工程どおり進捗するとともに、平成29年10月のオープンに向けたホールの利用予約の開始、愛称募集を実施しました。					
指標分類	数値で事業の実績・効果等を把握できる指標 (指標の説明)	目標・実績	H27年度	H28年度	H29年度	単位
1	説明	目標	/			
		実績				
2	説明	目標	/			
		実績				
3	説明	目標	/			
		実績				
4	説明	目標	/			
		実績				

評価 (Check)

事業を取り巻く社会環境の変化 (国・県・他団体の動向や法改正、規制緩和など)	スポーツや文化活動等の市民の諸活動への対応は、ハード、ソフト共にニーズの高い事項であり、市民の活動・発表の場が求められています。
事業の見直し・改善内容	<input checked="" type="checkbox"/> 実施 (直近) H 28 年度 <input type="checkbox"/> 未実施
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載	H27年度: PFI事業について専門的見地から支援を受ける委託業務について、仕様書を見直し委託料を削減しました。 H28年度: 事業進捗に伴い、専門的見地からの支援業務を限定し、更なる仕様書の見直しを行い委託料を削減しました。

評価項目		評価	
必要性	【市民のニーズ】 事業を取り巻く環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか?	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	【市が実施する必要性】 他都市で、民間等でサービス提供している事例がないか?	a. ない b. ある	a
	評価の理由	スポーツ、文化、レクリエーション活動等、市民の活動拠点の強化は、今後も求められる機能であり、2020年の東京オリンピック・パラリンピックに向けても、スポーツ及び文化のさらなる振興を図る必要があります。	
有効性	【成果】 活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか?	a. 上がっている b. 徐々に上がっている c. 上がっていない	a
	評価の理由	計画から遅れることなく、順調に工程どおり事業が進捗しています。オープンが近づいたことで、オープン後のスポーツ・文化事業の具体的な内容も決定してきています。	
効率性	【民間の活用】 委託や指定管理者制度など、実施手法について民間活用によりコストを削減できる余地があるか?	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	c
	【事業手法等の見直し】 事業の成果を維持しながら、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性はあるか?	a. 可能性はない b. 可能性はある	b
	【質の向上】 事業を適正な(過小でも、過大でもない)規模の人員体制・費用で行いながら、市民サービスや市役所内部(職員・組織)の質の向上を図ることができる余地があるか?	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	b
	評価の理由	本事業はPFI手法を導入し、民間活力を活用して実施しています。維持管理運営を行う中で、適正なモニタリング等を通じて、より質の高い市民サービスの提供を行っていく必要があります。	
施策への貢献度	貢献度区分	上記「有効性」の成果等を踏まえ左記区分を選んだ理由	
	A. 貢献している B. やや貢献している C. 貢献の度合いが薄い	B	計画どおり事業が進捗していることや、オープニングイベントの内容が定まってきたこと等から、スポーツ、文化の振興に貢献していると考えますが、オープン前の建設段階であるため、具体的な貢献内容については判断できる段階ではありません。

改善 (Action)

今後の事業の方向性	方向性区分	実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性
今後の事業の方向性	I. 現状のまま継続 II. 改善しながら継続 III. 事業規模拡大 IV. 事業規模縮小 V. 事業廃止 VI. 事業終了	I 富士見周辺地区整備実施計画やスポーツ・文化複合施設基本計画等に基づきPFI手法を導入して取り組んでいる事業であるため、各計画等に沿って、着実に事業を推進していくことが適切と考えています。
今後の事業の方向性を踏まえた次年度の計画上の変更箇所	変更前 (次年度計画上の記載)	
	変更後 (上記計画上の記載に対する変更点)	
	変更の理由	

平成28年度 事務事業評価シート

事業の概要

事務事業	事務事業コード	事務事業名				実施計画の記載			
	40801070	東京オリンピック・パラリンピック推進事業				有			
担当	所属コード	所属名							
	257500	市民文化局オリンピック・パラリンピック推進室							
実施期間	事業開始年度	事業終了年度	事務・サービス等の分類	分類1(市民サービス等)	分類2(内部事務)				
	平成25年度	—	その他	その他	政策推進計画等(策定・進行管理)				
実施形態	<input checked="" type="checkbox"/> 市が直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 全部委託・指定管理 <input checked="" type="checkbox"/> ボランティア等との協働 <input type="checkbox"/> その他								
実施根拠	<input type="checkbox"/> 国・県の制度 <input type="checkbox"/> 国・県の制度+市独自の制度 <input type="checkbox"/> 市独自の制度 (法令・要綱等)								
総合計画と連携する計画等	国際施策推進プラン、まち・ひと・しごと創生総合戦略、スポーツ推進計画、かわさきパラムーブメント推進ビジョン								
行財政改革プログラムに関連する課題名	改革項目			課題名					
予決算 (単位:千円)	年度	H27年度		H28年度		H29年度			
		予算額	決算額	予算額	決算額(見込)	計画事業費	予算額	決算額	
	財源内訳	事業費 A		3,000	4,030	50,000	43,080	50,000	59,809
		国庫支出金	0	-	0	-	0	0	
		市債	0	-	0	-	0	0	
		その他特財	0	-	0	-	0	0	
	一般財源	3,000	-	50,000	-	50,000	59,809		
人件費* B				28,832	28,832	0	0	0	
総コスト(A+B)				78,832	71,912	50,000	59,809	0	
人工(単位:人)				3.4					

※ 人件費は、各年度の予算における職員1人当たり人件費に、各年度の人工を乗じて算出した参考値です。

計画 (Plan)

政策体系	政策	スポーツ・文化芸術を振興する
	施策	スポーツのまちづくりの推進
	直接目標	スポーツを身近に感じ、楽しむ市民を増やす
事業の対象 (事業の対象となる人、物)	市民・企業・団体	
事業の目的 (対象をどのような状態にしたいか)	東京2020オリンピック・パラリンピックに向けた本市の基本方向である「かわさきパラムーブメント」を推進し、東京大会を契機として誰もが暮らしやすいまちづくりを進めます。	
事業の内容 (どういった業務内容で、どのような手段で実施しているか)	「かわさきパラムーブメント推進ビジョン」で掲げる5つの方向性(「ひとづくり」「スポーツ振興・健康づくり」「まちづくり」「都市の魅力向上」「先進的な課題解決モデルの発信」)に沿った取組を市民協働で推進します。	
今年度の事業の取組内容 (具体的に今年度どのような活動をするのか)	①推進ビジョンに基づく取組の推進 ②JOCパートナー協定に基づく取組の推進 ③事前キャンプの受け入れに向けた取組の推進 ④「かわさきパラムーブメント推進フォーラム」の運営と多様な主体の連携によるプロジェクトの企画実施 ⑤障害者スポーツ体験講座の実施やアスリートの活動場所や出場機会の充実など、「かわさきパラムーブメント」普及に向けた各種イベントや事業の実施 ⑥大会開催とその後のまちづくりに向けた多言語対応など、さまざまな分野における取組の調整	

実施結果 (Do)

上記「今年度の事業の取組内容」に対する達成度		3	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った			
取組内容の実績等 (上記「当該年度の取組内容」に対し、「数値等でより具体的に実績を示すことができる取組」、又は「未達成部分」若しくは「より達成できた部分」を記載)		目標どおり達成できた。 ①「かわさきパラムーブメント」の理念の浸透に向けて、シンポジウムを開催(1回)した他、特設サイトに加え、動画などの広報物の製作を行いました。 ②市内中学校にてオリンピックを講師に迎えたJOCオリンピック教室を開催しました。(1回) ③障害者スポーツ体験講座「やってみるキャラバン」を市内小学校、地域の寺子屋などで実施しました。(24回)				
指標分類	数値で事業の実績・効果等を把握できる指標 (指標の説明)	目標・実績	H27年度	H28年度	H29年度	単位
1 活動指標	JOCと連携した事業の各区での実施回数	目標		1	2	回
	説明 JOCから派遣されるオリンピックを講師としたJOCオリンピック教室の中学校での実施回数	実績	-	1		
2 活動指標	「かわさきパラムーブメント」普及に向けた各種イベントや事業の実施回数	目標		15	20	回
	説明 小学校や地域の寺子屋、イベント等における障害者スポーツ体験講座の実施回数	実績	-	24		
3	説明	目標				
		実績				
4	説明	目標				
		実績				

評価 (Check)

事業を取り巻く社会環境の変化 <small>(国・県・他団体の動向や法改正、規制緩和など)</small>	平成32年(2020年)の東京大会に向けた機運の高まりや、大会組織委員会、JOC、九都県市等の動向を踏まえ、かわさきパラムーブメント推進ビジョンに掲げる各分野の取組を段階的に拡充・進化させていくことが必要となります。
事業の見直し・改善内容	<input type="checkbox"/> 実施 (直近) H 年度 <input checked="" type="checkbox"/> 未実施
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載	

評価項目		評価	
必要性	【市民のニーズ】 事業を取り巻く環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか？	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	【市が実施する必要性】 他都市で、民間等でサービス提供している事例がないか？	a. ない b. ある	b
	評価の理由	英国代表チームの事前キャンプの実施に向けて、英国オリンピック委員会および英国パラリンピック委員会と各種調整を継続して進めていく必要があります。また、東京2020大会に向けて気運が高まる中、川崎市においても本市独自のレガシーを形成する必要があります。	
有効性	【成果】 活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか？	a. 上がっている b. 徐々に上がっている c. 上がっていない	b
	評価の理由	活動指標も目標値を達成しています。他局等との協力により事業を実施しており、障害者スポーツの理解も深まってきましたが、今後は「かわさきパラムーブメント」の認知度向上のための取組を強化する必要があります。	
効率性	【民間の活用】 委託や指定管理者制度など、実施手法について民間活用によりコストを削減できる余地があるか？	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	c
	【事業手法等の見直し】 事業の成果を維持しながら、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性はあるか？	a. 可能性はない b. 可能性はある	b
	【質の向上】 事業を適正な(過小でも、過大でもない)規模の人員体制・費用で行いながら、市民サービスや市役所内部(職員・組織)の質の向上を図ることができる余地があるか？	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	a
	評価の理由	・財源面において、国などの補助事業を活用していくことで、効率的な実施が見込まれます。 ・「かわさきパラムーブメント」推進のためのプロジェクトの実施や、事前キャンプ受け入れに向けた取組については、多岐にわたる分野の事業を着実に推進するとともに、突発的な調整事項に対して的確に対応していくことが求められることから、一定の人員および財源が必要となってきます。	

施策への貢献度	貢献度区分		上記「有効性」の成果等を踏まえ左記区分を選んだ理由
	A. 貢献している B. やや貢献している C. 貢献の度合いが薄い	A	東京2020大会を契機として、市内小学校での障害者スポーツ体験講座の実施やパラリンピアンを招いたシンポジウムの開催等により、障害者スポーツの認知度向上や魅力発信など、スポーツを身近に感じられる環境づくりを進め、施策に貢献しました。



改善 (Action)

今後の事業の方向性	方向性区分		実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性
	I. 現状のまま継続 II. 改善しながら継続 III. 事業規模拡大 IV. 事業規模縮小 V. 事業廃止 VI. 事業終了	III	英国代表チームの事前キャンプ受け入れが確実となったため、今後は施設整備や関係団体との調整等を的確に進めるとともに、スポーツや文化など、様々な分野における英国との交流事業やおもてなしの取組を企画実施し、事前キャンプの受け入れに向けた気運を高めていきます。また、川崎市総合計画第2期実施計画と整合を図りながらかわさきパラムーブメント推進ビジョンの改定作業を行い、インクルーシブなまちづくりに向けた全庁的な取組を推進するとともに、「かわさきパラムーブメント」の理念のさらなる浸透を図りながら市民を巻き込んだムーブメントとして取組を実践していきます。
今後の事業の方向性を踏まえた次年度の計画上の変更箇所	変更前 <small>(次年度計画上の記載)</small>	障害者スポーツ体験講座の実施やアスリートの活動場所や出場機会の充実など、「かわさきパラムーブメント」普及に向けた各種イベントや事業の実施	
	変更後 <small>(上記計画上の記載に対する変更点)</small>	障害者スポーツ体験講座【市民スポーツ推進事業へ移行】	
	変更の理由	障害者スポーツ施策の市民文化局への移管に伴い、障害者スポーツ普及に向けた取組の一元的な推進を図るため移管する。	

施策評価シート(第1期実施計画 中間評価)

1 施策の概要					
政策体系上の位置づけ	基本政策(1層)	活力と魅力あふれる力強い都市づくり			
	政策(2層)	スポーツ・文化芸術を振興する	計画当初値(H27年)	直近実績値(H28年度)	最終目標値(H37年)
	市民実感指標	① スポーツの盛んなまちだと思ふ市民の割合 ② 文化・芸術活動の盛んなまちだと思ふ市民の割合	47.6%	53.9%	55.0%
施策(3層)	施策コード 40802000	施策名 市民の文化芸術活動の振興			
担当	組織コード 258000	所属名 市民文化局市民文化振興室			
関係課	市民文化局市民生活部企画課、教育委員会事務局生涯学習部文化財課				
施策の概要	<p>●誰もが手軽に文化芸術にふれ、多くの市民が文化芸術の楽しさを感じることができるよう、市民が文化芸術活動に参加しやすい環境づくりを進めるとともに、市民、文化団体等の多様な主体と協働・連携しながら文化芸術活動の振興を図ります。</p> <p>●市民の郷土に対する認識を高め、貴重な文化財を次世代に継承していくため、その保護と活用に取り組むとともに、文化財に関する学習機会の充実や多様な主体との連携による文化財の魅力を活かした地域づくりを進めます。</p> <p>●アートセンターをはじめ、文化芸術の創造や地域の文化芸術活動の拠点となる文化施設において、市民が身近に文化芸術を体験できるよう、各種公演の実施や作品等の展示をするとともに、文化芸術活動を通じた市民相互の交流を進めます。</p>				
直接目標	市内の文化芸術活動を推進し、一層市民に身近なものにする				

2 成果指標やその他成果などの状況と成果の分析								
実施計画に位置付けた指標名(指標の説明)				現状値(年度)	目標・実績	H28年度	H29年度	単位
成果指標	1	主要文化施設の入場者数		126.9	目標値①	132.7	135.6	万人
		指標の説明	主要文化施設(8か所)における入場者数の実績報告の合計値	H26	実績値②	128.6		
					達成率(②/①)	96.9%	-	↗
					指標達成度 ※1	b	-	増減
成果指標	2	年1回以上文化芸術活動をする人の割合		14.6	目標値①	15	16	%
		指標の説明	市民アンケート(無作為抽出3,000人)の年1回以上文化芸術活動をする人の割合	H27	実績値②	12.8		
					達成率(②/①)	85.3%	-	↗
					指標達成度 ※1	c	-	増減
成果指標	3				目標値①			
		指標の説明			実績値②			
					達成率(②/①)			
					指標達成度 ※1			
成果指標	4				目標値①			
		指標の説明			実績値②			
					達成率(②/①)			
					指標達成度 ※1			
その他数値で把握できる補足指標(指標の説明)				実績	H27年度	H28年度	H29年度	単位
1	川崎・しんゆり芸術祭の参加者数		川崎・しんゆり芸術祭への参加者数の総計	実績	26,550	26,700		人
	指標の説明							
2				実績				
その他定性的な成果 (取組を進めたことで発現した効果などについて記載)								
指標等の成果分析 (指標の目標値達成を阻む外的要因等を含めて記載)				<p>●主要文化施設の入場者数は、展示テーマに関連する映画の公開などによる世間的な関心の変動など、外的要因に影響される部分もあるために数値の増減はありますが、平成28年度の達成率は97%とほぼ目標に近い値になっていることから、成果があったと考えます。</p> <p>●年1回以上文化芸術活動をする人の割合は、達成率は85%であり目標値を下回りました。性別で見ると、女性の回答率は15.3%で目標値を上回ったものの、男性の回答率は9.4%と目標値を下回りました。また、「関心はあるが活動したことがない」の割合が約6割であり、前回と比較して増加していますが、「関心もないし、活動したこともない」の割合は減少したことから、一定の成果は得られたと考えます。</p>				

※1 指標達成度の目安【 a. 目標値以上(100%以上)、b. 現状値以上～目標値未満、c. 目標達成率60%以上～現状値未満、d. 目標達成率60%未満】

※2 指標達成度の目安【 a. 目標値以上(100%以上)、b. 個別設定値(「指標の説明」欄に記載)以上～目標値未満、c. 目標達成率60%以上～個別設定値未満、d. 目標達成率60%未満】

3 施策を構成する主な事務事業の評価

番号	事務事業コード 事務事業名	サービス分類	事務事業の概要 (簡潔に記載)	主な取組の実績	事業費(千円)		事業の達成度	施策への貢献度	今後の事業の方向性		
					予算額	決算額					
										H27年度	
										H28年度(※決算額は見込) H29年度	
1	40802010 市民文化活動支援事業	参加・協働の場	市民の参加と文化芸術活動を行う団体等との協働により、誰もが手軽に文化芸術にふれ、より多くの市民が文化芸術の楽しさを享受し、本市に愛着と誇りを持ち、創造的に人間らしく感性豊かに暮らせる地域づくりを進めます。	●文化財団をはじめとする文化団体等と協働・連携した文化芸術に関する鑑賞・普及事業の取組の推進 ●ラゾーナ川崎プラザソルなど各種文化施設の運営支援 ●川崎・しんゆり芸術祭の開催支援及び芸術のまち・かわさき人材育成事業の実施 ●かわさき市民第九コンサート、プラチナファッションショーの開催 ●日本地名研究所と連携し、地名講座(講義1回及び現地探訪2回)を実施 ●小黒恵子童謡記念館の耐震等工事及びリニューアルオープン準備の完了 ●市文化賞等の贈呈	527,003	643,547	3	A 貢献している	II 改善しながら継続		
				485,099	468,905						
				447,294							
2	40802020 文化財保護・活用事業	参加・協働の場	市民の郷土に対する認識を高め、地域の心々の心よりどころとして、文化の向上と発展に貢献するため、歴史の営みの中で、自然環境や社会・生活を反映しながら、育まれ、継承されてきた文化財の適切な保存と活用を進めます。	●文化財保護活用計画に基づく文化財の調査・保護・活用事業の推進 ●指定文化財の保存修理等の実施 ●文化財ボランティアの育成・確保 ●埋蔵文化財の発掘調査等の実施	43,498	38,884	3	A 貢献している	I 現状のまま継続		
				46,852	46,491						
				58,284							
3	40802030 東海道かわさき宿交流館管理運営事業	施設の管理・運営	東海道川崎宿の歴史、文化を学び、後世に伝え、地域活動・地域交流の拠点として「東海道かわさき宿交流館」を運営します。	●地域と連携した館の運営や企画展などの実施 ●外国人対応のため、展示パネルの多言語対応	45,660	44,630	3	B やや貢献している	I 現状のまま継続		
				45,689	43,960						
				45,688							
4	40802040 市民ミュージアム管理運営事業	施設の管理・運営	本市の歴史、民俗、絵画、映像等の資料や作品を収集・展示し、市民の観覧・学習・研究を進めるため、博物館と美術館の機能をあわせ持つ公立の複合文化施設として「市民ミュージアム」を運営します。	●漫画・アニメ・映像・写真などの館の特徴を活かした展覧会の開催 ●ホームページやSNSを活用した情報発信の更なる強化に向けた取組の推進 ●文化芸術人材の交流の場の形成・活動機会の創出 ●指定管理者の募集及び選定 ●施設の長寿命化に向けた取組の推進	479,497	429,846	3	A 貢献している	I 現状のまま継続		
				637,013	553,006						
				485,772							
5	40802050 大山街道ふるさと館管理運営事業	施設の管理・運営	大山街道の歴史・文化を学び、文化活動を通じて、地域の交流や活性化を図るため、「大山街道ふるさと館」を運営します。	●大山街道に関する歴史・民俗資料等の展示 ●サポーターズクラブまつり、ふるさと館まつりの実施 ●街道沿道の商店と連携した街のマイスター体験講座の新規開催	23,763	23,762	3	A 貢献している	I 現状のまま継続		
				25,210	25,967						
				25,262							
6	40802060 市民プラザ管理運営事業	施設の管理・運営	文化・教養に関する講座や健康増進のための教室等の開催、市民相互の交流機会の促進に向け、「市民プラザ」を運営します。	●文化・教養に関する教室の開催 ●プール・体育館などの利用提供の推進 ●市民の相互の交流促進に向けた行事等の実施 ●中期修繕計画に基づく施設整備の実施	364,440	319,878	3	B やや貢献している	I 現状のまま継続		
				379,086	364,711						
				411,573							
7	40802070 橋樹官街遺跡群保存整備・活用事業	その他	古代川崎の歴史的文化遺産を後世まで継承するため、市内で初めて国史跡に指定された「橋樹官街遺跡群」(橋樹郡御跡と影向寺遺跡)の活用を図ります。	●「橋樹官街遺跡群保存活用計画」の検討 ●調査・研究・保存事業の実施 ●史跡めぐり等活用事業の実施(336人) ●市民との協働による環境整備・維持管理の実施	186,506	187,210	3	A 貢献している	I 現状のまま継続		
				11,742	9,853						
				9,301							
8	40802080 藤子・F・不二雄ミュージアム事業	施設の管理・運営	本市ゆかりの漫画家藤子・F・不二雄の作品に込められたメッセージを子どもから大人まで幅広い世代に伝えることで、文化芸術活動の振興と本市の魅力を増進するため「藤子・F・不二雄ミュージアム」を運営します。	●藤子・F・不二雄の作品及び資料の展示 ●藤子・F・不二雄ミュージアムの魅力を国内外へ発信する取組の推進 ●生田緑地における他美術館と連携した取組の推進 ●開館5周年記念事業の実施	108,336	102,376	3	A 貢献している	I 現状のまま継続		
				127,924	124,937						
				102,034							
9	40802090 岡本太郎美術館管理運営事業	施設の管理・運営	本市ゆかりの芸術家岡本太郎の美術作品や資料を展示することで、市民の美術に関する創造的活動を促進し、市民の芸術の発展と文化の進展を図るため、近現代美術を扱う美術館として、「岡本太郎美術館」を運営します。	●常設展、企画展の開催(各年4回開催)、小・中学校等団体の鑑賞学習の実施(133件) ●フォーリン・プレゼンターを活用した広報の実施(年4回)、県と連携した外国人向けツアーの開催及びリーフレットの配布 ●岡本太郎撮影写真資料のデジタル化及びプリント作成(133点)、北代省三関連資料の写真デジタル化(1,342点)の実施 ●夏休み期間を利用した生田緑地スタンプラリーの開催(参加者27,682人)、生田緑地サマーミュージアム等の実施 ●イベント開催時における西口広場等での飲食販売(4回)や展覧会関連イベント「くまモンがやってくるモン」等の自主事業を実施。展覧会に合わせた「沖縄物産展」「熊本物産展」等ショップ販売の実施	194,540	191,072	3	A 貢献している	I 現状のまま継続		
				225,280	201,274						
				227,274							
10	40802100 日本民家園管理運営事業	施設の管理・運営	国・県の指定文化財25件を有する日本民家園の野外登録博物館として、その貴重な文化財を適切に保存・活用し、市民の文化・学術・教育の向上を図るため、「日本民家園」を運営します。	●江戸時代の古民家の野外展示 ●伝統生活文化に関する企画展示及び各種講座等による教育普及事業の実施(音声ガイドの導入や記念写真集の製作) ●50周年記念事業の準備 ●観光客の積極的誘致に向けた広報活動の充実 ●文化財建造物・民具などの保存・整備と調査研究、維持・補修 ●生田緑地における他美術館や博物館と連携した取組の推進(科学館と連携した月見行事)	227,182	142,758	3	B やや貢献している	II 改善しながら継続		
				300,150	253,701						
				324,966							
11	40802110 青少年科学館管理運営事業	施設の管理・運営	天文・自然・科学の3つの柱を中心に、青少年の科学知識の普及啓発や科学教育の振興のため、市唯一の自然系登録博物館として、「青少年科学館」(宙と緑の科学館)を運営します。	●自然・天文・科学の3分野の資料展示 ●体験を通じた教育普及の取組の推進(大人まで幅広い年代に対応した新たな教室・講座の実施) ●プラネタリウムを活用した天文知識の普及啓発の実施(こども向けプラネタリウム番組制作教室の実施) ●生田緑地における他の美術館、博物館と連携した取組の推進(日本民家園と連携した「お月見」夜間開館)	108,022	106,067	3	B やや貢献している	I 現状のまま継続		
				117,036	115,255						
				117,807							
12	40802120 アートセンター管理運営事業	施設の管理・運営	芸術文化の創造・発信・交流を促進するとともに、芸術文化の鑑賞の機会を提供することで、市民の芸術文化の発展に寄与するための創造・発信拠点として、「アートセンター」を運営します。	●小劇場では196回公演を開催、映像館では130作品1,504回の上映を実施 ●映像・舞台芸術をテーマとした各種ワークショップを19回実施 ●青少年を含む市民参加型の地域劇団により5公演実施	149,410	148,674	3	A 貢献している	I 現状のまま継続		
				148,554	149,014						
				161,815							

4 施策の進捗状況

	区分	選択区分	進捗状況区分を選択した理由
施策の進捗状況 (指標等の成果を中心に施策を構成する事務事業の評価等から総合的に評価)	A. 順調に推移 (目標達成している) B. 一定の進捗がある (目標達成に向けて進捗している) C. 進捗は遅れている (目標達成が遅れる可能性がある) D. 進捗は大幅に遅れている (目標達成が難しい可能性がある)	B	<ul style="list-style-type: none"> ●配下の事務事業の取組は、掲げた目標どおりに進捗しています。 ●主要文化施設の入場者数は、外的要因に影響される部分もあるために数値の増減はありますが、平成28年度の達成率は97%とほぼ目標に近い値になっていることから、第1期実施計画期間終了時における目標達成は概ね可能と考えます。 ●年1回以上文化芸術活動をする人の割合は、目標値を下回りました。達成率は85%であり一定の成果は得られていますが、鑑賞活動以外の文化芸術活動やボランティア活動を活発化するため、活動参加を促す情報発信等をさらに進めていく必要があります。

5 今後の方向性

	区分	選択区分	「事業構成の妥当性を選択した理由」及び「今後の方向性」
今後の事業構成の妥当性 (手段は妥当か?)	I. 効果的な事業構成である (現状のまま継続する) II. 概ね効果的な構成である (一部見直し等の余地がある) III. あまり効果的な事業構成でない (見直し等の余地が大きい) IV. 事業構成に問題がある (抜本的な見直し等が必要である)	II	<ul style="list-style-type: none"> ●成果指標は目標値を達成できませんでしたが、施策は一定程度進捗していることから、各事業の構成は概ね効果的であると考えます。 ●文化芸術振興や施設運営については、情報発信を強化しながら現在の取組を継続していきます。また、beyond2020(国等が認証する、2020年以降を見据えたレガシーを創り出す文化プログラム)などを活用しながら、東京オリンピック・パラリンピックや市制100周年を見据え、誰もがアクセスしやすい環境を整備し、文化芸術に親しめるまちづくりを進めていきます。

平成28年度 事務事業評価シート

事業の概要

事務事業	事務事業コード	事務事業名				実施計画の記載		
	40802010	市民文化活動支援事業				有		
担当	所属コード	所属名						
	258000	市民文化局市民文化振興室						
実施期間	事業開始年度	事業終了年度	事務・サービス等の分類	分類1(市民サービス等)	分類2(内部事務)			
	—	—		参加・協働の場	—			
実施形態	<input checked="" type="checkbox"/> 市が直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input checked="" type="checkbox"/> 全部委託・指定管理 <input checked="" type="checkbox"/> ボランティア等との協働 <input checked="" type="checkbox"/> その他							
実施根拠	<input type="checkbox"/> 国・県の制度 <input checked="" type="checkbox"/> 国・県の制度+市独自の制度 <input type="checkbox"/> 市独自の制度 (法令・要綱等) 文化芸術振興基本法、川崎市文化芸術振興条例							
総合計画と連携する計画等	情報化推進プラン、スポーツ推進計画、文化芸術振興計画、シティプロモーション戦略プラン、新・かわさき観光振興プラン、男女平等推進行動計画							
行財政改革プログラムに関連する課題名	改革項目			課題名				
	3(4) 地域人材の発掘・育成			2 文化イベントを通じた地域人材の育成				
予決算 (単位:千円)	年度	H27年度		H28年度		H29年度		
		予算額	決算額	予算額	決算額(見込)	計画事業費	予算額	決算額
	財源内訳	事業費 A	527,003	643,547	485,099	468,905	435,206	447,294
		国庫支出金	3,950	—	9,000	—	9,000	5,800
		市債	22,000	—	6,000	—	6,000	4,000
		その他特財	179,294	—	154,498	—	103,897	115,041
	一般財源	321,759	—	315,601	—	316,309	322,453	
人件費* B			49,778	49,778	0	0	0	
総コスト(A+B)			534,877	518,683	435,206	447,294	0	
人工(単位:人)			5.87					

※ 人件費は、各年度の予算における職員1人当たり人件費に、各年度の人工を乗じて算出した参考値です。

計画 (Plan)

政策体系	政策	スポーツ・文化芸術を振興する
	施策	市民の文化芸術活動の振興
	直接目標	市内の文化芸術活動を推進し、一層市民に身近なものにする
事業の対象 (事業の対象となる人、物)	市民や文化団体など	
事業の目的 (対象をどのような状態にしたいか)	誰もが身近に文化芸術に触れ、多くの市民が文化芸術の楽しさを感じることが出来る状態を創出します。	
事業の内容 (どういった業務内容で、どのような手段で実施しているか)	市民主体の文化芸術活動への支援や、市民や文化団体等との連携・協働により実施する「川崎・しんゆり芸術祭」や「プラチナファッションショー」などの様々なイベントなどを通して、市民が文化芸術活動に参加しやすい環境づくりを進めます。	
今年度の事業の取組内容 (具体的に今年度どのような活動をするのか)	①文化財団をはじめとする文化団体等と協働・連携した文化芸術に関する鑑賞・普及事業の取組の推進 ②ラゾーナ川崎プラザソルなど各種文化施設の運営支援と施設の計画的な維持・補修の実施 ③地名に関する市民講座や調査・研究の実施 ④小黒恵子童謡記念館の整備、耐震等工事の実施及びリニューアルオープン ⑤かわさき市民第九コンサートやプラチナファッションショーの開催 ⑥市文化賞等の受賞者の選考及び贈呈式の開催 ⑦川崎・しんゆり芸術祭(アルテリッカしんゆり)の開催支援	

実施結果 (Do)

上記「今年度の事業の取組内容」に対する達成度	3	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った					
取組内容の実績等 (上記「当該年度の取組内容」に対し、「数値等でより具体的に実績を示すことができる取組」、又は「未達成部分」若しくは「より達成できた部分」を記載)	目標どおり達成できました。 ①及び②について計画通り実施しました。 ③日本地名研究所と連携し、地名講座(講義1回及び現地探訪2回)を実施しました。 ④小黒恵子童謡記念館の耐震等工事及びリニューアルオープン準備を完了しました。 ⑤かわさき市民第九コンサートを実施しました。また、プラチナファッションショーを開催しました。 ⑥市文化賞等の贈呈及びスポーツで顕著な活躍のあった個人・団体に特別賞を贈呈しました。 ⑦川崎・しんゆり芸術祭の開催支援及び芸術のまち・かわさき人材育成事業を実施しました。						
指標分類	数値で事業の実績・効果等を把握できる指標 (指標の説明)		目標・実績	H27年度	H28年度	H29年度	単位
1 成果指標	川崎・しんゆり芸術祭の参加者数		目標		26,600	26,600	人
	説明 川崎・しんゆり芸術祭への参加者数の総計		実績	26,550	26,700		
2 成果指標	かわさき市民第九コンサートの参加者数		目標		2,000	2,000	人
	説明 市民合唱団とコンサート入場者数の合計		実績	2,112	2,022		
3			目標				
	説明		実績				
4			目標				
	説明		実績				

評価 (Check)

事業を取り巻く社会環境の変化 (国・県・他団体の動向や法改正、規制緩和など)	2020東京オリンピック・パラリンピックに向け、市民や地域団体等と連携・協働した文化プログラムの展開や、その先の市制100周年以降に向けた、持続的な環境整備が求められています。
事業の見直し・改善内容	<input checked="" type="checkbox"/> 実施 (直近) H 28 年度 <input type="checkbox"/> 未実施
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載	H28年度:川崎・しんゆり芸術祭において、広報戦略や広報体制を大幅に見直し、効果的に広報を実施しました。

評価項目		評価	
必要性	【市民のニーズ】 事業を取り巻く環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか？	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	【市が実施する必要性】 他都市で、民間等でサービス提供している事例がないか？	a. ない b. ある	b
	評価の理由	・2020東京オリンピック・パラリンピックに向け、障害の有無や年齢に関わらず、誰もが文化芸術に触れ、楽しさを感じられるよう、市民が文化芸術活動に参加しやすい環境づくりを市民や地域団体等と連携・協働しながら進める必要があります。	
有効性	【成果】 活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか？	a. 上がっている b. 徐々に上がっている c. 上がっていない	a
	評価の理由	活動指標は目標値をほぼ達成しています。現在市が直営で行っている部分について、実績を有する事業者への委託により効率的・効果的な実施が見込まれます。	
効率性	【民間の活用】 委託や指定管理者制度など、実施手法について民間活用によりコストを削減できる余地があるか？	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	b
	【事業手法等の見直し】 事業の成果を維持しながら、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性があるか？	a. 可能性はない b. 可能性はある	b
	【質の向上】 事業を適正な(過小でも、過大でもない)規模の人員体制・費用で行いながら、市民サービスや市役所内部(職員・組織)の質の向上を図ることができる余地があるか？	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	b
	評価の理由	・民間活用可能な取組について委託や補助等を概ね取り入れていますが、プラチナファッションショーは他都市で多数の開催実績を有する事業者への委託により効率的・効果的な実施が見込まれるため改善を検討します。 ・かわさき市民第九コンサートは、市民主体で運営されている事業で、参加者や観客からも応分の負担を徴収しています。	

施策への貢献度	貢献度区分	上記「有効性」の成果等を踏まえ左記区分を選んだ理由	
	A. 貢献している B. やや貢献している C. 貢献の度合いが薄い	A	市民主体の文化芸術活動への支援や、市民や文化団体等との連携・協働により、市内で様々な文化芸術イベント等が実施され、市民が文化芸術活動に参加しやすい環境づくりが進みました。

改善 (Action)

今後の事業の方向性	方向性区分	実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性	
	I. 現状のまま継続 II. 改善しながら継続 III. 事業規模拡大 IV. 事業規模縮小 V. 事業廃止 VI. 事業終了	II	これまでの市民主体、市民や文化団体等と連携・協働した文化芸術の取組を継続するとともに、2020東京オリンピック・パラリンピックに向け、障害の有無に関わらず誰もが芸術文化に親しめる環境づくりを進めます。
今後の事業の方向性を踏まえた次年度の計画上的変更箇所	変更前 (次年度計画上の記載)		
	変更後 (上記計画上の記載に対する変更点)	⑧/パラアート推進事業の実施【新規】	
	変更の理由	障害のある方もない方も一緒に文化芸術活動に携われる環境づくり、鑑賞環境づくりの促進を目的として、パラアート推進事業を新規に実施します。	

平成28年度 事務事業評価シート

事業の概要

事務事業	事務事業コード	事務事業名				実施計画の記載		
	40802020	文化財保護・活用事業				有		
担当	所属コード	所属名						
	882200	教育委員会事務局生涯学習部文化財課						
実施期間	事業開始年度	事業終了年度	事務・サービス等の分類	分類1(市民サービス等)	分類2(内部事務)			
	—	—	その他	その他	その他			
実施形態	<input checked="" type="checkbox"/> 市が直接実施 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 全部委託・指定管理 <input checked="" type="checkbox"/> ボランティア等との協働 <input type="checkbox"/> その他							
実施根拠	<input type="checkbox"/> 国・県の制度 <input checked="" type="checkbox"/> 国・県の制度＋市独自の制度 <input type="checkbox"/> 市独自の制度 (法令・要綱等) 文化財保護法、川崎市文化財保護条例、ほか							
総合計画と連携する計画等	教育振興基本計画かわさき教育プラン第1期実施計画、文化芸術振興計画、文化財保護活用計画							
行財政改革プログラムに関連する課題名	改革項目		課題名					
予決算 (単位:千円)	年度	H27年度		H28年度		H29年度		
		予算額	決算額	予算額	決算額(見込)	計画事業費	予算額	決算額
	財源内訳	事業費 A	43,498	38,884	46,852	46,491	51,714	58,284
		国庫支出金	2,093	—	1,649	—	1,649	1,379
		市債	0	—	0	—	0	0
		その他特財	719	—	9,726	—	20,762	23,118
	一般財源	40,686	—	35,477	—	29,303	33,787	
人件費* B			48,506	48,506	0	0	0	
総コスト(A+B)			95,358	94,997	51,714	58,284	0	
人工(単位:人)			5.72					

※ 人件費は、各年度の予算における職員1人当たり人件費に、各年度の人工を乗じて算出した参考値です。

計画 (Plan)

政策体系	政策 施策	スポーツ・文化芸術を振興する 市民の文化芸術活動の振興
	直接目標	市内の文化芸術活動を推進し、一層市民に身近なものにする
事業の対象 (事業の対象となる人、物)	市民及び文化財所有者	
事業の目的 (対象をどのような状態にしたいか)	文化財の適切な保存と活用により、市民文化の向上・発展に貢献します。	
事業の内容 (どういった業務内容で、どのような手段で実施しているか)	市民の郷土に対する認識を深め、地域の人々の心のよりどころとなるよう、文化財保護活用計画に基づき、文化財の調査・保護・活用の取組を進めます。	
今年度の事業の取組内容 (具体的に今年度どのような活動をするのか)	①文化財保護活用計画に基づく文化財の調査・保護・活用事業の推進 ②指定文化財の保存修理等の実施 ③文化財ボランティアの育成・確保 ④埋蔵文化財の発掘調査等の実施	

実施結果 (Do)

上記「今年度の事業の取組内容」に対する達成度	3	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った				
取組内容の実績等 (上記「当該年度の取組内容」に対し、「数値等でより具体的に実績を示すことができる取組」、又は「未達成部分」若しくは「より達成できた部分」を記載)	目標どおり達成できました。					
指標分類	数値で事業の実績・効果等を把握できる指標 (指標の説明)	目標・実績	H27年度	H28年度	H29年度	単位
1 成果指標	文化財ボランティアが参加した事業数	目標	/	15	15	日
	説明 文化財ボランティアが地域の文化財の保護・活用・調査に参加した事業数(共催事業も含む)	実績	18	46		
2	説明	目標	/			
		実績				
3	説明	目標	/			
		実績				
4	説明	目標	/			
		実績				

評価 (Check)

事業を取り巻く社会環境の変化 (国・県・他団体の動向や法改正、規制緩和など)	文化庁による歴史文化基本構想(文化財をその周辺環境も含めて総合的に保存・活用するためのマスタープラン)の策定促進など、文化財の保護だけでなく、活用の推進が求められています。
事業の見直し・改善内容	<input checked="" type="checkbox"/> 実施 (直近) H 25 年度 <input type="checkbox"/> 未実施
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載	H25年度:文化財を活かした魅力あるまちづくりの推進のため、「川崎市文化財保護活用計画」を策定しました。

評価項目		評価	
必要性	【市民のニーズ】 事業を取り巻く環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか?	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	【市が実施する必要性】 他都市で、民間等でサービス提供している事例がないか?	a. ない b. ある	a
	評価の理由	超高齢化や地域コミュニティの脆弱化などの現代的な課題へのアプローチの一つとして、地域資源的価値や地域アイデンティティの源としての価値、まちづくりの中核としての価値を内包し、地域の歴史・文化への理解を促進する効果をもたらす文化財の保護・活用事業の必要性は高まっています。	
有効性	【成果】 活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか?	a. 上がっている b. 徐々に上がっている c. 上がっていない	a
	評価の理由	成果指標の実績は目標を上回り、地域・市民ボランティア団体との連携が推進されることで、文化財の保護・活用に成果を上げています。	
効率性	【民間の活用】 委託や指定管理者制度など、実施手法について民間活用によりコストを削減できる余地があるか?	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	a
	【事業手法等の見直し】 事業の成果を維持しながら、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性はあるか?	a. 可能性はない b. 可能性はある	a
	【質の向上】 事業を適正な(過小でも、過大でもない)規模の人員体制・費用で行いながら、市民サービスや市役所内部(職員・組織)の質の向上を図ることができる余地があるか?	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	a
	評価の理由	文化財保護法・文化財保護条例に基づく公共性の強い事業であり、収益性はほぼないため、民間活用によるコスト削減の余地はありません。また、現状において、適正規模での経費・人員で可能な限りの市民サービスと効率的な事務執行を行い、事業の成果を維持しています。	
施策への貢献度	貢献度区分	上記「有効性」の成果等を踏まえ左記区分を選んだ理由	
	A. 貢献している B. やや貢献している C. 貢献の度合いが薄い	A	成果指標の実績は目標を上回り、地域・市民ボランティア団体との積極的な連携により、文化財の適切な保存と活用が推進されたことから、施策への貢献はありました。

改善 (Action)

今後の事業の方向性	方向性区分	実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性
	I. 現状のまま継続 II. 改善しながら継続 III. 事業規模拡大 IV. 事業規模縮小 V. 事業廃止 VI. 事業終了	I 今後とも市民の郷土に対する認識を深め、地域の人々の心のよりどころとなるよう、文化財保護活用計画に基づき、文化財の調査・保護・活用の取組を進めます。
今後の事業の方向性を踏まえた次年度の計画上の変更箇所	変更前 (次年度計画上の記載)	
	変更後 (上記計画上の記載に対する変更点)	
	変更の理由	

平成28年度 事務事業評価シート

事業の概要

事務事業	事務事業コード	事務事業名				実施計画の記載			
	40802030	東海道かわさき宿交流館管理運営事業				有			
担当	所属コード	所属名							
	258000	市民文化局市民文化振興室							
実施期間	事業開始年度	事業終了年度	事務・サービス等の分類	分類1(市民サービス等)	分類2(内部事務)				
	—	—		施設の管理・運営	—				
実施形態	<input checked="" type="checkbox"/> 市が直接実施 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input checked="" type="checkbox"/> 全部委託・指定管理 <input type="checkbox"/> ボランティア等との協働 <input type="checkbox"/> その他								
実施根拠	<input type="checkbox"/> 国・県の制度 <input checked="" type="checkbox"/> 国・県の制度＋市独自の制度 <input type="checkbox"/> 市独自の制度 (法令・要綱等) 文化芸術振興基本法、川崎市文化芸術振興条例、東海道かわさき宿交流館条例、東海道かわさき宿交流館条例規則								
総合計画と連携する計画等	国際施策推進プラン、資産マネジメントカルテ、都市計画マスタープラン、文化芸術振興計画、文化財保護活用計画、シティプロモーション戦略プラン、新・かわさき観光振興プラン								
行財政改革プログラムに関連する課題名	改革項目		課題名						
予決算 (単位:千円)	年度	H27年度		H28年度		H29年度			
		予算額	決算額	予算額	決算額(見込)	計画事業費	予算額	決算額	
	財源内訳	事業費 A		45,660	44,630	45,689	43,960	45,689	45,688
		国庫支出金	0	—	0	—	0	0	0
		市債	0	—	0	—	0	0	0
		その他特財	0	—	0	—	0	0	0
		一般財源	45,660	—	45,689	—	45,689	—	45,688
	人件費* B				6,021	6,021	0	0	0
	総コスト(A+B)				51,710	49,981	45,689	45,688	0
	人工(単位:人)				0.71				

※ 人件費は、各年度の予算における職員1人当たり人件費に、各年度の人工を乗じて算出した参考値です。

計画 (Plan)

政策体系	政策	スポーツ・文化芸術を振興する
	施策	市民の文化芸術活動の振興
	直接目標	市内の文化芸術活動を推進し、一層市民に身近なものにする
事業の対象 (事業の対象となる人、物)	市民	
事業の目的 (対象をどのような状態にしたいか)	東海道川崎宿の歴史、文化を学び、後世に伝え、地域活動・地域交流を推進することで、文化芸術活動を通じた市民相互の交流を進めます。	
事業の内容 (どういった業務内容で、どのような手段で実施しているか)	指定管理者による効率的・効果的な運営により東海道川崎宿に関する展示などの事業を実施するほか、市民の文化活動や交流の場を提供します。	
今年度の事業の取組内容 (具体的に今年度どのような活動をするのか)	①東海道川崎宿の歴史・民俗資料等の展示 ②東海道川崎宿に関する地域活動の支援や地域交流拠点としての取組の推進	

実施結果 (Do)

上記「今年度の事業の取組内容」に対する達成度	3	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った				
取組内容の実績等 (上記「当該年度の取組内容」に対し、「数値等でより具体的に実績を示すことができる取組」、又は「未達成部分」若しくは「より達成できた部分」を記載)	地域と連携した館の運営や企画展、その他事業などの実施によりほぼ昨年度並みの来館者がありました。また、外国人対応のため、展示パネルの多言語対応について、取組を行いました。					
指標分類	数値で事業の実績・効果等を把握できる指標 (指標の説明)	目標・実績	H27年度	H28年度	H29年度	単位
1 成果指標	年間利用者数	目標		50,000	50,000	人
	説明 4月から翌年3月までの貸館利用者を含めた利用者数	実績	50,857	47,120		
2	説明	目標				
		実績				
3	説明	目標				
		実績				
4	説明	目標				
		実績				

評価 (Check)

事業を取り巻く社会環境の変化 (国・県・他団体の動向や法改正、規制緩和など)	2020年の東京オリンピック・パラリンピックの開催決定に伴い、川崎の歴史・文化を伝える施設として、海外からの利用者増が見込まれます。
事業の見直し・改善内容	<input checked="" type="checkbox"/> 実施 (直近) H 25 年度 <input type="checkbox"/> 未実施
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載	平成25年度: 開館当初から指定管理者制度を導入しています。

評価項目		評価	
必要性	【市民のニーズ】 事業を取り巻く環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか?	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	【市が実施する必要性】 他都市で、民間等でサービス提供している事例がないか?	a. ない b. ある	a
	評価の理由	近年では、歴史を学びながら東海道沿道を歩く、東海道ウォークの需要が増えており、今後は、2020年へ向けて、外国人客などを含め、ますます必要性は高まってくると考えます。	
有効性	【成果】 活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか?	a. 上がっている b. 徐々に上がっている c. 上がっていない	b
	評価の理由	新規企画展やその他事業について、積極的に実施をする事で、リピーター確保を図っており、類似施設よりも多い約5万人の来館者数を確保しています。	
効率性	【民間の活用】 委託や指定管理者制度など、実施手法について民間活用によりコストを削減できる余地があるか?	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	c
	【事業手法等の見直し】 事業の成果を維持しながら、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性はあるか?	a. 可能性はない b. 可能性はある	a
	【質の向上】 事業を適正な(過小でも、過大でもない)規模の人員体制・費用で行いながら、市民サービスや市役所内部(職員・組織)の質の向上を図ることができる余地があるか?	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	c
	評価の理由	既に、指定管理者制度による民間活用のメリットを生かしたコスト削減を最大限図っています。	
施策への貢献度	貢献度区分	上記「有効性」の成果等を踏まえ左記区分を選んだ理由	
	A. 貢献している B. やや貢献している C. 貢献の度合いが薄い	B	開館以降、安定した来館者数を推移しており、市民の文化芸術活動の振興に寄与しています。



改善 (Action)

今後の事業の方向性	方向性区分	実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性
今後の事業の方向性	I. 現状のまま継続 II. 改善しながら継続 III. 事業規模拡大 IV. 事業規模縮小 V. 事業廃止 VI. 事業終了	I
今後の事業の方向性を踏まえた次年度の計画上の変更箇所	変更前 (次年度計画上の記載)	運営協議会等をとおして地域の声を取り入れながら、地域の文化交流、東海道かわさき宿の歴史文化の発信等の拠点として施設の機能充実を図ってまいりました。今後も、施設の安定した運営のため、現在の業務内容を維持していきます。
	変更後 (上記計画上の記載に対する変更点)	
	変更の理由	

平成28年度 事務事業評価シート

事業の概要

事務事業	事務事業コード	事務事業名				実施計画の記載			
	40802040	市民ミュージアム管理運営事業				有			
担当	所属コード	所属名							
	258300	市民文化局川崎市市民ミュージアム							
実施期間	事業開始年度	事業終了年度	事務・サービス等の分類	分類1(市民サービス等)	分類2(内部事務)				
	—	—		施設の管理・運営	—				
実施形態	<input checked="" type="checkbox"/> 市が直接実施 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 全部委託・指定管理 <input type="checkbox"/> ボランティア等との協働 <input type="checkbox"/> その他								
実施根拠	<input type="checkbox"/> 国・県の制度 <input type="checkbox"/> 国・県の制度+市独自の制度 <input checked="" type="checkbox"/> 市独自の制度 (法令・要綱等) 川崎市市民ミュージアム条例								
総合計画と連携する計画等	資産マネジメントカルテ、情報化推進プラン、文化芸術振興計画、文化財保護活用計画、川崎市市民ミュージアム新たな取組方針								
行財政改革プログラムに関連する課題名	改革項目			課題名					
	1(4) 市民サービス向上に向けた民間部門の活用			4 市民ミュージアムにおける指定管理者制度の導入					
予決算 (単位:千円)	年度	H27年度		H28年度		H29年度			
		予算額	決算額	予算額	決算額(見込)	計画事業費	予算額	決算額	
	財源内訳	事業費 A	479,497	429,846	637,013	553,006	637,013	485,772	
		国庫支出金	0	-	0	-	0	0	
		市債	43,000	-	216,000	-	162,000	0	
		その他特財	22,553	-	26,172	-	26,172	3,345	
	一般財源	413,944	-	394,841	-	448,841	482,427		
人件費* B			65,296	65,296	0	0	0		
総コスト(A+B)			702,309	618,302	637,013	485,772	0		
人工(単位:人)			7.7						

※ 人件費は、各年度の予算における職員1人当たり人件費に、各年度の人工を乗じて算出した参考値です。

計画 (Plan)

政策体系	政策	スポーツ・文化芸術を振興する
	施策	市民の文化芸術活動の振興
	直接目標	市内の文化芸術活動を推進し、一層市民に身近なものにする
事業の対象 (事業の対象となる人、物)	市民	
事業の目的 (対象をどのような状態にしたいか)	本市の歴史資料と美術・映像作品を扱うなど市民から親しまれる魅力ある博物館をめざすとともに、博物館と美術館の機能を併せ持つ公立の複合文化施設として、文化・芸術を活かしたまちづくりを推進することで、市民の教育、学術等に資するとともに市民相互の交流を推進することで、市民の教育、学術及び文化の発展に貢献します。	
事業の内容 (どういった業務内容で、どのような手段で実施しているか)	<ul style="list-style-type: none"> ・考古、歴史、民俗、絵画、工芸、漫画写真、ポスター、映像等に係る実物、複製、模型等の資料及び作品の収集、保管、展示を行います。 ・資料等に関する講座、講演会、映写会、研究会等を開催します。 ・資料等に関する説明及び助言を行います。 ・市民の文化活動の助長、奨励及び指導を行います。 ・資料等に関する専門的及び技術的な調査研究並びに解説書、目録、年報調査研究報告書等の作成及び頒布を行います。 ・博物館、図書館、学校、研究所その他関係機関と協力し、刊行物及び情報の交換、資料等の相互貸借等を行います。 ・施設及び設備の利用を行います。 	
今年度の事業の取組内容 (具体的に今年度どのような活動をするのか)	①漫画・アニメ・映像・写真などの館の特徴を活かした展覧会の開催 ②ホームページやSNSを活用した情報発信の更なる強化に向けた取組の推進 ③文化芸術人材の交流の場の形成・活動機会の創出 ④指定管理者の募集及び選定 ⑤施設の長寿命化に向けた取組の推進	

実施結果 (Do)

上記「今年度の事業の取組内容」に対する達成度	3	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った				
取組内容の実績等 (上記「当該年度の取組内容」に対し、「数値等でより具体的に実績を示すことができる取組」、又は「未達成部分」若しくは「より達成できた部分」を記載)	目標どおり達成できました。 ①館の特徴を活かした展覧会を7回開催。 ②年間を通じて集客の強化に向け、展覧会やワークショップ等の開催状況の様子をホームページやSNSで積極的に発信。 ③若手作家を幅広く紹介し川崎ゆかりの作家の創出を目指す「アンバサンド」展を8月に開催。 ④事業者の募集を4月に、事業者の応募、選定を経て10月に事業者を指定。 ⑤エレベーターの改修工事を実施するとともに、屋上防水・壁面改修に伴う実施設計を行いました。					
指標分類	数値で事業の実績・効果等を把握できる指標 (指標の説明)	目標・実績	H27年度	H28年度	H29年度	単位
1 成果指標	年間総来館者数	目標		191,000	201,000	人
	説明 様々な事業を実施することから年間総来館者数を指標とすることで成果を測ることができる。	実績	177,176	181,910		
2	説明	目標				
		実績				
3	説明	目標				
		実績				

評価 (Check)

事業を取り巻く社会環境の変化 <small>(国・県・他団体の動向や法改正、規制緩和など)</small>	平成16年2月の包括外部監査において厳しい指摘を受け、平成17年度に策定した「川崎市市民ミュージアム改革基本計画」で自らがめざす姿を明確にし、集客と経営効率の向上をめざして数値目標を設定しました。この基本計画に基づく様々な取組を進め、年間総来館者数及び収支比率は一定の成果をあげましたが、充実すべき取組は依然残っており、更なる魅力形成と向上を図るほか効果的・効率的な運営が求められています。
事業の見直し・改善内容 具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載	<input checked="" type="checkbox"/> 実施 (直近) H 28 年度 <input type="checkbox"/> 未実施 平成17年度:川崎市市民ミュージアム改革基本計画の策定しました。 平成18年度:生涯学習財団への管理委託の廃止と段階的直営化、民間館長の導入を行いました。 平成22年度:教育委員会から市長部局へ移管、川崎市市民ミュージアム改革の進捗状況と今後3年間の取組方針を策定しました。 平成25年度:川崎市市民ミュージアム新たな取組方針の策定しました。 平成27年度:指定管理者制度導入に向けた条例改正を行いました。 平成28年度:指定管理者の募集、選定、指定を行いました。

評価項目		評価	
必要性	【市民のニーズ】 事業を取り巻く環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか？	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	【市が実施する必要性】 他都市で、民間等でサービス提供している事例がないか？	a. ない b. ある	b
	評価の理由	次年度から施設の魅力向上や効率的効果的な施設運営を図るため指定管理者による施設運営に移行することから、今後は効果的なモニタリングを実施するなど継続的に行政が係わっていく必要があります。	
有効性	【成果】 活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか？	a. 上がっている b. 徐々に上がっている c. 上がっていない	b
	評価の理由	現在市が直営としている施設運営全般を民間のノウハウを最大限に活用することで、事業成果をさらに高めることができる余地があります。	
効率性	【民間の活用】 委託や指定管理者制度など、実施手法について民間活用によりコストを削減できる余地があるか？	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	b
	【事業手法等の見直し】 事業の成果を維持しながら、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性はあるか？	a. 可能性はない b. 可能性はある	b
	【質の向上】 事業を適正な(過小でも、過大でもない)規模の人員体制・費用で行いながら、市民サービスや市役所内部(職員・組織)の質の向上を図ることができる余地があるか？	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	b
	評価の理由	次年度から指定管理者制度に移行するため、施設運営に関するコスト削減が見込まれます。	

施策への貢献度	貢献度区分		上記「有効性」の成果等を踏まえ左記区分を選んだ理由
	A. 貢献している B. やや貢献している C. 貢献の度合いが薄い	A	

改善 (Action)

今後の事業の方向性	方向性区分		実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性
	I. 現状のまま継続 II. 改善しながら継続 III. 事業規模拡大 IV. 事業規模縮小 V. 事業廃止 VI. 事業終了	I	
今後の事業の方向性を踏まえた次年度の計画上の変更箇所	変更前 (次年度計画上の記載)		
	変更後 (上記計画上の記載に対する変更点)		
	変更の理由		

平成28年度 事務事業評価シート

事業の概要

事務事業	事務事業コード	事務事業名				実施計画の記載			
	40802050	大山街道ふるさと館管理運営事業				有			
担当	所属コード	所属名							
	258000	市民文化局市民文化振興室							
実施期間	事業開始年度	事業終了年度	事務・サービス等の分類	分類1(市民サービス等)	分類2(内部事務)				
	—	—		施設の管理・運営	—				
実施形態	<input type="checkbox"/> 市が直接実施 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input checked="" type="checkbox"/> 全部委託・指定管理 <input type="checkbox"/> ボランティア等との協働 <input type="checkbox"/> その他								
実施根拠	<input type="checkbox"/> 国・県の制度 <input checked="" type="checkbox"/> 国・県の制度+市独自の制度 <input type="checkbox"/> 市独自の制度 (法令・要綱等) 文化芸術振興基本法、川崎市文化芸術振興条例、川崎市大山街道ふるさと館条例、川崎市大山街道ふるさと館条例施行規則								
総合計画と連携する計画等	資産マネジメントカルテ、都市計画マスタープラン、文化芸術振興計画、文化財保護活用計画								
行財政改革プログラムに関連する課題名	改革項目			課題名					
予決算 (単位:千円)	年度	H27年度		H28年度		H29年度			
		予算額	決算額	予算額	決算額(見込)	計画事業費	予算額	決算額	
	財源内訳	事業費 A	23,763	23,762	25,210	25,967	25,210	25,262	
		国庫支出金	0	—	0	—	0	0	
		市債	0	—	0	—	0	0	
		その他特財	9	—	9	—	9	9	
	一般財源	23,754	—	25,201	—	25,201	25,253		
人件費* B			509	509	0	0	0		
総コスト(A+B)			25,719	26,476	25,210	25,262	0		
人工(単位:人)			0.06						

※ 人件費は、各年度の予算における職員1人当たり人件費に、各年度の人工を乗じて算出した参考値です。

計画 (Plan)

政策体系	政策 施策	スポーツ・文化芸術を振興する 市民の文化芸術活動の振興
	直接目標	市内の文化芸術活動を推進し、一層市民に身近なものにする
事業の対象 (事業の対象となる人、物)	市民	
事業の目的 (対象をどのような状態にしたいか)	大山街道に係る歴史、文化を学ぶとともに、学習の場を提供することにより、文化芸術活動を通じた市民相互の交流を進めます。	
事業の内容 (どういった業務内容で、どのような手段で実施しているか)	指定管理者による効率的・効果的な運営により、大山街道に関する民俗等に関する資料、郷土にゆかりのある人の美術、文学等の作品等の展示を行うとともに、市民の文化活動や交流の場を提供します。	
今年度の事業の取組内容 (具体的に今年度どのような活動をするのか)	①大山街道に関する歴史・民俗資料等の展示 ②大山街道に関する地域の文化活動への支援や地域団体と連携した大山街道の魅力を発信する取組の推進	

実施結果 (Do)

上記「今年度の事業の取組内容」に対する達成度	3	1. 目標を大きく上回って達成 4. 目標を下回った 2. 目標を上回って達成 5. 目標を大きく下回った 3. ほぼ目標どおり							
取組内容の実績等 (上記「当該年度の取組内容」に対し、「数値等でより具体的に実績を示すことができる取組」、又は「未達成部分」若しくは「より達成できた部分」を記載)	②について、昨年から開催しているサポーターズクラブまつりのほか、今年度からふるさと館まつりを実施しました。さらに自主事業として、街道沿道の商店と連携した街のマイスター体験講座を新規に開催しました。 なお、年間利用人数が平成27年度から大幅に増加していますが、これは展示室入口に新たに来館者カウンターを設置し、カウンターの数値が利用人数に計数されていることが影響しています。								
指標分類	数値で事業の実績・効果等を把握できる指標 (指標の説明)				目標・実績	H27年度	H28年度	H29年度	単位
1	成果 指標	年間利用人数			目標				人
		説明	4月から翌年3月までの貸館利用者を含めた利用人数		実績	42,918	60,328		
2					目標				
		説明			実績				
3					目標				
		説明			実績				
4					目標				
		説明			実績				

評価 (Check)

事業を取り巻く社会環境の変化 (国・県・他団体の動向や法改正、規制緩和など)	平成26年12月に川崎市と世田谷区との連携・協力に関する包括協定を締結したことにより、多摩川や街道を介した地域間の連携、交流など地域資源の活用によるにぎわいのあるまちづくりの気運が高まっています。
事業の見直し・改善内容	<input checked="" type="checkbox"/> 実施 (直近) H 18 年度 <input type="checkbox"/> 未実施
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載	平成18年度: 指定管理者制度を導入しました。

評価項目		評価	
必要性	【市民のニーズ】 事業を取り巻く環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか?	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	【市が実施する必要性】 他都市で、民間等でサービス提供している事例がないか?	a. ない b. ある	a
	評価の理由	本施設は地域の歴史資源に関する情報発信とその活用による地域コミュニティ活性化の中心的な位置づけの施設であり、地域団体との協力や区役所事業との連携を効果的に行っていくために、引き続き行政で役割を担っていく必要があります。	
有効性	【成果】 活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか?	a. 上がっている b. 徐々に上がっている c. 上がっていない	b
	評価の理由	成果指標について、目標値及び前年を上回る実績となっています。地域団体と連携した大山街道の魅力を発信する取組に関しても、講座の参加者数は前年より増加しています。	
効率性	【民間の活用】 委託や指定管理者制度など、実施手法について民間活用によりコストを削減できる余地があるか?	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	c
	【事業手法等の見直し】 事業の成果を維持しながら、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性はあるか?	a. 可能性はない b. 可能性はある	a
	【質の向上】 事業を適正な(過小でも、過大でもない)規模の人員体制・費用で行いながら、市民サービスや市役所内部(職員・組織)の質の向上を図ることができる余地があるか?	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	c
	評価の理由	指定管理者制度を活用して2期目、5年の指定管理期間中3年目にあたります。指定管理費の枠内の予算執行を堅持しつつ利用者数を伸ばし、運営の効率化を図れています。	
施策への貢献度	貢献度区分	上記「有効性」の成果等を踏まえ左記区分を選んだ理由	
	A. 貢献している B. やや貢献している C. 貢献の度合いが薄い	A	各種講座の開催による地域の歴史に関する学習機会の提供、企画展を通じた地域の芸術活動促進などを着実に実施できています。また、地域団体と協力したイベント開催は地元住民の交流の場となっているだけでなく、来館を通じた大山街道の歴史文化への関心喚起の機会ともなっており、施策に貢献しています。

改善 (Action)

今後の事業の方向性	方向性区分	実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性
	I. 現状のまま継続 II. 改善しながら継続 III. 事業規模拡大 IV. 事業規模縮小 V. 事業廃止 VI. 事業終了	I
今後の事業の方向性を踏まえた次年度の計画上の変更箇所	変更前 (次年度計画上の記載)	
	変更後 (上記計画上の記載に対する変更点)	
	変更の理由	

平成28年度 事務事業評価シート

事業の概要

事務事業	事務事業コード	事務事業名				実施計画の記載			
	40802060	市民プラザ管理運営事業				有			
担当	所属コード	所属名							
	251300	市民文化局市民生活部企画課							
実施期間	事業開始年度	事業終了年度	事務・サービス等の分類	分類1(市民サービス等)	分類2(内部事務)				
	平成24年度	—	施設の管理・運営	—	—				
実施形態	<input type="checkbox"/> 市が直接実施 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input checked="" type="checkbox"/> 全部委託・指定管理 <input type="checkbox"/> ボランティア等との協働 <input type="checkbox"/> その他								
実施根拠	<input type="checkbox"/> 国・県の制度 <input type="checkbox"/> 国・県の制度+市独自の制度 <input checked="" type="checkbox"/> 市独自の制度 (法令・要綱等) 川崎市民プラザ条例、川崎市民プラザ条例施行規則								
総合計画と連携する計画等	資産マネジメントカルテ、スポーツ推進計画								
行財政改革プログラムに関連する課題名	改革項目			課題名					
予決算 (単位:千円)	年度	H27年度		H28年度		H29年度			
		予算額	決算額	予算額	決算額(見込)	計画事業費	予算額	決算額	
	財源内訳	事業費 A	364,440	319,878	379,086	364,711	379,086	411,573	
		国庫支出金	0	-	0	-	0	0	
		市債	55,000	-	88,000	-	66,000	121,000	
		その他特財	0	-	0	-	0	0	
		一般財源	309,440	-	291,086	-	313,086	290,573	
	人件費* B			7,632	7,632	0	0	0	
	総コスト(A+B)			386,718	372,343	379,086	411,573	0	
	人工(単位:人)				0.9				

※ 人件費は、各年度の予算における職員1人当たり人件費に、各年度の人工を乗じて算出した参考値です。

計画 (Plan)

政策体系	政策 施策 直接目標	スポーツ・文化芸術を振興する 市民の文化芸術活動の振興 市内の文化芸術活動を推進し、一層市民に身近なものにする
事業の対象 (事業の対象となる人、物)	市民、市民で構成される団体、企業	
事業の目的 (対象をどのような状態にしたいか)	市民の健康増進や文化の振興を図るとともに、市民相互の交流の機会を提供することにより、市民の福祉の向上に寄与することを目指します。	
事業の内容 (どういった業務内容で、どのような手段で実施しているか)	健康増進に資する教室や文化教養に関する講座、市民相互の交流を促進するための行事等を開催するとともに、多目的に利用可能な施設・設備の貸し出しを行います。	
今年度の事業の取組内容 (具体的に今年度どのような活動をするのか)	①文化・教養に関する教室の開催 ②プール・体育館などの利用提供の推進 ③市民の相互の交流促進に向けた行事等の実施 ④中期修繕計画に基づく施設整備の実施	

実施結果 (Do)

上記「今年度の事業の取組内容」に対する達成度	3	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った				
取組内容の実績等 (上記「当該年度の取組内容」に対し、「数値等でより具体的に実績を示すことができる取組」、又は「未達成部分」若しくは「より達成できた部分」を記載)	目標どおり達成できました。					
指標分類	数値で事業の実績・効果等を把握できる指標 (指標の説明)	目標・実績	H27年度	H28年度	H29年度	単位
1 成果指標	全館利用人数 説明 ふるさと劇場、屋内広場、会議室、練習室、茶室、ギャラリー、プール、体育館、トレーニング室、風呂、大広間、囲碁将棋室、プレイルーム、ふるさとコーナー、特別和室のいずれかの施設を教室・講座・行事・貸館等で利用した人の合計	目標		478,200	485,600	人
		実績	457,315	479,995		
2	説明	目標				
		実績				
3	説明	目標				
		実績				
4	説明	目標				
		実績				

評価 (Check)

事業を取り巻く社会環境の変化 (国・県・他団体の動向や法改正、規制緩和など)	老朽化の進んだ施設・設備に対して適切な維持・補修を行うことで、利用者サービス水準を維持・向上していくことが求められています。また、平成26年度末に稼働を休止した橋処理センターの解体・建替工事に伴い、蒸気の供給が停止しており、自前のボイラーの稼働を開始しています。また、同センターに隣接する立体駐車場の移設等にも今後対応していくことになります。
事業の見直し・改善内容	<input checked="" type="checkbox"/> 実施 (直近) H 28 年度 <input type="checkbox"/> 未実施
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載	H24年度: (財)川崎市指定都市記念事業公社から施設の寄付を受けるに際し、指定管理者制度を導入 H27年度: 体育館の利用区分を3区分から4区分に変更、トレーニング室への時間料金制導入 H28年度: 浴室の混雑緩和のため、時間帯別混雑度の掲示(閑散時間帯への誘導)を開始

評価項目		評価	
必要性	【市民のニーズ】 事業を取り巻く環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか？	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	【市が実施する必要性】 他都市で、民間等でサービス提供している事例がないか？	a. ない b. ある	a
	評価の理由	地域住民・団体・企業等にとって、余暇・ビジネス・地域住民の交流等の目的で手軽に利用できる施設として相当な稼働率を保っており、ニーズは引き続き高い状況です。この種の施設は、よほどの立地条件等が整わない限り、純粋な民間ベースでの運営は全国的にも困難であり、本施設についても、市の事業として指定管理者制度により運営を継続することが必要です。	
有効性	【成果】 活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか？	a. 上がっている b. 徐々に上がっている c. 上がっていない	b
	評価の理由	立地特性上、遠方からの利用者増を見込みにくいことや、施設全体が老朽化しており故障等による稼働日数の減少による影響を受けやすい中でも利用者数を伸ばし、市民の健康増進・文化振興・相互交流の推進に貢献しています。	
効率性	【民間の活用】 委託や指定管理者制度など、実施手法について民間活用によりコストを削減できる余地があるか？	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	c
	【事業手法等の見直し】 事業の成果を維持しながら、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性はあるか？	a. 可能性はない b. 可能性はある	b
	【質の向上】 事業を適正な(過小でも、過大でもない)規模の人員体制・費用で行いながら、市民サービスや市役所内部(職員・組織)の質の向上を図ることができる余地があるか？	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	a
	評価の理由	コスト削減、サービスの質の向上にむけた取組としては、指定管理者制度の導入によって一つの区切りを迎えており、現在は、仕様書などには表れない、指定管理者のノウハウを生かした細やかな運営改善を図っています。	
施策への貢献度	貢献度区分	上記「有効性」の成果等を踏まえ左記区分を選んだ理由	
	A. 貢献している B. やや貢献している C. 貢献の度合いが薄い	B	文化教養講座の開催やホール等における文化芸術分野の主催事業・貸館事業の実施により、市民の文化活動の振興に一定程度貢献することができました。



改善 (Action)

今後の事業の方向性	方向性区分	実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性
今後の事業の方向性	I. 現状のまま継続 II. 改善しながら継続 III. 事業規模拡大 IV. 事業規模縮小 V. 事業廃止 VI. 事業終了	I 施設・設備の長寿命化に向けた整備・修繕等の予算を確保し、来館者が快適に施設利用できる環境を維持しながら着実な運営を継続していきます。
今後の事業の方向性を踏まえた次年度の計画上の変更箇所	変更前 (次年度計画上の記載)	
	変更後 (上記計画上の記載に対する変更点)	
	変更の理由	

平成28年度 事務事業評価シート

事業の概要

事務事業	事務事業コード	事務事業名				実施計画の記載			
	40802070	橋樹官衙遺跡群保存整備・活用事業				有			
担当	所属コード	所属名							
	882200	教育委員会事務局生涯学習部文化財課							
実施期間	事業開始年度	事業終了年度	事務・サービス等の分類	分類1(市民サービス等)	分類2(内部事務)				
	—	—	その他	その他	その他				
実施形態	<input checked="" type="checkbox"/> 市が直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 全部委託・指定管理 <input checked="" type="checkbox"/> ボランティア等との協働 <input type="checkbox"/> その他								
実施根拠	<input type="checkbox"/> 国・県の制度 <input checked="" type="checkbox"/> 国・県の制度+市独自の制度 <input type="checkbox"/> 市独自の制度 (法令・要綱等) 文化財保護法								
総合計画と連携する計画等	まち・ひと・しごと創生総合戦略、教育振興基本計画かわさき教育プラン第1期実施計画、文化芸術振興計画、文化財保護活用計画								
行財政改革プログラムに関連する課題名	改革項目		課題名						
予決算 (単位:千円)	年度	H27年度		H28年度		H29年度			
		予算額	決算額	予算額	決算額(見込)	計画事業費	予算額	決算額	
	財源内訳	事業費 A	186,506	187,210	11,742	9,853	11,742	9,301	
		国庫支出金	144,267	-	4,731	-	4,731	3,135	
		市債	31,000	-	0	-	0	0	
		その他特財	553	-	113	-	113	113	
	一般財源	10,686	-	6,898	-	6,898	6,053		
人件費* B			13,398	13,398	0	0	0		
総コスト(A+B)			25,140	23,251	11,742	9,301	0		
人工(単位:人)			1.58						

※ 人件費は、各年度の予算における職員1人当たり人件費に、各年度の人工を乗じて算出した参考値です。

計画 (Plan)

政策体系	政策	スポーツ・文化芸術を振興する
	施策	市民の文化芸術活動の振興
	直接目標	市内の文化芸術活動を推進し、一層市民に身近なものにする
事業の対象 (事業の対象となる人、物)	市民	
事業の目的 (対象をどのような状態にしたいか)	市内で初めて国史跡に指定された橋樹官衙遺跡群を、市民共有の財産として保存整備・活用を図ります。	
事業の内容 (どういった業務内容で、どのような手段で実施しているか)	市民の橋樹官衙遺跡群への理解・認識を深めるため、保存活用計画の検討を行うとともに、史跡めぐり等活用事業を実施します。	
今年度の事業の取組内容 (具体的に今年度どのような活動をするのか)	①「橋樹官衙遺跡群保存活用計画」の検討 ②調査・研究・保存事業の実施 ③史跡めぐり等活用事業の実施 ④市民との協働による環境整備・維持管理の実施	

実施結果 (Do)

上記「今年度の事業の取組内容」に対する達成度	3	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った				
取組内容の実績等 (上記「当該年度の取組内容」に対し、「数値等でより具体的に実績を示すことができる取組」、又は「未達成部分」若しくは「より達成できた部分」を記載)	目標どおり達成できました。 ③史跡めぐり等活用事業については、平成22～26年度の5年間で平均80名の参加者数でしたが、平成27年度については、国史跡指定記念事業と銘打ち、国庫補助を活用して予算化を図り、JRや私鉄と協力した広報活動も行いながら大がかりなイベントなど活用事業を開催し、1,831人の参加者がありました。 今年度は、高津区と連携協力し、橘ふるさと祭りでの展示・スタンプラリー等を実施するとともに、活用事業を5回開催し、目標を上回る参加者があるなど、引き続き広く周知を図ることができました。					
指標分類	数値で事業の実績・効果等を把握できる指標 (指標の説明)	目標・実績	H27年度	H28年度	H29年度	単位
1 成果指標	史跡めぐり等活用事業の参加者数	目標		100	100	人
	説明 史跡めぐり等、市民の橋樹官衙遺跡群への理解・認識を深めるための事業への参加者数	実績	1,831	336		
2	説明	目標				
		実績				
3	説明	目標				
		実績				
4	説明	目標				
		実績				

評価 (Check)

事業を取り巻く社会環境の変化 (国・県・他団体の動向や法改正、規制緩和など)	国史跡の指摘を受けたことで、史跡の保存活用のためのマスタープラン(史跡の保存活用計画)の策定を行い、史跡の適切な保存と活用の推進を行うことが強く求められています。
事業の見直し・改善内容	<input checked="" type="checkbox"/> 実施 (直近) H 25 年度 <input type="checkbox"/> 未実施
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載	H25年度:文化財を活かした魅力あるまちづくりの推進のため、「川崎市文化財保護活用計画」を策定しました。

評価項目		評価	
必要性	【市民のニーズ】 事業を取り巻く環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか?	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	【市が実施する必要性】 他都市で、民間等でサービス提供している事例がないか?	a. ない b. ある	a
	評価の理由	橋樹官衙遺跡群の保存活用計画策定の検討を進める中で、地元の要望・意見を反映する必要性が高まっているとともに、市民と連携しながら史跡の保存管理や活用事業を推進することが期待されており、これまで以上に行政が果たす役割が高まっています。	
有効性	【成果】 活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか?	a. 上がっている b. 徐々に上がっている c. 上がっていない	a
	評価の理由	成果指標も目標値を上回って達成しています。これまで以上に専門職員等を活用することで、さらに事業の成果を高めることができると考えられます。	
効率性	【民間の活用】 委託や指定管理者制度など、実施手法について民間活用によりコストを削減できる余地があるか?	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	a
	【事業手法等の見直し】 事業の成果を維持しながら、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性はあるか?	a. 可能性はない b. 可能性はある	b
	【質の向上】 事業を適正な(過小でも、過大でもない)規模の人員体制・費用で行いながら、市民サービスや市役所内部(職員・組織)の質の向上を図ることができる余地があるか?	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	a
	評価の理由	市が実施している「橋樹官衙遺跡群保存活用計画」の検討や橋樹官衙遺跡群の調査・研究・保存事業及び環境整備・維持管理業務の実施については、すでに一部を民間に支援業務として委託していますが、適正な人員体制を整えられれば直営で実施し、コスト削減が見込まれるものです。	
施策への貢献度	貢献度区分	上記「有効性」の成果等を踏まえ左記区分を選んだ理由	
	A. 貢献している B. やや貢献している C. 貢献の度合いが薄い	A	史跡めぐり等、市民の橋樹官衙遺跡群への理解・認識を深めるための事業への参加者数は、平成28年度の目標値を上回っているとともに、地元の意見も取り入れつつ橋樹官衙遺跡群の保存・活用におけるマスタープランである保存活用計画策定の検討を進めることで、地元での史跡を活かしたまちづくりへの関心を高め、地域の文化的向上に大きく寄与しています。

改善 (Action)

今後の事業の方向性	方向性区分	実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性
今後の事業の方向性	I. 現状のまま継続 II. 改善しながら継続 III. 事業規模拡大 IV. 事業規模縮小 V. 事業廃止 VI. 事業終了	I
今後の事業の方向性を踏まえた次年度の計画上の変更箇所	変更前 (次年度計画上の記載)	●史跡めぐり等活用事業の実施(参加者数:100人以上)
	変更後 (上記計画上の記載に対する変更点)	●史跡めぐり等活用事業の実施(参加者数:300人以上)
	変更の理由	平成28年度の実績を踏まえ、目標となる参加者数を見直したため。

平成28年度 事務事業評価シート

事業の概要

事務事業	事務事業コード	事務事業名				実施計画の記載			
	40802080	藤子・F・不二雄ミュージアム事業				有			
担当	所属コード	所属名							
	258000	市民文化局市民文化振興室							
実施期間	事業開始年度	事業終了年度	事務・サービス等の分類	分類1(市民サービス等)	分類2(内部事務)				
	—	—		施設の管理・運営	—				
実施形態	<input checked="" type="checkbox"/> 市が直接実施 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input checked="" type="checkbox"/> 全部委託・指定管理 <input type="checkbox"/> ボランティア等との協働 <input type="checkbox"/> その他								
実施根拠	<input type="checkbox"/> 国・県の制度 <input type="checkbox"/> 国・県の制度+市独自の制度 <input checked="" type="checkbox"/> 市独自の制度 (法令・要綱等) 文化芸術振興基本法、川崎市文化芸術振興条例、川崎市藤子・F・不二雄ミュージアム条例、川崎市藤子・F・不二雄ミュージアム条例施行規則								
総合計画と連携する計画等	国際施策推進プラン、資産マネジメントカルテ、文化芸術振興計画、シティプロモーション戦略プラン、新・かわさき観光振興プラン								
行財政改革プログラムに関連する課題名	改革項目		課題名						
予決算 (単位:千円)	年度	H27年度		H28年度		H29年度			
		予算額	決算額	予算額	決算額(見込)	計画事業費	予算額	決算額	
	事業費 A	108,336	102,376	127,924	124,937	127,924	102,034		
	財源内訳	国庫支出金	0	-	0	-	0	0	
		市債	0	-	0	-	0	0	
		その他特財	26,127	-	44,660	-	44,660	20,432	
	一般財源	82,209	-	83,264	-	83,264	81,602		
人件費* B			12,211	12,211	0	0	0		
総コスト(A+B)			140,135	137,148	127,924	102,034	0		
人工(単位:人)			1.44						

※ 人件費は、各年度の予算における職員1人当たり人件費に、各年度の人工を乗じて算出した参考値です。

計画 (Plan)

政策体系	政策 スポーツ・文化芸術を振興する 施策 市民の文化芸術活動の振興 直接目標 市内の文化芸術活動を推進し、一層市民に身近なものにする
事業の対象 (事業の対象となる人、物)	市民
事業の目的 (対象をどのような状態にしたいか)	藤子氏の作品の展示等を通じて、作品に込められたメッセージを幅広い世代へ伝えることにより、多くの市民が文化芸術に触れ、豊かでうれしい生活と魅力あるまちづくりにつなげます。
事業の内容 (どういった業務内容で、どのような手段で実施しているか)	藤子氏の作品等の有効活用を図りながら、指定管理者による効率的・効果的な運営を行うとともに、本市の魅力を国内外へ発信する拠点として、指定管理者や関係局等と連携を図りながら、藤子・F・不二雄ミュージアムを運営します。
今年度の事業の取組内容 (具体的に今年度どのような活動をするのか)	①藤子・F・不二雄の作品及び資料の展示 ②藤子・F・不二雄ミュージアムの魅力を国内外へ発信する取組の推進 ③生田緑地における他美術館と連携した取組の推進 ④開館5周年記念事業の実施

実施結果 (Do)

上記「今年度の事業の取組内容」に対する達成度	3	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った				
取組内容の実績等 (上記「当該年度の取組内容」に対し、「数値等でより具体的に実績を示すことができる取組」、又は「未達成部分」若しくは「より達成できた部分」を記載)	成果指標である入館者数は大ヒット映画「STAND BY ME ドラえもん」とコラボレーションした展示企画を行った平成26年度の入館者数をベースとしていますので、若干指標を下回っていますが、平成28年12月には開館からの累計入館者数が250万人を超えた一方、今年度の取り組むべき事業については、計画どおり達成できました。					
指標分類	数値で事業の実績・効果等を把握できる指標 (指標の説明)	目標・実績	H27年度	H28年度	H29年度	単位
1 成果指標	年間入館者数	目標		474,000	474,000	人
	説明 4月から翌年3月までのミュージアム入館者数	実績	465,685	434,775		
2	説明	目標				
		実績				
3	説明	目標				
		実績				
4	説明	目標				
		実績				

評価 (Check)

事業を取り巻く社会環境の変化 <small>(国・県・他団体の動向や法改正、規制緩和など)</small>	海外からの観光客や大型車両による団体での来館が増えています。さらに、2020年の東京オリンピック・パラリンピックの開催決定に伴い、海外からの利用者増が見込まれます。
事業の見直し・改善内容 具体的な見直し・改善内容 <small>※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載</small>	<input checked="" type="checkbox"/> 実施 (直近) H 28 年度 <input type="checkbox"/> 未実施 平成28年度: 国内団体予約が平日だけでなく土日でもできるようになり、さらに来館予定日の20日前までできるようになりました。 平成27年度: チケット予約・発券端末の利用方法を多言語で表示するシステムを導入しました。 平成27年度: チケット購入時にクレジット決済できるようになりました。 平成27年度: 英語版のミュージアムのチラシを指定管理者が作成し、羽田空港等で配布しました。 平成26年度: 公式SNSを開始し、ミュージアムの最新情報を発信できるようになりました。 平成26年度: 市内小学校の団体入館割引制度を確立しました。 平成25年度: 台風や大雪など天災のため来場が困難な場合は、予約を振替対応できるよう、体制を整えました。 平成25年度: 旅行会社と提携し、海外9か国におけるチケット販売を開始しました。

評価項目		評価	
必要性	【市民のニーズ】 事業を取り巻く環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか？	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	【市が実施する必要性】 他都市で、民間等でサービス提供している事例がないか？	a. ない b. ある	b
	評価の理由	入館者数は若干減少していますが、年間40万人以上の方が来館する市を代表する文化施設であり、川崎市にゆかりのある藤子・F・不二雄氏の作品の展示等を通じ、文化芸術に触れる機会を作り、国内外に本市の魅力発信していく必要があります。	
有効性	【成果】 活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか？	a. 上がっている b. 徐々に上がっている c. 上がっていない	c
	評価の理由	成果指標である入館者数は大ヒット映画「STAND BY ME ドラえもん」とコラボレーションした展示企画を行った平成26年度の入館者数をベースとしていますので、若干指標を下回っています。	
効率性	【民間の活用】 委託や指定管理者制度など、実施手法について民間活用によりコストを削減できる余地があるか？	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	c
	【事業手法等の見直し】 事業の成果を維持しながら、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性はあるか？	a. 可能性はない b. 可能性はある	a
	【質の向上】 事業を適正な(過小でも、過大でもない)規模の人員体制・費用で行いながら、市民サービスや市役所内部(職員・組織)の質の向上を図ることができる余地があるか？	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	c
	評価の理由	平成23年度に指定管理者制度を導入し、民間事業者による効率的・効果的な運用を行っています。	
施策への貢献度	貢献度区分 A. 貢献している B. やや貢献している C. 貢献の度合いが薄い	A	上記「有効性」の成果等を踏まえ左記区分を選んだ理由 入館者数は若干減少していますが、年間40万人を超える来館者がある本市を代表する文化施設であり、開館5周年を記念した事業を指定管理者と連携して実施するなど、さらなる本市の魅力発信施設として、貢献しています。



改善 (Action)

今後の事業の方向性	方向性区分 I. 現状のまま継続 II. 改善しながら継続 III. 事業規模拡大 IV. 事業規模縮小 V. 事業廃止 VI. 事業終了	I	実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性 市を代表する文化施設として、指定管理者による効率的・効果的な運営をするとともに、市民に文化芸術に触れてもらえる機会を提供します。また、国内外からも多くの来館者が見込まれることから、本市の魅力発信施設として、魅力あるまちづくりを推進していきます。
	今後の事業の方向性を踏まえた次年度の計画上の変更箇所		変更前 (次年度計画上の記載)

平成28年度 事務事業評価シート

事業の概要

事務事業	事務事業コード	事務事業名				実施計画の記載		
	40802090	岡本太郎美術館管理運営事業				有		
担当	所属コード	所属名						
	258000	市民文化局市民文化振興室						
実施期間	事業開始年度	事業終了年度	事務・サービス等の分類	分類1(市民サービス等)	分類2(内部事務)			
	平成11年	—		施設の管理・運営	—			
実施形態	<input type="checkbox"/> 市が直接実施 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input checked="" type="checkbox"/> 全部委託・指定管理 <input type="checkbox"/> ボランティア等との協働 <input checked="" type="checkbox"/> その他							
実施根拠	<input type="checkbox"/> 国・県の制度 <input type="checkbox"/> 国・県の制度+市独自の制度 <input checked="" type="checkbox"/> 市独自の制度 (法令・要綱等) 川崎市岡本太郎美術館条例							
総合計画と連携する計画等	国際施策推進プラン、資産マネジメントカルテ、情報化推進プラン、文化芸術振興計画							
行財政改革プログラムに関連する課題名	改革項目			課題名				
予決算 (単位:千円)	年度	H27年度		H28年度		H29年度		
		予算額	決算額	予算額	決算額(見込)	計画事業費	予算額	決算額
	財源内訳	事業費 A	194,540	191,072	225,280	201,274	225,280	227,274
		国庫支出金	0	-	0	-	0	0
		市債	0	-	30,000	-	22,000	29,000
		その他特財	50,363	-	50,374	-	50,374	50,421
	一般財源	144,177	-	144,906	-	152,906	147,853	
人件費* B			55,120	55,120	0	0	0	
総コスト(A+B)			280,400	256,394	225,280	227,274	0	
人工(単位:人)			6.5					

※ 人件費は、各年度の予算における職員1人当たり人件費に、各年度の人工を乗じて算出した参考値です。

計画 (Plan)

政策体系	政策	スポーツ・文化芸術を振興する
	施策	市民の文化芸術活動の振興
	直接目標	市内の文化芸術活動を推進し、一層市民に身近なものにする
事業の対象 (事業の対象となる人、物)	市民	
事業の目的 (対象をどのような状態にしたいか)	美術、芸術に関する創造活動を促進し、市民の芸術及び文化の発展に寄与することを目的とします。	
事業の内容 (どのような業務内容で、どのような手段で実施しているか)	<ul style="list-style-type: none"> 岡本太郎作品と関連の近代現代美術を扱う美術館として資料の収集・保存・調査研究等に基づき、魅力ある展覧会の開催や教育普及事業の実施など美術館活動の充実に努め、市民文化の振興と個性あふれる魅力あるまちづくりにつなげます。 藤子ミュージアム、青少年科学館等の生田緑地内文化施設や地域等との効果的連携により、回遊性の向上と利用者の増加を図ります。 全国・世界に向けて岡本太郎芸術の魅力を発信します。 生田緑地の横断的管理運営を受託した指定管理者の特性を活かした、美術館及び生田緑地の魅力発信を行います。 	
今年度の事業の取組内容 (具体的に今年度どのような活動をするのか)	<ol style="list-style-type: none"> 岡本太郎の美術作品及び資料の展示 図録・資料等の外国語訳など国外への情報発信 他都市を巡回する岡本太郎関連の展覧会など全国に向けた情報発信 作品や資料のデジタル化事業の推進 生田緑地内の他施設と連携した取組の推進 美術館機能の維持・向上のための施設整備 屋外作品の維持・補修の実施 指定管理者の特性を活用した事業展開の促進 	

実施結果 (Do)

上記「今年度の事業の取組内容」に対する達成度	3	<ol style="list-style-type: none"> 目標を大きく上回って達成 目標を上回って達成 ほぼ目標どおり 目標を下回った 目標を大きく下回った
取組内容の実績等 (上記「当該年度の取組内容」に対し、「数値等でより具体的に実績を示すことができる取組」、又は「未達成部分」若しくは「より達成できた部分」を記載)	目標どおり達成できました。 ①常設展、企画展の開催(各年4回開催)、小・中学校等団体の鑑賞学習の実施(133件) ②フォーリン・プレスセンターを活用した広報の実施(年4回)、県と連携した外国人向けツアーの開催及びリーフレットの配布 ③美術館連絡協議会や鉄道博物館等と連携した展覧会の実施 ④岡本太郎撮影写真資料のデジタル化及びプリント作成(133点)、北代省三関連資料の写真デジタル化(1342点)の実施 ⑤夏休み期間を利用した生田緑地スタンプラリーの開催(参加者27,682人)、生田緑地サマーミュージアム等の実施 ⑥施設の長寿命化や作品保存管理、市民の施設利用の利便性の向上を図るため、施設の更新、補修工事を実施(中央監視装置更新工事、屋上防水補修工事、屋外エレベーター補修工事等) ⑦作品保護及び利用者の安全確保に寄与するために屋外作品の補修工事を実施(屋外作品「樹霊」「女」補修工事) ⑧イベント開催時における西口広場等での飲食販売(4回)や展覧会関連イベント「くまモンがやってくるモン」等の自主事業を実施。展覧会に合わせた「沖縄物産展」「熊本物産展」等ショップ販売の実施	

指標分類	数値で事業の実績・効果等を把握できる指標 (指標の説明)			目標・実績	H27年度	H28年度	H29年度	単位
1 成果指標	施設入館者数	目標				75,000	80,000	人
	説明 4月から翌年3月までの美術館入館者数	実績		72,583	75,339			
2		目標						
	説明	実績						

評価 (Check)

事業を取り巻く社会環境の変化 (国・県・他団体の動向や法改正、規制緩和など)	生田緑地の観光強化については「新・かわさき観光振興プラン」の施策に位置づけられており、周辺施設等との連携により多様な観光ニーズに応える緑地の魅力づくりに取り組む必要があります。 平成26年3月から西口園路開通により生田緑地の回遊性の向上が期待されています。		
事業の見直し・改善内容	<input checked="" type="checkbox"/> 実施 (直近) H 25 年度 <input type="checkbox"/> 未実施		
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載	H25年度: 指定管理者制度を導入しました。		

評価項目		評価	
必要性	【市民のニーズ】 事業を取り巻く環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか?	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	【市が実施する必要性】 他都市で、民間等でサービス提供している事例がないか?	a. ない b. ある	b
	評価の理由	生田緑地の観光強化について「新・かわさき観光振興プラン」の施策に位置づけられており、来館者数は平成27年度72,583人から平成28年度75,339人と増加しました。今後も市民ニーズを的確にとらえ、より多くの方々に楽しんでいただける展覧会を開催していくなど、美術館の魅力発信を行って行く必要があります。民営による美術館運営は存在するが、学芸業務については、岡本太郎が非営利の市に寄贈した経緯があり、著作権者との信頼関係、寄贈された膨大な作品・資料の適切な保存、調査研究等市が責任を持って対応する必要があります。	
有効性	【成果】 活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか?	a. 上がっている b. 徐々に上がっている c. 上がっていない	b
	評価の理由	成果指標はほぼ達成している。	
効率性	【民間の活用】 委託や指定管理者制度など、実施手法について民間活用によりコストを削減できる余地があるか?	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	c
	【事業手法等の見直し】 事業の成果を維持しながら、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性はあるか?	a. 可能性はない b. 可能性はある	b
	【質の向上】 事業を適正な(過小でも、過大でもない)規模の人員体制・費用で行いながら、市民サービスや市役所内部(職員・組織)の質の向上を図ることができる余地があるか?	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	b
評価の理由	施設維持管理業務等は既に指定管理者制度を導入しています。広報活動の拡充・管理運営等指定管理者の業務が安定して実施され、市直営業務もほぼ目標どおりに達成できたが、市直営業務のさらなる充実や指定管理者の特性を活かした事業展開の促進など、平成30年度からの次期指定管理者制度導入において、事業手法等修正を図る必要があります。		

施策への 貢献度	貢献度区分		上記「有効性」の成果等を踏まえ左記区分を選んだ理由
	A. 貢献している B. やや貢献している C. 貢献の度合いが薄い	A	

改善 (Action)

今後の事業の方向性	方向性区分		実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性
	I. 現状のまま継続 II. 改善しながら継続 III. 事業規模拡大 IV. 事業規模縮小 V. 事業廃止 VI. 事業終了	I	
今後の事業の方向性を踏まえた次年度の計画上の変更箇所	変更前 (次年度計画上の記載)		
	変更後 (上記計画上の記載に対する変更点)		
	変更の理由		

平成28年度 事務事業評価シート

事業の概要

事務事業	事務事業コード	事務事業名				実施計画の記載		
	40802100	日本民家園管理運営事業				有		
担当	所属コード	所属名						
	882200	教育委員会事務局生涯学習部文化財課						
実施期間	事業開始年度	事業終了年度	事務・サービス等の分類	分類1(市民サービス等)	分類2(内部事務)			
	—	—		施設の管理・運営	その他			
実施形態	<input checked="" type="checkbox"/> 市が直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 全部委託・指定管理 <input checked="" type="checkbox"/> ボランティア等との協働 <input type="checkbox"/> その他							
実施根拠	<input type="checkbox"/> 国・県の制度 <input checked="" type="checkbox"/> 国・県の制度＋市独自の制度 <input type="checkbox"/> 市独自の制度 (法令・要綱等) 文化財保護法、博物館法、川崎市立日本民家園条例 ほか							
総合計画と連携する計画等	教育振興基本計画かわさき教育プラン第1期実施計画、文化芸術振興計画、文化財保護活用計画							
行財政改革プログラムに関連する課題名	改革項目			課題名				
予決算 (単位:千円)	年度	H27年度		H28年度		H29年度		
		予算額	決算額	予算額	決算額(見込)	計画事業費	予算額	決算額
	財源内訳	事業費 A	227,182	142,758	300,150	253,701	295,408	324,966
		国庫支出金	0	—	0	—	0	0
		市債	97,000	—	166,000	—	166,000	159,000
		その他特財	26,461	—	26,725	—	26,725	52,589
	一般財源	103,721	—	107,425	—	102,683	113,377	
人件費 [※] B			50,880	50,880	0	0	0	
総コスト(A+B)			351,030	304,581	295,408	324,966	0	
人工(単位:人)			6					

※ 人件費は、各年度の予算における職員1人当たり人件費に、各年度の人工を乗じて算出した参考値です。

計画 (Plan)

政策体系	政策	スポーツ・文化芸術を振興する
	施策	市民の文化芸術活動の振興
	直接目標	市内の文化芸術活動を推進し、一層市民に身近なものにする
事業の対象 (事業の対象となる人、物)	市民	
事業の目的 (対象をどのような状態にしたいか)	25件の古民家を適切に保存活用し、その魅力を発信します。	
事業の内容 (どういった業務内容で、どのような手段で実施しているか)	古民家を良好な状態で後世に伝えるための維持管理、屋根補強や耐震補強等の工事を行うとともに、古民家を活用した企画展、床上公開、体験講座等の各種教育普及事業を推進し、日本民家園の魅力向上を図ります。	
今年度の事業の取組内容 (具体的に今年度どのような活動をするのか)	①江戸時代の古民家の野外展示 ②伝統生活文化に関する企画展示及び各種講座等による教育普及事業の実施 ③50周年記念事業の準備 ④観光客の積極的誘致に向けた広報活動の充実 ⑤文化財建造物・民具などの保存・整備と調査研究、維持・補修 ⑥生田緑地における他美術館や博物館と連携した取組の推進	

実施結果 (Do)

上記「今年度の事業の取組内容」に対する達成度	3	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った					
取組内容の実績等 (上記「当該年度の取組内容」に対し、「数値等でより具体的に実績を示すことができる取組」、又は「未達成部分」若しくは「より達成できた部分」を記載)	目標どおり達成できました。 ①年間来園者数については、雨や台風などの天候の影響により、目標値を下回っています。 ②の50周年記念事業については、音声ガイドの導入や、記念写真集の製作、記念芸能公演や記念企画展の準備などを行いました。 ⑤については文化財建造物・民具などについての新規報告書を刊行しました。 ⑥については、青少年科学館と連携し、月見行事を行うなど、生田緑地における他の美術館や博物館等と連携を図りました。						
指標分類	数値で事業の実績・効果等を把握できる指標 (指標の説明)	目標・実績	H27年度	H28年度	H29年度	単位	
1	成果指標	年間来園者数	目標		125,000	138,000	人
		説明 日本民家園の年間来園者数	実績	118,887	116,053		
2			目標				
		説明	実績				
3			目標				
		説明	実績				
4			目標				
		説明	実績				

評価 (Check)

事業を取り巻く社会環境の変化 <small>(国・県・他団体の動向や法改正、規制緩和など)</small>	平成32年度のオリンピック・パラリンピックに向けて、各施設の事業の充実とともに魅力発信が求められています。
事業の見直し・改善内容	<input checked="" type="checkbox"/> 実施 (直近) H 25 年度 <input type="checkbox"/> 未実施
具体的な見直し・改善内容 <small>※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載</small>	H25年度: 効率的・効果的な管理運営と生田緑地のさらなる魅力発信のため、管理運営、広報業務に指定管理者制度を導入しました。

評価項目		評価	
必要性	【市民のニーズ】 事業を取り巻く環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか？	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	【市が実施する必要性】 他都市で、民間等でサービス提供している事例がないか？	a. ない b. ある	b
	評価の理由	日本有数の古民家の野外博物館としての特性や専門性の充実を図り、博物館活動を推進していくこと、計画的な古民家の補修等を行い、文化財の適切な保存・活用を図ることが求められています。さらに、平成32年度のオリンピック・パラリンピックに向けて、事業の充実とともに魅力発信が求められています。	
有効性	【成果】 活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか？	a. 上がっている b. 徐々に上がっている c. 上がっていない	b
	評価の理由	今年度の事業内容については、内容を充実させ、実施しております。入園者数は前年比でやや下回っていますが、野外博物館として、台風や雨、紅葉シーズンが短かったことなど天候の影響が大きかったと考えられます。	
効率性	【民間の活用】 委託や指定管理者制度など、実施手法について民間活用によりコストを削減できる余地があるか？	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	c
	【事業手法等の見直し】 事業の成果を維持しながら、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性はあるか？	a. 可能性はない b. 可能性はある	a
	【質の向上】 事業を適正な(過小でも、過大でもない)規模の人員体制・費用で行いながら、市民サービスや市役所内部(職員・組織)の質の向上を図ることができる余地があるか？	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	a
	評価の理由	すでに管理・広報業務に指定管理者制度を導入済みであり、成果を維持しながらの経費削減や、現状の規模における人員体制・費用でのサービス向上は困難です。	
施策への貢献度	貢献度区分 A. 貢献している B. やや貢献している C. 貢献の度合いが薄い	B	上記「有効性」の成果等を踏まえ左記区分を選んだ理由 成果指標である年間入園者数は前年度をやや下回りましたが、11万人を超える安定した利用者があること、また来園外国人の内訳がアジアを中心に広がりを見せていることから、一定程度の施策への貢献はありました。



改善 (Action)

今後の事業の方向性	方向性区分	実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性
I. 現状のまま継続 II. 改善しながら継続 III. 事業規模拡大 IV. 事業規模縮小 V. 事業廃止 VI. 事業終了	II	子どもや子ども連れの家族など、来園者の中でこれまで薄かった層へアピールするため、催し物のあり方を見直すとともに、増加する外国人来園者に対応するため、英・中・韓の音声ガイドの積極的な広報や、案内板・リーフレットなどの改善をしながら、事業を継続していきます。
今後の事業の方向性を踏まえた次年度の計画上の変更箇所	変更前 <small>(次年度計画上の記載)</small>	
	変更後 <small>(上記計画上の記載に対する変更点)</small>	
	変更の理由	

平成28年度 事務事業評価シート

事業の概要

事務事業	事務事業コード	事務事業名				実施計画の記載		
	40802110	青少年科学館管理運営事業				有		
担当	所属コード	所属名						
	882200	教育委員会事務局生涯学習部文化財課						
実施期間	事業開始年度	事業終了年度	事務・サービス等の分類	分類1(市民サービス等)	分類2(内部事務)			
	—	—		施設の管理・運営	その他			
実施形態	<input checked="" type="checkbox"/> 市が直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 全部委託・指定管理 <input checked="" type="checkbox"/> ボランティア等との協働 <input type="checkbox"/> その他							
実施根拠	<input type="checkbox"/> 国・県の制度 <input checked="" type="checkbox"/> 国・県の制度+市独自の制度 <input type="checkbox"/> 市独自の制度 (法令・要綱等) 博物館法、文化財保護法、川崎市青少年科学館条例 ほか							
総合計画と連携する計画等	教育振興基本計画かわさき教育プラン第1期実施計画、文化芸術振興計画、文化財保護活用計画							
行財政改革プログラムに関連する課題名	改革項目			課題名				
予決算 (単位:千円)	年度	H27年度		H28年度		H29年度		
		予算額	決算額	予算額	決算額(見込)	計画事業費	予算額	決算額
	財源内訳	事業費 A	108,022	106,067	117,036	115,255	117,036	117,807
		国庫支出金	0	-	0	-	0	0
		市債	0	-	0	-	0	7,000
		その他特財	26,723	-	27,415	-	27,415	27,398
	一般財源	81,299	-	89,621	-	89,621	83,409	
人件費* B			52,576	52,576	0	0	0	
総コスト(A+B)			169,612	167,831	117,036	117,807	0	
人工(単位:人)			6.2					

※ 人件費は、各年度の予算における職員1人当たり人件費に、各年度の人工を乗じて算出した参考値です。

計画 (Plan)

政策体系	政策 施策	スポーツ・文化芸術を振興する 市民の文化芸術活動の振興
	直接目標	市内の文化芸術活動を推進し、一層市民に身近なものにする
事業の対象 (事業の対象となる人、物)	市民	
事業の目的 (対象をどのような状態にしたいか)	市民の科学知識の普及啓発、科学教育の振興のため、天文・自然・科学の3つの柱を中心とした博物館事業を行います。	
事業の内容 (どういった業務内容で、どのような手段で実施しているか)	天文・自然・科学3分野の資料展示、プラネタリウムを活用した天文知識の普及啓発、自然観察教室や科学実験教室等の各種展示・普及啓発事業を推進するとともに、ボランティア、市民活動団体の育成・支援を行い、館の魅力向上を図ります。	
今年度の事業の取組内容 (具体的に今年度どのような活動をするのか)	①自然・天文・科学の3分野の資料展示 ②自然観察教室や実験教室など、体験を通じた教育普及の取組の推進 ③プラネタリウムを活用した天文知識の普及啓発の実施 ④ボランティア、市民活動団体等の育成・支援 ⑤生田緑地における他の美術館、博物館と連携した取組の推進	

実施結果 (Do)

上記「今年度の事業の取組内容」に対する達成度	3	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った				
取組内容の実績等 (上記「当該年度の取組内容」に対し、「数値等でより具体的に実績を示すことができる取組」、又は「未達成部分」若しくは「より達成できた部分」を記載)	目標どおり達成できました。 ①年間来館者数については、雨や台風などの天候の影響により、目標値を下回っています。 ②については幼児から大人まで幅広い年代に対応した新たな講座を実施しました。 ③についてはこども向けプラネタリウム番組制作教室や、専門家の講演による天文講演会を開催しました。 ⑤については日本民家園と連携し、「お月見」夜間開館を行うなど、生田緑地における他の美術館や博物館等と連携を図りました。					
指標分類	数値で事業の実績・効果等を把握できる指標 (指標の説明)	目標・実績	H27年度	H28年度	H29年度	単位
1 成果指標	年間来館者数	目標		305,000	305,000	人
	説明 青少年科学館の年間来館者数	実績	293,333	283,423		
2	説明	目標				
		実績				
3	説明	目標				
		実績				
4	説明	目標				
		実績				

評価 (Check)

事業を取り巻く社会環境の変化 (国・県・他団体の動向や法改正、規制緩和など)	平成32年度のオリンピック・パラリンピックに向けて、各施設の事業の充実とともに魅力発信が求められています。
事業の見直し・改善内容	<input checked="" type="checkbox"/> 実施 (直近) H 25 年度 <input type="checkbox"/> 未実施
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載	H25年度: 効率的・効果的な管理運営と生田緑地の更なる魅力発信のため、生田緑地及び緑地内3博物館施設の学芸業務を除く一体的管理運営、広報業務に指定管理者制度を導入しました。

評価項目		評価	
必要性	【市民のニーズ】 事業を取り巻く環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか?	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	【市が実施する必要性】 他都市で、民間等でサービス提供している事例がないか?	a. ない b. ある	b
	評価の理由	市内唯一の自然系登録博物館として、市内及び生田緑地の自然学習、最新鋭機器によるプラネタリウム投影、各種科学実験教室等、専門職員による継続した取組が必要です。	
有効性	【成果】 活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか?	a. 上がっている b. 徐々に上がっている c. 上がっていない	b
	評価の理由	週末の悪天候が続いたことなどにより、来館者数はやや減少していますが、プラネタリウム学習投影等の学校連携事業のほか、各種観察会、体験教室等の内容の充実が図られており、少しずつ成果が上がっていると考えられます。	
効率性	【民間の活用】 委託や指定管理者制度など、実施手法について民間活用によりコストを削減できる余地があるか?	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	c
	【事業手法等の見直し】 事業の成果を維持しながら、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性はあるか?	a. 可能性はない b. 可能性はある	a
	【質の向上】 事業を適正な(過小でも、過大でもない)規模の人員体制・費用で行いながら、市民サービスや市役所内部(職員・組織)の質の向上を図ることができる余地があるか?	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	a
	評価の理由	すでに管理運営、広報業務について指定管理者制度を導入済みであり、これ以上のコスト削減、事業手法の見直しを行いながら現状のサービス水準の確保や課題の解決を図ることや、更なるサービス・魅力向上を図ることは困難です。	
施策への貢献度	貢献度区分	上記「有効性」の成果等を踏まえ左記区分を選んだ理由	
	A. 貢献している B. やや貢献している C. 貢献の度合いが薄い	B	入場者数はやや減少しましたが、展示、各種教育普及活動の充実が図られており、市民の文化芸術活動の振興に寄与していることから、一定程度の施策への貢献はありました。



改善 (Action)

今後の事業の方向性	方向性区分		実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性
	I. 現状のまま継続 II. 改善しながら継続 III. 事業規模拡大 IV. 事業規模縮小 V. 事業廃止 VI. 事業終了	I	
今後の事業の方向性を踏まえた次年度の計画上の変更箇所	変更前 (次年度計画上の記載)		
	変更後 (上記計画上の記載に対する変更点)		
	変更の理由		

平成28年度 事務事業評価シート

事業の概要

事務事業	事務事業コード	事務事業名				実施計画の記載			
	40802120	アートセンター管理運営事業				有			
担当	所属コード	所属名							
	258000	市民文化局市民文化振興室							
実施期間	事業開始年度	事業終了年度	事務・サービス等の分類	分類1(市民サービス等)	分類2(内部事務)				
	—	—	施設の管理・運営	—					
実施形態	<input type="checkbox"/> 市が直接実施 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input checked="" type="checkbox"/> 全部委託・指定管理 <input type="checkbox"/> ボランティア等との協働 <input type="checkbox"/> その他								
実施根拠	<input type="checkbox"/> 国・県の制度 <input checked="" type="checkbox"/> 国・県の制度+市独自の制度 <input type="checkbox"/> 市独自の制度 (法令・要綱等) 文化芸術振興基本法、劇場、音楽堂等の活性化に関する法律、川崎市文化芸術振興条例、川崎市アートセンター条例、川崎市アートセンター条例施行規則								
総合計画と連携する計画等	資産マネジメントカルテ、文化芸術振興計画、シティプロモーション戦略プラン、新・かわさき観光振興プラン、男女平等推進行動計画								
行財政改革プログラムに関連する課題名	改革項目			課題名					
予決算 (単位:千円)	年度	H27年度		H28年度		H29年度			
		予算額	決算額	予算額	決算額(見込)	計画事業費	予算額	決算額	
	財源内訳	事業費 A		149,410	148,674	148,554	149,014	148,554	161,815
		国庫支出金	0	—	0	—	0	0	0
		市債	0	—	0	—	0	0	0
		その他特財	2	—	0	—	0	0	0
	一般財源	149,408	—	148,554	—	148,554	161,815	—	
人件費* B				424	424	0	0	0	
総コスト(A+B)				148,978	149,438	148,554	161,815	0	
人工(単位:人)				0.05					

※ 人件費は、各年度の予算における職員1人当たり人件費に、各年度の人工を乗じて算出した参考値です。

計画 (Plan)

政策体系	政策	スポーツ・文化芸術を振興する
	施策	市民の文化芸術活動の振興
	直接目標	市内の文化芸術活動を推進し、一層市民に身近なものにする
事業の対象 (事業の対象となる人、物)	市民	
事業の目的 (対象をどのような状態にしたいか)	芸術文化の創造、発信及び交流を促進するとともに、芸術文化の鑑賞機会を提供し、市民の芸術文化の発展に寄与します。	
事業の内容 (どういった業務内容で、どのような手段で実施しているか)	劇場(アルテリオ小劇場)と映像ホール(アルテリオ映像館)などの施設を活用し、芸術文化の創造・発信・交流を促進するための事業を行うとともに、情報の収集や提供、活動の支援等を行なっています。また、施設や設備を市民の利用に供し、芸術文化に係る施設や活動団体との連携を推進しています。	
今年度の事業の取組内容 (具体的に今年度どのような活動をするのか)	①小劇場や映像館を活用した芸術文化の鑑賞会等の開催(利用人数:83,000人以上) ②市民の芸術文化の創造や交流の促進に向けた各種研修やワークショップ等の実施 ③青少年の舞台芸術活動への支援の取り組みの推進 ④アーティストの育成・支援の取り組みの推進 ⑤新百合ヶ丘駅周辺の文化施設等との連携による取り組みの推進	

実施結果 (Do)

上記「今年度の事業の取組内容」に対する達成度	3	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った				
取組内容の実績等 (上記「当該年度の取組内容」に対し、「数値等でより具体的に実績を示すことができる取組」、又は「未達成部分」若しくは「より達成できた部分」を記載)	目標通り達成できました。 ①小劇場では196回公演を開催、映像館では130作品1,504回の上映を行い、小劇場の施設利用と映像館での映画上映事業の好調により87,390人の利用実績となりました。 ②映像・舞台芸術をテーマとした各種ワークショップを19回実施しました。 ③青少年の舞台芸術活動の支援については、ワークショップや稽古を重ねる青少年を含む市民参加型の地域劇団により5公演実施しました。					
指標分類	数値で事業の実績・効果等を把握できる指標 (指標の説明)	目標・実績	H27年度	H28年度	H29年度	単位
1 成果指標	小劇場や映像館を活用した芸術文化の鑑賞会等の開催による利用人数	目標		83,000	83,000	人
	説明 小劇場での公演等及び映像館での映画上映事業等における利用人数	実績	78,388	87,390		
2	説明	目標				
		実績				
3	説明	目標				
		実績				
4	説明	目標				
		実績				

評価 (Check)

事業を取り巻く社会環境の変化 <small>(国・県・他団体の動向や法改正、規制緩和など)</small>	東京オリンピック・パラリンピック開催に伴う文化プログラムの実施にあたって、文化施設を核とした魅力発信が求められています。
事業の見直し・改善内容	<input checked="" type="checkbox"/> 実施 (直近) H 27 年度 <input type="checkbox"/> 未実施
具体的な見直し・改善内容 <small>※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載</small>	平成19年度:開館当初から指定管理者制度を導入しています。 平成27年度:指定管理者との月1回の連絡調整会議に加え、施設管理の状況をより詳細に把握するため、平成28年1月から館長・副館長・総務担当者と市民文化振興室職員による月1回の定例会議を開始することでモニタリングを強化しました。

評価項目		評価	
必要性	【市民のニーズ】 事業を取り巻く環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか？	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	【市が実施する必要性】 他都市で、民間等でサービス提供している事例がないか？	a. ない b. ある	a
	評価の理由	東京オリンピック・パラリンピック開催に伴う文化プログラムの実施にあたって、誰もが文化芸術活動に親しめる環境づくりや、文化芸術活動による川崎の魅力発信に取り組む必要があります。	
有効性	【成果】 活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか？	a. 上がっている b. 徐々に上がっている c. 上がっていない	b
	評価の理由	小劇場の施設利用と映像館での映画上映事業の好調により成果指標を達成できましたが、引き続き指定管理者グループの強みを最大限に生かし、地域とのネットワーク等を図りながら効果的な事業を展開していく余地があります。	
効率性	【民間の活用】 委託や指定管理者制度など、実施手法について民間活用によりコストを削減できる余地があるか？	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	c
	【事業手法等の見直し】 事業の成果を維持しながら、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性はあるか？	a. 可能性はない b. 可能性はある	a
	【質の向上】 事業を適正な(過小でも、過大でもない)規模の人員体制・費用で行いながら、市民サービスや市役所内部(職員・組織)の質の向上を図ることができる余地があるか？	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	c
	評価の理由	指定管理者制度を活用し効率的な運営が行われています。	
施策への貢献度	貢献度区分	上記「有効性」の成果等を踏まえ左記区分を選んだ理由	
	A. 貢献している B. やや貢献している C. 貢献の度合いが薄い	A	芸術文化の創造・発信・交流を促進するため施設として、小劇場や映像館を活用した芸術文化の鑑賞会等の開催、ワークショップ事業の実施、青少年の舞台芸術活動への参加の支援等に取り組んだことで、市民が身近に芸術文化を鑑賞できる機会を提供できたとともに、文化芸術を通じた市民相互の交流機会を提供することができました。

改善 (Action)

今後の事業の方向性	方向性区分	実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性
I. 現状のまま継続 II. 改善しながら継続 III. 事業規模拡大 IV. 事業規模縮小 V. 事業廃止 VI. 事業終了	I	芸術文化の創造・発信・交流を促進するための施設として、指定管理者による効率的・効果的な運営をするとともに、引き続き指定管理者グループの強みを最大限に生かし、地域とのネットワーク等を図りながら効果的な事業を展開します。
今後の事業の方向性を踏まえた次年度の計画上の変更箇所	変更前 <small>(次年度計画上の記載)</small>	
	変更後 <small>(上記計画上の記載に対する変更点)</small>	
	変更の理由	

施策評価シート(第1期実施計画 中間評価)

1 施策の概要					
政策体系上の位置づけ	基本政策(1層)	活力と魅力あふれる力強い都市づくり			
	政策(2層)	スポーツ・文化芸術を振興する	計画当初値(H27年)	直近実績値(H28年度)	最終目標値(H37年)
	市民実感指標	① スポーツの盛んなまちだと思ふ市民の割合 ② 文化・芸術活動の盛んなまちだと思ふ市民の割合	47.6%	53.9%	55.0%
施策(3層)	施策コード	施策名			
	40803000	音楽や映像のまちづくりの推進			
担当	組織コード	所属名			
	258000	市民文化局市民文化振興室			
関係課					
施策の概要	<p>●市内には、フランチャイズオーケストラである東京交響楽団や2つの音楽大学、4つの市民オーケストラ、100を超える市民合唱団や企業の吹奏楽団などの多くの音楽資源があり、多彩な活動を行っています。市民一人ひとりが愛着と誇りを持てるまちづくりとまちのイメージアップに向けて、こうした多様な主体と連携しながら「音楽のまち・かわさき」の充実を図ることで、幅広い世代の市民が音楽を楽しめる環境づくりを進めます。</p> <p>●国際的評価が高く、「音楽のまち・かわさき」の中核的施設であるミューザ川崎シンフォニーホールでは、市民に良質な音楽の鑑賞の機会を提供するとともに、東京2020オリンピック・パラリンピックの開催も見据えて、その魅力を国内外に発信することで、更なる都市イメージの向上を図ります。</p> <p>●市内には4つのシネマコンプレックスのほか、映像スタジオや日本初の映画の単科大学があり、映像制作活動が盛んです。また、ドラマや映画のロケが市内各所で行われ、「撮る・創る・観る」ための環境に恵まれた「映像のまち」です。こうした映像資源のネットワークを活かし、映像文化の振興や映像産業の発展、次世代の映像文化の担い手の育成に取り組めます。</p>				
直接目標	音楽や映像を活用して、都市の魅力向上や地域の活性化につなげる				

2 成果指標やその他成果などの状況と成果の分析								
実施計画に位置付けた指標名(指標の説明)			現状値(年度)	目標・実績	H28年度	H29年度	単位	
成果指標	1	「音楽のまち」の環境が充実していると感じる人の割合	53.3	目標値①	54	55	%	
		指標の説明	H27	実績値②	54			
					達成率(②/①)	100.0%	-	↑
					指標達成度 ※1	a	-	増減
成果指標	2	ミューザ川崎シンフォニーホール主催・共催公演の入場者率	72	目標値①	72	73	%	
		指標の説明	H26	実績値②	73			
					達成率(②/①)	101.4%	-	↑
					指標達成度 ※1	a	-	増減
成果指標	3	「映像のまち」の取組を評価できる人の割合	18.4	目標値①	19	20	%	
		指標の説明	H27	実績値②	19.1			
					達成率(②/①)	100.5%	-	↑
					指標達成度 ※1	a	-	増減
4	指標の説明			目標値①				
				実績値②				
				達成率(②/①)				
				指標達成度 ※1				
その他数値で把握できる補足指標(指標の説明)				実績	H27年度	H28年度	H29年度	単位
1	かわさきジャズの入場者数	指標の説明	かわさきジャズの入場者数	実績	22,918	24,954		人
		指標の説明		実績				
その他定性的な成果(取組を進めたことで発現した効果などについて記載)		<p>●ミューザ川崎シンフォニーホールの取組が、音楽文化の振興と地域の活性化に貢献したとして、公立文化施設を顕彰する制度である平成28年度地域創造大賞(総務大臣賞)を受賞しました。</p> <p>●ロケ情報誌のロケーションジャパンが実施する第7回ロケーションジャパン大賞で、全国のロケ地の中から、映画「シン・ゴジラ」のロケ地として本市が部門賞(行楽部門)を受賞しました。</p>						
指標等の成果分析(指標の目標値達成を阻む外的要因等を含めて記載)		<p>●「音楽のまち」の環境が充実していると感じる人の割合について、目標値どおりの達成となっていることから、多様な主体と連携した「音楽のまち・かわさき」の取組が、市民に定着しつつあると考えます。</p> <p>●ミューザ川崎シンフォニーホール主催・共催公演の入場者率は、音楽のまちづくりの中核的施設として、目標値を達成したことから、多くの観客に魅力を発信し、都市イメージの向上に一定の成果があったと考えます。</p> <p>●本市も作品の舞台となった映画「シン・ゴジラ」の公開に併せ、市政だよりの特集記事を活用したPR、市内各地でのイベントの実施などにより「映像のまち」の取組を知ってもらいきっかけになったと考えます。</p>						

※1 指標達成度の目安【 a. 目標値以上(100%以上)、b. 現状値以上～目標値未満、c. 目標達成率60%以上～現状値未満、d. 目標達成率60%未満】

※2 指標達成度の目安【 a. 目標値以上(100%以上)、b. 個別設定値(「指標の説明」欄に記載)以上～目標値未満、c. 目標達成率60%以上～個別設定値未満、d. 目標達成率60%未満】

3 施策を構成する主な事務事業の評価

番号	事務事業コード 事務事業名	サービス分類	事務事業の概要 (簡潔に記載)	主な取組の実績	事業費(千円)		事業の達成度	施策への貢献度	今後の事業の方向性
					予算額	決算額			
					H27年度				
					H28年度(※決算額は見込) H29年度				
1	40803010 音楽のまちづくり推進事業	参加・協働の場	多様な活動団体等と協働・連携しながら、幅広い世代が身近に音楽を楽しめる環境づくりを進めることで、まちに音楽があふれ、市民のゆたかな心を育み、活力ある地域社会づくりを進めます。	<ul style="list-style-type: none"> ●「音楽のまち・かわさき」推進協議会による情報発信(HP掲載市内音楽イベント・コンサート年間件数2,216件) ●かわさきジャズの開催(11月11日から20日、入場者数24,954人) ●アジア交流音楽祭の開催(4月23・24日、入場者数75,000人) ●プラチナ音楽祭を平成28年9月3日に実施 ●東京交響楽団巡回公演を5回実施 ●坂本九魅力発信事業の実施(3月19日かわさき宙と緑の科学館) ●港町歌碑「港町十三番地」の歌碑を京浜急行電鉄と協働して適切に維持管理し魅力を発信 ●オーストリア・ザルツブルク市との交流促進に向けたコンサートを平成29年2月27日に実施 ●富川市友好都市提携20周年記念音楽文化交流事業を平成28年11月18日に実施 	94,420	83,984	3	A 貢献している	II 改善しながら継続
					84,900	79,207			
					81,036				
2	40803020 川崎シンフォニーホール管理運営事業	施設の管理・運営	海外著名オーケストラ、東京交響楽団によるコンサートなど良質な音楽鑑賞の機会を提供することで、市民の音楽活動の振興を図るため、「ミュージアム川崎シンフォニーホール」を運営します。	<ul style="list-style-type: none"> ●海外著名オーケストラ、東京交響楽団等による良質な音楽鑑賞の機会を提供しました。(入場者数97,220人) ●多彩な事業と地域連携による音楽文化の振興と地域の活性化に寄りました。 	1,185,090	1,135,149	3	A 貢献している	I 現状のままで継続
					1,061,629	1,047,185			
					1,103,863				
3	40803030 映像のまち・かわさき推進事業	参加・協働の場	「映像のまち・かわさき」推進フォーラム等と連携し、市民が映像に親しむ環境を創り、まちの魅力を発信します。	<ul style="list-style-type: none"> ●映像制作活動の支援は、新たな学校やワークショップでの取組を働きかけ、9か所から14か所へと増やすことができました。 ●映画「シン・ゴジラ」の公開に併せ、作品とタイアップしたPRイベントを市内の多様な団体と連携し数多く実施、多数のメディアにも取り上げられ、市全域での盛り上がりにつながりました。 	36,968	36,497	3	A 貢献している	I 現状のままで継続
					34,186	33,866			
					32,808				
4									
5									

4 施策の進捗状況

施策の進捗状況 (指標等の成果を中心に施策を構成する事務事業の評価等から総合的に評価)	区分	選択区分	進捗状況区分を選択した理由
	<ul style="list-style-type: none"> A. 順調に推移(目標達成している) B. 一定の進捗がある(目標達成に向けて進捗している) C. 進捗が遅れている(目標達成が遅れる可能性がある) D. 進捗は大幅に遅れている(目標達成が難しい可能性がある) 	A	<ul style="list-style-type: none"> ●各成果指標は目標を達成しており、配下の事務事業についても一部の活動指標を除き、概ね目標を達成しています。 ●音楽のまちづくり推進事業については、アジア交流音楽祭において会場数の減少により入場数が目標数を下回ったものの、かわさきジャズやプラチナ音楽祭の入場者数が目標を上回ったことや、「音楽のまち・かわさき」推進協議会HPへの情報掲載件数・東京交響楽団市内巡回コンサート開催件数がほぼ目標通りの実績となっていることから、一定の進捗がありました。 ●ミュージアム川崎シンフォニーホール全体の取組は、掲げた目標どおりに進捗しています。 ●本市のロケを取り巻く環境の変化によりロケ支援数の減少は見られるものの、「映像のまち・かわさき」推進フォーラムの組織が効果的に機能し、映像関係の取組の推進がこれまでに以上に容易になっています。

5 今後の方向性

今後の事業構成の妥当性 (手段は妥当か?)	区分	選択区分	「事業構成の妥当性を選択した理由」及び「今後の方向性」
	<ul style="list-style-type: none"> I. 効果的な事業構成である(現状のまま継続する) II. 概ね効果的な構成である(一部見直し等の余地がある) III. あまり効果的な事業構成でない(見直し等の余地が大きい) IV. 事業構成に問題がある(抜本的な見直し等が必要である) 	II	<ul style="list-style-type: none"> ●各成果指標は達成しているため、現在の事業構成は概ね効果的であると考えられますが、目標を下回ったイベントへの個別の取組や、ロケ誘致環境の変化、ミュージアム川崎シンフォニーホールの魅力の維持等の課題に対応するため、一部の事業の見直しを行いつつ、音楽・映像のまちづくりを推進していきます。

平成28年度 事務事業評価シート

事業の概要

事務事業	事務事業コード	事務事業名				実施計画の記載		
	40803010	音楽のまちづくり推進事業				有		
担当	所属コード	所属名						
	258000	市民文化局市民文化振興室						
実施期間	事業開始年度	事業終了年度	事務・サービス等の分類	分類1(市民サービス等)	分類2(内部事務)			
	—	—	イベント等	—				
実施形態	<input checked="" type="checkbox"/> 市が直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input checked="" type="checkbox"/> 全部委託・指定管理 <input checked="" type="checkbox"/> ボランティア等との協働 <input type="checkbox"/> その他							
実施根拠	<input type="checkbox"/> 国・県の制度 <input checked="" type="checkbox"/> 国・県の制度+市独自の制度 <input type="checkbox"/> 市独自の制度 (法令・要綱等) 文化芸術振興基本法、川崎市文化芸術振興条例							
総合計画と連携する計画等	国際施策推進プラン、まち・ひと・しごと創生総合戦略、文化芸術振興計画、シティプロモーション戦略プラン、新・かわさき観光振興プラン、男女平等推進行動計画							
行財政改革プログラムに関連する課題名	改革項目			課題名				
	1(1) 多様な主体が共に担うまちづくりの推進			5 「音楽のまち・かわさき」推進協議会及び「映像のまち・かわさき」推進フォーラム」の機能強化に向けた取組				
3(4) 地域人材の発掘・育成			2 文化イベントを通じた地域人材の育成					
予決算 (単位:千円)	年度	H27年度		H28年度		H29年度		
		予算額	決算額	予算額	決算額(見込)	計画事業費	予算額	決算額
	財源内訳	事業費 A	94,420	83,984	84,900	79,207	84,900	81,036
		国庫支出金	22,875	—	20,150	—	20,150	18,200
		市債	0	—	0	—	0	0
		その他特財	0	—	440	—	440	140
	一般財源	71,545	—	64,310	—	64,310	62,696	
人件費* B			27,475	27,475	0	0	0	
総コスト(A+B)			112,375	106,682	84,900	81,036	0	
人工(単位:人)			3.24					

※ 人件費は、各年度の予算における職員1人当たり人件費に、各年度の人工を乗じて算出した参考値です。

計画(Plan)

政策体系	政策	スポーツ・文化芸術を振興する
	施策	音楽や映像のまちづくりの推進
	直接目標	音楽や映像を活用して、都市の魅力向上や地域の活性化につなげる
事業の対象 (事業の対象となる人、物)	市民や文化団体など	
事業の目的 (対象をどのような状態にしたいか)	幅広い世代の市民が音楽を通じて、心の豊かさを実感することや、音楽により地域社会の活力や地域ブランドが向上することで、地域に愛着と誇りを持てるようになります。	
事業の内容 (どういった業務内容で、どのような手段で実施しているか)	地域活性化、イメージアップを図るため、多様な活動団体と連携・協働しながら、幅広い世代の市民が身近に音楽を楽しめる環境づくりを行うとともに、魅力ある音楽事業の実施及び開催の支援を行ないます。	
今年度の事業の取組内容 (具体的に今年度どのような活動をするのか)	①「音楽のまち・かわさき」推進協議会への支援 ②かわさきジャズの開催(入場者数22,000人以上) ③アジア交流音楽祭の開催(入場者数:80,000人以上) ④プラチナ音楽祭の開催(入場者数:2,000人以上) ⑤東京交響楽団巡回コンサートの開催(5回) ⑥坂本九魅力発信事業の実施 ⑦港町歌碑「港町十三番地」を活用した魅力発信の取組の推進 ⑧オーストリア・ザルツブルク市との若手演奏家の交流促進に向けたコンサートの開催 ⑨韓国・富川市友好都市提携20周年記念音楽文化交流事業の実施	

実施結果(Do)

上記「今年度の事業の取組内容」に対する達成度	3	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った				
取組内容の実績等 (上記「当該年度の取組内容」に対し、「数値等でより具体的に実績を示すことができる取組」、又は「未達成部分」若しくは「より達成できた部分」を記載)	目標どおり達成できました。 ①の「音楽のまち・かわさき」推進協議会HP掲載市内音楽イベント・コンサート年間件数については2,216件でした。 ②のかわさきジャズを11月11日から20日まで開催、入場者数については24,954人 ③のアジア交流音楽祭を4月23・24日に開催、入場者数については75,000人 ④のプラチナ音楽祭を9月3日に実施しました。 ⑤の東京交響楽団巡回公演を5回実施しました。 ⑥の坂本九魅力発信事業について3月19日にかわさき宙と緑の科学館においてトーク&ライブを実施しました。 ⑦港町歌碑「港町十三番地」の歌碑を京浜急行電鉄と協働して適切に維持管理し魅力を発信しました。 ⑧のオーストリア・ザルツブルク市との交流促進に向けたコンサートを2月27日に実施しました。 ⑨の富川市友好都市提携20周年記念音楽文化交流事業を11月18日に実施しました。					
指標分類	数値で事業の実績・効果等を把握できる指標 (指標の説明)	目標・実績	H27年度	H28年度	H29年度	単位
1 成果指標	かわさきジャズの入場者数	目標		22,000	22,000	人
	説明 かわさきジャズの入場者数	実績	22,918	24,954		
2 成果指標	アジア交流音楽祭の入場者数	目標		80,000	80,000	人
	説明 アジア交流音楽祭の入場者数	実績	80,000	75,000		

3	成果指標	プラチナ音楽祭の入場者数		目標	2,000	2,000	人
		説明	プラチナ音楽祭の参加者及び観覧者の合計。	実績	2,000	2,100	
4	活動指標	東京交響楽団市内巡回コンサート開催回数		目標	5	5	回
		説明	ミューザ川崎シンフォニーホールを本拠地に活動している東京交響楽団が、児童、障害者、高齢者、病院等の各施設に向き、良質な音楽を提供するコンサート。	実績	5	5	
5	成果指標	「音楽のまち・かわさき」推進協議会HP掲載市内音楽イベント・コンサート年間件数		目標	2,255	2,300	件
		説明	ホームページに掲載された、市内の音楽イベント・コンサート(有料・無料含む)の年間件数	実績	2,216	2,216	

評価 (Check)			
事業を取り巻く社会環境の変化 (国・県・他団体の動向や法改正、規制緩和など)		音楽を活かしたまちづくりが定着する中、更なる推進や裾野の拡大に向けて、運営方法の見直しや関係機関・部署等との連携強化が求められています。	
事業の見直し・改善内容		<input checked="" type="checkbox"/> 実施 (直近) H 27 年度 <input type="checkbox"/> 未実施	
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載		H27年度: ①多様なコミュニティの出会いと交流の場の創出、音楽鑑賞機会の提供、地域資源活用を趣旨とした「かわさきジャズ」を初開催しました。 ②「アジア交流音楽祭」の運営体制を見直しました。 ③プラチナ音楽祭に受益者負担を導入しました。	
評価項目		評価	
必要性	【市民のニーズ】 事業を取り巻く環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか?	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	【市が実施する必要性】 他都市で、民間等でサービス提供している事例がないか?	a. ない b. ある	a
評価の理由		音楽を活かしたまちづくりが定着しつつありますが、民間も含めた多様な主体と連携しながら更なる充実を図ることにより、幅広い世代の市民が音楽を楽しめる環境づくりが進み、心豊かな活力ある地域社会の実現や都市ブランドの向上へとつながるため。	
有効性	【成果】 活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか?	a. 上がっている b. 徐々に上がっている c. 上がっていない	b
	評価の理由	成果指標は目標値をほぼ達成しています。プラチナ音楽祭の効果をより高めるため市内団体等との連携・協働の促進が必要と考えています。	
効率性	【民間の活用】 委託や指定管理者制度など、実施手法について民間活用によりコストを削減できる余地があるか?	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	a
	【事業手法等の見直し】 事業の成果を維持しながら、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性があるか?	a. 可能性はない b. 可能性はある	b
	【質の向上】 事業を適正な(過小でも、過大でもない)規模の人員体制・費用で行いながら、市民サービスや市役所内部(職員・組織)の質の向上を図ることができる余地があるか?	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	b
評価の理由		かわさきジャズについては運営体制を見直すことにより、質の向上及び効果的な開催への改善の余地があると考えます。また、プラチナ音楽祭は更なる財源調達とコスト削減の余地があると考えています。	
施策への貢献度	貢献度区分		上記「有効性」の成果等を踏まえ左記区分を選んだ理由
	A. 貢献している B. やや貢献している C. 貢献の度合いが薄い	A	アジア交流音楽祭では会場の見直しにより目標入場者数に届かなかったものの多様な主体との連携が深まり、地域連携プログラムが拡大したかわさきジャズやプラチナ音楽祭では目標入場者数を上回ったこと、他の事業についても目標どおりの達成となったことから、音楽をとおした交流やまちの賑わい、うるおいを創出したことから、「音楽のまち」の充実につながり、施策に貢献していると考えます。



改善 (Action)			
今後の事業の方向性	方向性区分		実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性
	I. 現状のまま継続 II. 改善しながら継続 III. 事業規模拡大 IV. 事業規模縮小 V. 事業廃止 VI. 事業終了	II	かわさきジャズやプラチナ音楽祭については目標を上回っており施策へも貢献していますが、運営体制や開催手法については改善の余地があります。また、「音楽のまち・かわさき」推進協議会への支援についても、情報発信の手法について改善と充実を図る必要があります。各事業において改善を図りながら、今後も多様な主体との連携を強化し、幅広い世代の市民が音楽を楽しめる環境づくりを推進することで、心豊かな活力ある地域社会を実現し、魅力を発信していきます。
今後の事業の方向性を踏まえた次年度の計画上の変更箇所	変更前 (次年度計画上の記載)		
	変更後 (上記計画上の記載に対する変更点)		
	変更の理由		

平成28年度 事務事業評価シート

事業の概要

事務事業	事務事業コード	事務事業名				実施計画の記載				
	40803020	川崎シンフォニーホール管理運営事業				有				
担当	所属コード	所属名								
	258000	市民文化局市民文化振興室								
実施期間	事業開始年度	事業終了年度	事務・サービス等の分類	分類1(市民サービス等)	分類2(内部事務)					
	—	—	施設の管理・運営		—					
実施形態	<input checked="" type="checkbox"/> 市が直接実施 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input checked="" type="checkbox"/> 全部委託・指定管理 <input type="checkbox"/> ボランティア等との協働 <input type="checkbox"/> その他									
実施根拠	<input type="checkbox"/> 国・県の制度 <input checked="" type="checkbox"/> 国・県の制度+市独自の制度 <input type="checkbox"/> 市独自の制度 (法令・要綱等) 文化芸術振興基本法、劇場、音楽堂等の活性化に関する法律、川崎市文化芸術振興条例、川崎シンフォニーホール条例									
総合計画と連携する計画等	国際施策推進プラン、まち・ひと・しごと創生総合戦略、資産マネジメントカルテ、文化芸術振興計画、シティプロモーション戦略プラン、新・かわさき観光振興プラン、男女平等推進行動計画									
行財政改革プログラムに関連する課題名	改革項目			課題名						
予決算 (単位:千円)	年度	H27年度		H28年度		H29年度				
		予算額	決算額	予算額	決算額(見込)	計画事業費	予算額	決算額		
	財源内訳	事業費 A		1,185,090	1,135,149	1,061,629	1,047,185	1,160,641	1,103,863	
		国庫支出金	0	—	0	—	0	0		
		市債	0	—	0	—	40,000	37,000		
		その他特財	30,846	—	35,257	—	35,257	35,676		
	一般財源	1,154,244	—	1,026,372	—	1,085,384	1,031,187			
人件費* B				9,328	9,328	0	0	0		
総コスト(A+B)				1,070,957	1,056,513	1,160,641	1,103,863	0		
人工(単位:人)				1.1						

※ 人件費は、各年度の予算における職員1人当たり人件費に、各年度の人工を乗じて算出した参考値です。

計画 (Plan)

政策体系	政策	スポーツ・文化芸術を振興する
	施策	音楽や映像のまちづくりの推進
	直接目標	音楽や映像を活用して、都市の魅力向上や地域の活性化につなげる
事業の対象 (事業の対象となる人、物)	市民	
事業の目的 (対象をどのような状態にしたいか)	音楽のまちづくりの中核的施設として、良質な音楽を提供するとともに、その魅力を国内外に発信することで都市イメージの向上を図ります。	
事業の内容 (どういった業務内容で、どのような手段で実施しているか)	海外著名オーケストラや東京交響楽団によるコンサートを開催するなど、良質な音楽の鑑賞機会の提供、市民の晴れの舞台としての演奏会の開催、音楽ホールの魅力を高め、周辺施設との連携により魅力的なまちづくりに貢献する事業を実施します。	
今年度の事業の取組内容 (具体的に今年度どのような活動をするのか)	①オーケストラ等による音楽の鑑賞機会の提供(主催・共催公演来場者数100,000人以上) ②子どもから大人までが気軽に音楽に興味を持てるコンサートの開催 ③本市のイメージアップに向けたミュージアム・ザ川崎シンフォニーホールの国内外への発信の取組 ④ホール設備等の大規模修繕の内容検討	

実施結果 (Do)

上記「今年度の事業の取組内容」に対する達成度	3	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った							
取組内容の実績等 (上記「当該年度の取組内容」に対し、「数値等でより具体的に実績を示すことができる取組」、又は「未達成部分」若しくは「より達成できた部分」を記載)	音楽ホール公演については、主催事業ではフェスタサマーミュージアムをはじめ、クラシック音楽を中心に87公演を実施し、共催事業ではフランチャイズ・オーケストラである東京交響楽団との共催である「名曲全集」を中心に17公演を実施しました。その結果、ミュージアム・ザ川崎シンフォニーホール全体の入場者率・入場者数は概ね目標を達成しています。また、ミュージアム・ザ川崎シンフォニーホールの取組が、音楽文化の振興と地域の活性化に貢献したとして、公立文化施設を顕彰する制度である平成28年度地域創造大賞(総務大臣賞)を受賞しました。								
指標分類	数値で事業の実績・効果等を把握できる指標 (指標の説明)				目標・実績	H27年度	H28年度	H29年度	単位
1 成果指標	ミュージアム・ザ川崎シンフォニーホール主催・共催公演の入場者率				目標		72	73	%
	説明	音楽ホールで行う主催・共催公演の定員数に対する入場者数の割合で、入場者が入れ替わる(入退場自由)の公演は対象から除いています。			実績	72	73		
2 成果指標	ミュージアム・ザ川崎シンフォニーホール主催・共催公演の入場者数				目標		100,000	100,000	人
	説明	音楽ホールで行う主催・共催公演の入場者数。			実績	99,258	97,220		
3					目標				
	説明				実績				
4					目標				
	説明				実績				

評価 (Check)

事業を取り巻く社会環境の変化 (国・県・他団体の動向や法改正、規制緩和など)	東京オリンピック・パラリンピック開催に伴う文化プログラムの実施にあたって、文化施設を核とした魅力発信が求められています。
事業の見直し・改善内容	<input checked="" type="checkbox"/> 実施 (直近) H 27 年度 <input type="checkbox"/> 未実施
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載	H27年度: 第3期指定管理期間の仕様見直しにより指定管理料を削減するとともに、指定管理者へのモニタリングを強化しました。

評価項目		評価	
必要性	【市民のニーズ】 事業を取り巻く環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか？	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	【市が実施する必要性】 他都市で、民間等でサービス提供している事例がないか？	a. ない b. ある	a
	評価の理由	良質な音楽の鑑賞機会の提供、市民の晴れの舞台としての演奏会の開催、周辺施設との連携のほか、東京オリンピック・パラリンピックに向けて音楽ホールの魅力を高める取組を引き続き行う必要があります。	
有効性	【成果】 活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか？	a. 上がっている b. 徐々に上がっている c. 上がっていない	b
	評価の理由	フェスタサマーミュージザの入場者数が若干減少したものの、ミュージザ川崎シンフォニーホールの入場者率・入場者数は順調に推移しています。	
効率性	【民間の活用】 委託や指定管理者制度など、実施手法について民間活用によりコストを削減できる余地があるか？	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	c
	【事業手法等の見直し】 事業の成果を維持しながら、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性はあるか？	a. 可能性はない b. 可能性はある	b
	【質の向上】 事業を適正な(過小でも、過大でもない)規模の人員体制・費用で行いながら、市民サービスや市役所内部(職員・組織)の質の向上を図ることができる余地があるか？	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	c
	評価の理由	フェスタサマーミュージザの事業内容について指定管理者と協議しながら適切な実施が出来るよう検討の余地があります。	
施策への貢献度	貢献度区分	上記「有効性」の成果等を踏まえ左記区分を選んだ理由	
	A. 貢献している B. やや貢献している C. 貢献の度合いが薄い	A	ミュージザ川崎シンフォニーホールは、音楽のまちづくりの中核的施設として、入場者率・入場者数が目標値に達したことで、市内の音楽文化振興に寄与しました。

改善 (Action)

今後の事業の方向性	方向性区分	実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性
今後の事業の方向性	I. 現状のまま継続 II. 改善しながら継続 III. 事業規模拡大 IV. 事業規模縮小 V. 事業廃止 VI. 事業終了	I ミュージザ川崎シンフォニーホールの舞台設備等の大規模修繕を平成30年度に計画しているため、適正な修繕に向けた関係部署との調整や、修繕中の休館に伴う指定管理料の見直しが必要となります。
今後の事業の方向性を踏まえた次年度の計画上の変更箇所	変更前 (次年度計画上の記載)	
	変更後 (上記計画上の記載に対する変更点)	
	変更の理由	

平成28年度 事務事業評価シート

事業の概要									
事務事業	事務事業コード	事務事業名					実施計画の記載		
	40803030	映像のまち・かわさき推進事業					有		
担当	所属コード	所属名							
	258000	市民文化局市民文化振興室							
実施期間	事業開始年度	事業終了年度	事務・サービス等の分類	分類1(市民サービス等)	分類2(内部事務)				
	—	—		イベント等	—				
実施形態	<input checked="" type="checkbox"/> 市が直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 全部委託・指定管理 <input checked="" type="checkbox"/> ボランティア等との協働 <input type="checkbox"/> その他								
実施根拠	<input type="checkbox"/> 国・県の制度 <input checked="" type="checkbox"/> 国・県の制度+市独自の制度 <input type="checkbox"/> 市独自の制度 (法令・要綱等) 文化芸術振興基本法、川崎市文化芸術振興条例								
総合計画と連携する計画等	国際施策推進プラン、まち・ひと・しごと創生総合戦略、文化芸術振興計画、シティプロモーション戦略プラン、新・かわさき観光振興プラン								
行財政改革に関する計画上の関連する課題名	改革項目			課題名					
	3(4) 地域人材の発掘・育成			2 文化イベントを通じた地域人材の育成					
	1(1) 多様な主体が共に担うまちづくりの推進			5 「音楽のまち・かわさき」推進協議会」及び「映像のまち・かわさき」推進フォーラム」の機能強化に向けた取組					
予決算 (単位: 千円)	年度	H27年度		H28年度		H29年度			
		予算額	決算額	予算額	決算額(見込)	計画事業費	予算額	決算額	
	財源内訳	事業費 A		36,968	36,497	34,186	33,866	33,842	32,808
		国庫支出金	0	-	0	-	0	0	
		市債	0	-	0	-	0	0	
		その他特財	3,250	-	2,665	-	2,665	2,080	
	一般財源	33,718	-	31,521	-	31,177	30,728		
人件費[※] B				0	0	0	0		
総コスト(A+B)				34,186	33,866	33,842	32,808		
人工(単位: 人)									

※ 人件費は、各年度の予算における職員1人当たり人件費に、各年度の人工を乗じて算出した参考値です。

計画 (Plan)		
政策体系	政策	スポーツ・文化芸術を振興する
	施策	音楽や映像のまちづくりの推進
	直接目標	音楽や映像を活用して、都市の魅力向上や地域の活性化につなげる
事業の対象 (事業の対象となる人、物)	市民	
事業の目的 (対象をどのような状態にしたいか)	多くの市民が映像に親しむ環境を創り、まちの魅力を発信することで、地域に愛着と誇りを持てるようになります。	
事業の内容 (どのような業務内容で、どのような手段で実施しているか)	「映像のまち・かわさき」推進フォーラム等と連携しながら、映像関連イベントや「KAWASAKIしんゆり映画祭」の開催、ロケ誘致などの取組を実施します。	
今年度の事業の取組内容 (具体的に今年度どのような活動をするのか)	①「映像のまち・かわさき」推進フォーラムの活動支援 ②毎日映画コンクール表彰式の川崎開催の支援 ③「KAWASAKIしんゆり映画祭」開催 ④教育現場及び地域における映像制作活動の支援 ⑤ロケ誘致活動の実施 ⑥地域映像のアーカイブ化の実施	

実施結果 (Do)								
上記「今年度の事業の取組内容」に対する達成度		3	1. 目標を大きく上回って達成	4. 目標を下回った				
			2. 目標を上回って達成	5. 目標を大きく下回った				
			3. ほぼ目標どおり					
取組内容の実績等 (上記「当該年度の取組内容」に対し、「数値等により具体的に実績を示すことができる取組」、又は「未達成部分」若しくは「より達成できた部分」を記載)		①「映像のまち・かわさき」フェスティバル等では経済労働局や映像関係のベンチャー企業との連携ほか内容の拡充を図りました。 ②2月15日に開催された毎日映画コンクール表彰式の川崎開催を支援しました。 ③「KAWASAKIしんゆり映画祭」は11月5日～13日まで開催、入場者数は2,532人でした。 ④映像制作活動の支援は、新たな学校やワークショップでの取組を働きかけ、9か所から14か所へと増やすことができました。 ⑤ロケ支援数は本庁舎の解体などにより伸びなかったものの、映画「シン・ゴジラ」の公開に併せ、作品とタイアップしたPR・イベントを市内の多様な団体と連携し数多く実施、多数のメディアにも取り上げられ、市全域での盛り上がりにつなげました。 ⑥地域映像のアーカイブ化に向け、アーカイブ映像を視聴できるサイトを新たに制作・公開しました。						
指標分類	数値で事業の実績・効果等を把握できる指標 (指標の説明)			目標・実績	H27年度	H28年度	H29年度	単位
1	活動指標	ロケ支援件数		目標	/	170	170	件
		説明	市の施設におけるロケ件数		実績	155	117	
2	成果指標	「KAWASAKIしんゆり映画祭」の来場者数		目標	/	2,445	2,500	人
		説明	川崎市アートセンターで開催する「KAWASAKIしんゆり映画祭」の開催期間中の来場者数の合計		実績	2,445	2,532	
3	説明			目標	/			
				実績				
4	説明			目標	/			
				実績				

評価 (Check)			
事業を取り巻く社会環境の変化 (国・県・他団体の動向や法改正、規制緩和など)	地域の記録映像について、特にフィルムの経年劣化や記録媒体の目まぐるしい変化などにより失われつつあることから、本市の記録映像の収集・保存作業を行い、まちの記憶を残していくことが求められています。		
事業の見直し・改善内容	<input checked="" type="checkbox"/> 実施 (直近) H 27 年度 <input type="checkbox"/> 未実施 具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載 H27年度:地域映像のアーカイブ化に向け、庁内資料の保有調査・実施手法の検討を行い、H28年度から着手できるようにしました。		
評価項目		評価	
必要性	【市民のニーズ】 事業を取り巻く環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	【市が実施する必要性】 他都市で、民間等でサービス提供している事例がない	a. ない b. ある	a
	評価の理由	多くの市民が映像に親しむ環境を創り、まちの魅力を発信することで、都市ブランドの向上や地域の盛り上げにつながるためです。	
有効性	【成果】 活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか	a. 上がっている b. 徐々に上がっている c. 上がっていない	c
	評価の理由	ロケ支援については、コンテンツの内容や質によりその成果が左右される傾向にあり、活動指標の数値だけでは測れない部分があるからです。	
効率性	【民間の活用】 委託や指定管理者制度など、実施手法について民間活用によりコストを削減できる余地がある	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	a
	【事業手法等の見直し】 事業の成果を維持しながら、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性がある	a. 可能性はない b. 可能性はある	b
	【質の向上】 事業を適正な(過小でも、過大でもない)規模の人員体制・費用で行いながら、市民サービスや市役所内部(職員・組織)の質の向上を図ることができる余地がある	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	b
	評価の理由	すでに「映像のまち・かわさき」推進フォーラムを構成する団体をはじめ様々な団体との連携、事業者への委託により効率化を図っていますが、全国的なロケツーリズムの取組を進める団体との連携などにより、更なる事務改善の余地があります。	
施策への貢献度	貢献度区分	上記「有効性」の成果等を踏まえ左記区分を選んだ理由	
	A. 貢献している B. やや貢献している C. 貢献の度合いが薄い	A	映像制作支援による子どもたちへの教育的効果、ロケ支援による都市イメージの効果的な発信、映像関連イベントを通じた地域活性化をはじめ、映像を活かした取組は幅広い場面で、様々な効果が見られ、都市の多様な魅力を構成する事業として、施策へ大きく貢献していると考えます。



改善 (Action)			
今後の事業の方向性	方向性区分	実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性	
	I. 現状のまま継続 II. 改善しながら継続 III. 事業規模拡大 IV. 事業規模縮小 V. 事業廃止 VI. 事業終了	I	映像によるまちづくりの取組については、市内の多様な映像資源の連携により、映像というコンテンツを活かした地域活性化が進むなど、着実に効果が出ているため、社会経済環境の大幅な変化がない限り、関係団体の協力や理解を得て、より効果的な取組手法の検討・実施を図りながら、現状の事業を継続します。